

琵琶湖博物館業績目録

13号

2008年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

琵琶湖博物館業績目録

第 13 号

2008 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2009 年 8 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 13

From April 2008 to March 2009

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: SATOGUCHI, Yasufumi)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, august 2009

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長	
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya 5
上席総括学芸員	
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo 9
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo 16
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi 19
環境史研究担当	
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi 23
用田 政晴	YODA, Masaharu 27
山川千代美	YAMAKAWA, Chiyomi 30
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori 33
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi 36
宮本 真二	MIYAMOTO, Shinji 39
老 文子	OI, Fumiko 43
生態系研究担当	
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark J. 46
小川 雅広	OGAWA, Masahiro 52
松田 征也	MATSUDA, Masanari 54
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki 59
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro 62
亀田佳代子	KAMEDA, Kayoko 66
牧野 厚史	MAKINO, Atsushi 70
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki 73
臼井 学	USUI, Manabu 76
西村 知記	NISHIMURA, Tomoki 78
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo 80
中井 克樹	NAKAI, Katsuki 83
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke 83
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro 92
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James 95
磯田 能年	ISODA, Takane 98
楊 平	YANG, Ping 100
博物館学研究担当	
秋山 廣光	AKIYAMA, Hiromitsu 103
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi 109

戸田 孝	TODA, Takashi	113
芦谷美奈子	ASHIYA, Minako	116
中藤 容子	NAKATO, Yoko	118
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	123
飯住 達也	IIZUMI, Tatsuya	127
嘱託職員等		
山形(太田) 佳恵	YAMAGATA, Yoshie	130
山田 陽子	YAMADA, Yoko	133
藤岡 千裕	FUJIOKA, Tihiro	134
角野 真梨	KAKUNO, Mari	135
特別研究員		
青木 伸子	AOKI, Nobuko	136
天野 一葉	AMANO, Hitoha	137
植田 文雄	UEDA, Fumio	138
上中 央子	UENAKA, Hisako	139
大西 拓	ONISHI, Taku	140
北村 美香	KITAMURA, Mika	141
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	143
中井 大介	NAKAI, Daisuke	145
中尾 博行	NAKAO, Hiroyuki	147
野嶋 宏二	NOJIMA, Koji	149
水野 敏明	MIZUNO, Toshiaki	150
総合研究・共同研究による印刷物		152
2008 年度の研究活動をふりかえって		153

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2008年4月から2009年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【展示活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動

- 【企画調整活動】
- 【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

- 【館内の人事】
- 【海外渡航】
- 【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉 (2008) 人と自然の新しい関わりを求めてー琵琶湖博物館と地域社会ー. 長野大学環境ツーリズム学部 編, 長野大学環境ツーリズム学部開設記念シンポジウムー環境と観光が拓く地域の未来ー, 長野大学, 長野: 6-17.
- 川那部浩哉・丸山美和・丸山哲也 (2008) Memento Mori ー先輩から後輩へ託す心の声ー川那部浩哉さん. *Wildlife Forumー野生生物 井戸端会議ー*, 13 (1), 野生生物保護学会, 東京: 4-9.
- 川那部浩哉 (2008) 「フェアブルにまなぶ」展に寄せてー「むし」を中心に考える. 1, *産経新聞*: 2008年7月16日.
- 川那部浩哉 (2008) はじめに. 川那部浩哉 監修・高橋啓一, *琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「化石は語るーゾウ化石でたどる日本の動物相」*, 八坂書房, 東京: 5-7.
- 川那部浩哉 (2008) ごあいさつ. *琵琶湖博物館年報*, 12: 1.
- 川那部浩哉・亀澤玲治・永田 俊・川島良彰・高橋 潔・加藤辰巳ほか (2008) 主な質疑応答. 地球環境関西フォーラム 編, *琵琶湖ビジネスメッセ2007地球環境関西フォーラムセミナーー持続可能社会の実現に向けた生物多様性保全について考えるー*, 地球環境関西フォーラム, 大阪: 32-45.
- 川那部浩哉 (2008) 自然名家・衷心推薦. 奥本大三郎・今森光彦 著、張東君 譯, *来自昆蟲記的呼喚*, 遠流出版, 臺北: 10.
- 川那部浩哉 (2008) はじめに. 川那部浩哉 監修・八尋克郎, *琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシー飛ぶことを忘れた虫の魅惑ー」*, 八坂書房, 東京: 5-7.
- 川那部浩哉 (2008) いのちと川のシンポジウム. *潮*, 2008 (11), 潮出版社, 東京: 53-55.
- 川那部浩哉 (2008) 生きものの一つとして、地球のことを考えよう. *Discover Life & Science (京都理科市民会議 21ニュース)*, 19, 京都市生涯学習振興財団・京都市教育委員会, 京都: 1.
- 川那部浩哉 (2008) 外来生物. 野生生物保全論研究会 編, *野生生物保全事典*, 緑風出版, 東京: 39-41.
- 川那部浩哉 (2008) エコツーリズム. 野生生物保全論研究会 編, *野生生物保全事典*, 緑風出版, 東京: 149-152.
- 川那部浩哉 (2008) グローバルとローカル. 野生生物保全論研究会 編, *野生生物保全事典*, 緑風出版, 東京: 152-155.
- 川那部浩哉 (2008) エコロジズム. 野生生物保全論研究会 編, *野生生物保全事典*, 緑風出版, 東京: 155-157.
- 川那部浩哉 (2008) 「音楽と水のハーモニー」に寄せる. 新・七条寺子屋 編, *音楽と水のハーモニー*, 5, 京都市立七条中学校, 京都.
- 川那部浩哉 (2008) 推薦の辞. 芦田和男・江頭進治・中川 一, *21世紀の河川学ー安全で自然豊かな河川を目指して*, 1, パンフレット, 京都大学学術出版会, 京都.
- 川那部浩哉 (2009) 本当にだめになる前に行動を. *京都新聞*: 2009年1月1日.
- 川那部浩哉 (2009) 堀江正治さん「追悼」にかこつけたその思い出. *陸水学雑誌*, 69: 262-263.
- 川那部浩哉 (2009) 2008年読書アンケート. *みすず*, 568, みすず書房, 東京: 10-11.
- 川那部浩哉 (2009) ご挨拶. 今本博健・荻野芳彦・川上 聡・新保満子・高田直俊・千代延明憲・西村浩一・古谷桂信・細川ゆう子・宮本博司 編, *川の全国シンポジウムー淀川からの発信ー報告書*, 「川の全国シンポジウムー淀川からの発信ー」報告書編集委員会 (大阪自然環境保全協会気付), 大阪: i.
- 川那部浩哉 (2009) オープニング・セレモニー 開会挨拶. 今本博健・荻野芳彦・川上 聡・新保満子・高田直俊・千代延明憲・西村浩一・古谷桂信・細川ゆう子・宮本博司 編, *川の全国シンポジウムー淀川からの発信ー報告書*, 「川の全国シンポジウムー淀川からの発信ー」報告書編集委員会 (大阪自然環境保全協会気付), 大阪: 2-4.
- 川那部浩哉 (2009) クロージング・セレモニー 総括報告. 今本博健・荻野芳彦・川上 聡・新保満子・高田直俊・

千代延明憲・西村浩一・古谷桂信・細川ゆう子・宮本博司 編, *川の全国シンポジウムー淀川からの発信ー報告書*, 「川の全国シンポジウムー淀川からの発信ー」報告書編集委員会 (大阪自然環境保全協会気付), 大阪: 177-179.

川那部浩哉・布谷知夫・高橋信裕 (2009) 主体的な人のつながりで琵琶湖地域をゆるやかにつなぐー滋賀県立琵琶湖博物館. *Cultivate*, 33, 乃村工藝社・文化環境研究所, 東京: 22-29.

川那部浩哉・千葉有紀子 (2009) 琵琶湖を守るために私達ができることー琵琶湖へのメッセージ. *みどりのニューズレター*, 190, 環境市民, 京都: 3-4.

川那部浩哉 (2009) これからの人間の生き方を考えるー琵琶湖の「環境問題」を材料にしてー. *第55回全国高等学校定時制通信制教育振興会近畿支部総会並びに研究協議会・第51回全国高等学校定時制通信制教頭協会教育研究協議会近畿支部大会 大会集録*, 全国高等学校定時制通信制教育振興会近畿支部・滋賀県高等学校定時制通信制教育振興会・全国高等学校定時制通信制教頭協会教育研究協議会近畿支部・滋賀県高等学校定時制通信制教頭協会, 大津: 33-52.

川那部浩哉 (2009) 推薦: 川と湖の回遊魚ビワマスの謎を探る. 藤岡康弘 著, *川と湖の回遊魚ビワマスの謎を探る*, 帯, サンライズ出版, 彦根.

川那部浩哉 (2009) 推薦: 流域環境学. 和田英太郎 監修, *流域環境学 流域ガバナンスと理論と実践*, 裏表紙, 京都大学学術出版会, 京都.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Kawanabe, H. (2008年10月29日) Connection with and Relevance to Eco-Environmental Concerns, Policies and Education—in the Case of Lake Biwa Museum. National TAIWAN Museum 100th Anniversary : Challenges and Perspectives, New Roles of the Natural History Museum in Response to Global Changes, National TAIWAN Museum, Conference Hall of the National Central Library (Taipei, TAIWAN), [口頭発表].

川那部浩哉 (2008年12月19日) 2007~08年度に出席した3つの博物館会議から. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【受賞など】

2008年, 日本生態学会名誉会員.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8件.

2008年12月6日, 湖と人間ーこれだけは「最新の成果」のっていないおはなしー, 新琵琶湖学入門セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月13日, 地域生態系の保全にかかわる水族館の役割と課題, 日本動物園水族館協会協議会, 日本動物園水族館協会, ANAクラウンプラザホテル富山 (富山市), 講演.

2008年6月22日, 野生生物の国際的現状から地球の自然界の保全を考えよう, 野生生物保全論研究会講演会, 野生生物保全論研究会, 国際協力機構ひろば (東京都), コメンテーター.

2008年7月6日, 水が生んだ文化, 京都アートフェア2008ー我が国の自然環境が生む文化ー, NPO法人美術の街京都創成プロジェクト, みやこメッセ (京都市), 講演.

- 2008年7月21日，日仏友好百五十年記念国際シンポジウム「ジャン・アンリ・ファーブル」，日仏友好150年フェアブル「昆虫記」完成100年記念実行委員会，琵琶湖博物館，挨拶。
- 2008年7月26日，日仏友好百五十年記念国際シンポジウム「ジャン・アンリ・ファーブル」，日仏友好150年フェアブル「昆虫記」完成100年記念実行委員会，東京大学安田講堂，挨拶。
- 2008年10月16日，これからの人間の生き方を考える－琵琶湖の「環境問題」を材料にして－，第55回全国定時制通信制教育振興会近畿支部総会・協議会記念講演，全国定時制通信制教育振興会近畿支部，コラボしが21（大津市），講演。
- 2008年11月2日，川の全国シンポジウム－淀川からの発信－，川の全国シンポジウム実行委員会，京都大学百年時計台記念館（京都市），開会挨拶。
- 2008年11月3日，川の全国シンポジウム－淀川からの発信－，川の全国シンポジウム実行委員会，京都大学百年時計台記念館（京都市），総括報告。
- 2008年11月16日，生物多様性と「里うみ（海・湖）」，平成21年度現代GP最終報告シンポジウム，近畿大学農学部，奈良県文化会館（奈良市），基調講演。
- 2008年12月15日，今生物多様性に求められているもの，総合地球環境学研究所セミナー，総合地球環境学研究所（京都市），講演。
- 2008年12月18日，琵琶湖の「楽しい」話 一万年前から今まで，京都南ロータリークラブ例会，京都南ロータリークラブ，リーガロイヤルホテル京都（京都市），講演。
- 2009年2月13日，琵琶湖博物館の現状と将来を語る，千葉県立中央博物館20周年記念シンポジウム，自然史系博物館館長懇談会，千葉県立中央博物館（千葉市），パネルディスカッション。

視察対応

- 2009年1月16日，第13回世界湖沼会議関係者表敬訪問，（中国），挨拶。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

- 2008年10月27日～11月1日，台湾，台湾国立博物館設立100周年記念国際会議－Challenges and Perspectives, New Roles of the Natural History Museum in Response to Global Changes における発表及び台湾生物多様性相談。

【館外の活動】

- Brasilian Journal of Biology, 編集顧問。
- Environmental Biology of Fishes, 編集委員。
- Hydrobiologia, 編集顧問。
- International Journal of Ecology and Environmental Biology, 編集委員。
- 生き物文化誌学会, 評議員。
- 科学技術振興機構理解増進部会, 委員。
- 河川環境管理財団, 評議員。
- 京都市青少年科学センター, 学術顧問。
- 京都市文化財保護審議会, 委員。
- 京都府文化財保護審議会, 委員。
- 京都新聞社会福祉事業団, 理事。
- 国際生物学賞委員会, 委員。
- 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所, 琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議, アドバイザー。
- 滋賀県琵琶湖総合保全学術委員会, 委員長。
- 島根大学汽水域研究センター研究推進協議会, 委員。

島根大学汽水域研究センター研究推進協議会，重点研究プロジェクト外部評価委員会，委員。
生態学琵琶湖賞運営委員会，委員。
生物多様性科学国際共同計画（DIVERSITAS）科学委員会，顧問。
世界自然保護基金ジャパン（WWFJ），常任理事。
地球環境関西フォーラム100人委員会，委員。
地球環境関西フォーラム100人委員会，企画委員会，委員。
地球環境関西フォーラム100人委員会，水環境とくらしの部会，部会長。
日本学術振興会21世紀COEプログラム委員会，同総合審査評価部会，革新的領域評価部会，各委員。
日本学術振興会21世紀COEプログラム委員会，学際複合新領域評価部会，部会長。
日本魚類学会，評議員。
日本自然保護協会，評議員。
日本自然保護助成基金，理事。
日本水フォーラム運営委員会，委員。
野生生物保全論研究会，理事。
山階鳥類研究所将来構想委員会，特別委員。
山階鳥類研究所将来構想委員会，特定奨励費外部評価委員会，委員長。

2008年度は個人的には定年退職を控えた最後の年であり、これまでの研究や仕事の一定の総括とまとめを意識した年となった。研究の上ではこの数年の間、意識してきた博物館における教育学習についての議論を整理しつつある。また昨年度に行ったボランティアのあり方についての議論が中途半端なままになっていたため、その継続を考えて、年度末にも「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」のセミナーを開催した。博物館が利用者にとっての教育学習の場として、どのように機能しうるのか、ということはいろいろなケースがあり、そのケースごとに異なる点と、そうは言いながら共通した前提として考えるべき点とが明らかになったように思う。その前提とは、ある事業が博物館という「場」を活用することによって起こりうる利用者個人の「学び」にどのようにつながるのか、ということであろう。

また琵琶湖博物館の開館以後の実践的な総括を試みた。これは博物館内部の研究セミナーに向けて行ったものであり、琵琶湖博物館が評価の高い博物館であると世の中から受けとられていたとすれば、その評価された点は何なのか、琵琶湖博物館とはどういう博物館だったのかをまとめてみようとしたものである。このまとめはそのまま、今後の方針にもつながる面を持つと考えた。その結論としては、全体を通した理念がはっきりして、かつ一貫していたこと、展示室を大切に、理念に見合った楽しい、博物館らしい展示を維持してきたこと、そして博物館学としても評価しうるような事業・運営の全体についての背景となる理論を持ち続けてきたこと、があげられると考えた。

2008年の春からは、三重県の新博物館建設の委員会に加わり、新しい博物館に対して意見を言う機会を作っていた。ただ開館まではかなりの時間のある博物館ではあるが、琵琶湖博物館での総括や、これまでの経験から、うまく利用される博物館とはどのようなものなのか、ということ、三重県の博物館での議論を行う中で、さらに考えていきたいと思う。

事業では巡回展示「ファールにまなぶ」の実施を担当した。これまでに行ってきた独自の企画展示とは異なり、他の博物館の学芸員との共同作業は刺激的であり、また困難なものであった。昨年度に最初の北海道大学での展示を皮切りにして、今年度の春から夏にかけての琵琶湖の展示、そして最後の兵庫まで、もちろんいろいろな問題は残しつつも、成功裏に進められたといっても差支えないように考えている。

一番大きく残った課題は、「広報経営戦略会議」である。今年度も会議の責任者であったが、実質的には機能することができず、十分には責任を果たせなかったと考えている。これは琵琶湖博物館としても、今後の課題として残ったものと思う。

印刷物

【学術論文】

Yamakawa, C., Momohara, A., Nunotani, T., Matsumoto, M. and Watano, Y. (2008) Reconstruction of the paleovegetation of a fossil forest composed of *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the late Pliocene Kobiwako Group, central Japan. *Paleontological Research*, 12 (2) : 167-180.

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2008) 博物館. 日本科学者会議 編・日本環境会議 (協力), *環境事典*, 旬報社.

布谷知夫 (2008) 博物館法も大事だけれど. *社会教育*, (財)全日本社会教育連合会, 748 : 58-59.

山川千代美・亀田佳代子・夏原浩子・布谷知夫 (2009) 人ともとの情報が行きかうライブラリー—滋賀県立琵琶湖博物館図書室. *専門図書館*, 233 : 7-12.

布谷知夫 (2008) 琵琶湖博物館「集う・使う・創る 新空間」. *展示学*, 日本展示学会, 45 : 41.

布谷知夫・安田常雄 (2009) 人々の記憶と博物館展示 (歴博対談), *歴博*. 国立歴史民俗博物館 : 6-9.

- 川那部浩哉・布谷知夫（2009）主体的な人のつながりで、琵琶地地域をゆるやかにつなぐ。 *Cultivate*, 文化環境研究所, 33.
- 布谷知夫（2009）シンポジウム「地域に生きる魅力ある博物館」報告。 *博物館研究*, 日本博物館協会, 21年3月号。
- 布谷知夫（2009）琵琶湖博物館が考えてきた展示交流。 *展示交流って何？ 琵琶湖博物館展示交流13年の歩み*, 展示交流倶楽部：4-7。
- 布谷知夫（2009）学芸員養成制度について。 *丹青社報告書*。
- 布谷知夫（2009）「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」趣旨説明と問題提起。 *第52回琵琶湖博物館特別研究セミナー「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」*, 琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」：5-9。
- 布谷知夫・北村美香（2009）開催趣旨。 *第52回琵琶湖博物館特別研究セミナー「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」*, 琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」：3。
- 布谷知夫（2009） *第52回琵琶湖博物館特別研究セミナー「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」*。布谷知夫 編, 琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」：101p。
- 布谷知夫（2009）参加館の完全合意で実施した国際巡回展示「フェアブルにまなぶ」。 *国際フォーラム「巡回展が運ぶものその歴史と未来」報告書*, 九州大学ユーザーサイエンス機構ユーザーサイエンス部ミュージアム研究会。
- 布谷知夫（2009）琵琶湖の水と生活の水。 *第31回滋賀県医学検査学会講演集*, (社)滋賀県臨床検査技師会：30-31。

【一般向けの著作】

- 布谷知夫（2008）飼育している魚の数。びわ湖検定実行委員会 編, *びわ湖検定公式問題解説集*。
- 布谷知夫（2008）外来生物勉強会が行われました。 *都市と自然*, 5 (386), 大阪自然環境保全協会：10-11。
- 布谷知夫（2008）フェアブルって知ってますか。自然観察のテーマ(80), *NACS-J 自然観察指導員連絡会会誌*, 82：2-4。
- 布谷知夫（2008）博物館とは何をしているところ。博物館の利用方法I『教師も楽しい小学理科授業なっとく！6年生』, 田中 実・三石初雄 監修, 株式会社ルック：148-151。
- 布谷知夫（2008）「フェアブルにまなぶ」展。 *都道府県だより 都道府県展望*, 全国知事会：36。
- 布谷知夫（2008）湖と人とー琵琶湖博物館からの発信ー「フェアブルと日本 人気の背景」。 *毎日新聞*, 57, 毎日新聞社：2008年7月8日。
- 布谷知夫（2008）初期の自然観察会。自然観察のテーマ(81), *NACS-J 自然観察指導員連絡会会誌*, 83：2-3
- 布谷知夫（2008）2008年度四手井綱英記念賞選考理由。 *関西自然保護機構会誌*, 30 (29)：59。
- 布谷知夫（2008）自然史系博物館の巡回展示の試み「フェアブルにまなぶ」。 *全日本博物館学会ニュース*, 82。
- 布谷知夫（2008）樹冠はなぜ重ならないで広がるのだろうか？。自然観察のテーマ(82), *NACS-J 自然観察指導員連絡会会誌*, 84：2-3。
- 布谷知夫（2008）博物館という場を活用する自主活動グループ「はしかけ」。 *Vo!o*, 社会福祉法人大阪ボランティア協会, 441：30-33。
- 布谷知夫（2009）琵琶湖博物館に来ませんか。 *うみっこ通信*, 1, 琵琶湖博物館：1-3。
- 布谷知夫（2009）琵琶湖の水と生活の水。 *第31回滋賀県医学検査学会大会記念誌*。
- 布谷知夫（2009）ヨシの地下茎のはなし。自然観察のテーマ (83), *NACS-J 自然観察指導員連絡会会誌*, 85：2-3。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 布谷知夫（2008年5月8日）地域博物館論。博物館職員講習, 文部科学省, 国立教育政策研修所社会教育実践研究センター（東京都）, [口頭発表]。
- 布谷知夫（2008年7月7日）学芸員在外派遣研修報告会。文部科学省, 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（東京都）, [コメンテーター・口頭発表]。

- 布谷知夫（2008年9月19日）博物館学史の中の琵琶湖博物館とその今後。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2008年11月16日）自然保護とはなにか，その課題整理。シンポジウム「自然保護に役立つ自然保護教育とは」，関西自然フェスタ，関西自然保護機構・大阪自然史センター，大阪市立自然史博物館（大阪府），[口頭発表]。
- 布谷知夫（2008年11月16日）シンポジウム「自然保護に役立つ自然保護教育とは」．関西自然フェスタ関西自然保護機構・大阪自然史センター，大阪市立自然史博物館（大阪府），[コーディネーター]。
- 布谷知夫（2008年11月20日）シンポジウム「地域に活きる魅力ある博物館」．日本博物館協会，島根県民会館（島根県），[コーディネーター]。
- 布谷知夫（2008年12月18日）キャロル・スタッフ博士セミナー「誰のために何を？博物館の教育活動」．第51回琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[コーディネーター]。
- 布谷知夫（2008年12月22日）「昆虫記」刊行100年記念日共同企画「ファールにまなぶ」．巡回展が運ぶものその歴史と未来，九州大学ユーザーサイエンス機構ユーザーサイエンス部ミュージアム研究会，福岡市立歴史博物館（福岡県），[口頭発表]。
- 布谷知夫（2009年2月2日～3日）博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割．第52回琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[コーディネーター]。
- 布谷知夫（2009年2月2日）セミナーの趣旨説明と問題提起．第52回琵琶湖博物館特別研究セミナー「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2009年2月10日）ボランティア・セミナーで目指したこと．関西博物館研究会，京都キャンパスプラザ（京都府），[口頭発表]。
- 布谷知夫（2009年2月15日）住民参加型調査の意味．西日本自然系博物館ネットワークフォーラム「市民調査と博物館」，西日本自然系博物館ネットワーク，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2009年2月21日）滋賀県の博物館事情．全日本博物館学会・JMAA合同研究会，大阪大学中之島センター（大阪府），[口頭発表]。
- 布谷知夫（2009年3月7日）参加型博物館におけるボランティアの位置．兵庫県立歴史博物館ボランティア研修，兵庫県立歴史博物館，兵庫県立歴史博物館（兵庫県），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 大学共同利用法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究「表象型展示システムの構築に関する総合研究」（代表者：佐藤優香），共同研究者（2008～2010年度）。
- 大学共同利用法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究「博物館におけるコミュニケーションデザインに関する研究」（代表者：佐藤優香），共同研究者（2006～2008年度）。
- 大学共同利用法人人間文化研究機構国立民族学博物館「博物館のネットワーク研究会」（代表者：川口幸也），共同研究者（2005年度～2008年度）。
- 文部科学省科学研究費補助金「中近世建築遺構の放射性炭素を用いた年代測定」（代表者：中尾七重），研究分担者（2006年～2008年度）。
- 文部科学省科学研究費補助金 基盤(C)「博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた実証的研究」（代表者：青木伸子），研究分担者（2007年～2008年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 全日本博物館学会，役員。
- 全日本博物館学会，学会誌編集委員。
- 関西自然保護機構，関西自然保護機構会誌，論文査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2008年8月1日，奈良女子大学学生，博物館の評価について。
- 2008年11月9日，東京学芸大学大学院学生。

2008年11月17日，立命館大学草津キャンパス，立命館大学近江草津論「琵琶湖の魅力と保全の課題」。
2009年1月13日，滋賀県立大学集中講義「博物館学各論A」。
琵琶湖博物館特別研究員（黒岩啓子），「博物館における学習活動の意味について」。
琵琶湖博物館特別研究員（北村美香），「博物館におけるマーケティング」。
琵琶湖博物館特別研究員（青木伸子），「博物館とボランティアとの協働」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，11件。

はしかけ植物観察会，4件。

2008年5月17日，希望が丘観察会（植物），希望が丘青年の城，講師，（希望が丘共催）。

2008年5月25日・6月29日，紙芝居「ボンジュールフェアブル先生」，琵琶湖博物館，コーディネーター，2件。

2008年6月4日・8月2日，ヨシ笛コンサート「親しみのある名曲とフェアブルの曲をヨシ笛で」，琵琶湖博物館・日本ヨシ笛協会，琵琶湖博物館，コーディネーター，2件，（日本ヨシ笛協会共同）。

2008年7月20日，ミニヨシ笛コンサート，ジャン・アンリ＝フェアブル日仏友好150年記念シンポジウム，日仏友好150年記念シンポジウム実行委員会，琵琶湖博物館，コーディネーター。

2008年7月21日，国際交流会（野外実験観察会），日仏友好150年記念シンポジウム実行委員，琵琶湖博物館，講師。

2008年7月27日，夏休み自由研究講座，植物担当，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月1日，企画展示の考え方と作り方，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月6日，植物で染色を，自然調査ゼミナール，滋賀県中学校教育研究会理科部会，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月19日，植物図鑑の読み方，指導者向け講座，琵琶湖博物館，講師。

2008年11月2日，開会のあいさつ（館長代理）。里山デジカメ選手権，近畿中国森林管理局，琵琶湖博物館ホール，講師。

2008年11月8日，マキノの里山を歩こう，観察会，高島市マキノ，講師。

2008年11月22日，わくたん体験学習「草木染め」，琵琶湖博物館，講師。

2009年1月31日，ヨシと人間，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2008年4月8日，琵琶湖博物館の概要紹介，京都橘大学児童教育学科見学実習，琵琶湖博物館，講師。

2008年4月8日，琵琶湖博物館の概要紹介，京都橘大学看護学科見学実習，琵琶湖博物館，講師。

2008年4月23日，ヨシの話，高津高等学校，研修旅行，琵琶湖グランドホテル（滋賀県大津市），講師。

2008年4月26日，琵琶湖博物館での環境展示，日本化粧品技術協会，琵琶湖博物館，講師。

2008年5月24日，フェアブルについてのお話1・2・3，「伊藤康英」のフェアブル昆虫館～音楽で楽しむ昆虫の世界～，（財）滋賀県文化振興事業団，しが県民芸術創造館（滋賀県草津市），講師，3件。

2008年6月7日，フェアブル展について，大阪自然観察指導員連絡会，琵琶湖博物館，講師。

2008年6月8日，ペットボトルの活用，草津市青年会議所，琵琶湖博物館・うみっこ広場，講師。

2008年6月12日，ヨシの話，笠縫公民館さわやか学級，笠縫公民館（滋賀県草津市），講師。

2008年6月18日，地域を調べて分かる事，土山中学校，総合学習授業，土山中学校（滋賀県甲賀市），講師。

2008年7月13日，琵琶湖の環境，NPO観光力推進ネットワーク関西学生連絡協議会，神戸夙川学院大学（兵庫県），琵琶湖博物館，講師。

2008年7月14日，琵琶湖の環境問題について，自然観察指導員大阪連絡会，大阪府環境学習プラザ，講師。

2008年7月15日，ヨシの話。シニア自然大学，琵琶湖博物館，講師。

2008年7月16日，植物の形の観察，彦根東高校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師，2件。

- 2008年7月22日, 博物館の作られ方・館内展示案内, 石部高校, 琵琶湖探求, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.
- 2008年7月31日, 琵琶湖のヨシの役割とその大切さ, 大阪自然環境保全協会空の会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年8月3日, 琵琶湖の環境, 滋賀短期大学ミシガン州高校生交流会, 琵琶湖博物館会, 講師.
- 2008年8月9日, ヨシってなあに?, 琵琶湖の生き物を学ぶお話し会, 天津プリンスホテル(滋賀県大津市), 講師.
- 2008年8月27日, 琵琶湖博物館の概要, 東北学院大学博物館見学実習. 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年9月7日, 琵琶湖博物館について, 学際交流視察研究会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年9月18日, 琵琶湖博物館の特徴, 横浜美術短期大学見学実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年9月19日, 琵琶湖博物館の概要, 桃山学院大学見学実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年10月3日~5日, 自然の観察, 日本自然保護協会自然観察指導員講習会, 日本自然保護協会, 南足柄青少年センター, 講師.
- 2008年10月6日, 博物館と利用団体との関係, 花王コミュニチィ・ミュージアム(2008)・フォローアップミーティング, 花王株式会社, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年10月16日, 草木染め, 環境学習, 信楽中学校, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年10月23日, ギャラリー展示についての座談会, 本庄老人会, 琵琶湖博物館, コーディネート.
- 2008年10月25日, 県民参加型の博物館活動, 福井県立大学公開講座, 福井県立大学(福井県福井市), 講師.
- 2008年10月27日, 地域と共に歩む博物館, 博物館ボランティアの集い(2008)~暮らしのなかの身近な学びとボランティアの学習活動~, 財団法人北海道開拓の村・北海道大学高等教育機能開発総合センター生涯学習計画研究部, 北海道大学高等教育機能開発総合センター(札幌市), 講師.
- 2008年10月31日, フェアブル音楽会, 琵琶湖博物館ホール, コーディネート.
- 2008年11月1日, 琵琶湖博物館の概要. 出雲石造資料館, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年11月6日, 展示の利用の仕方, 動物園水族館教育研究会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年11月23日, 花緑公園植物観察会「タネさがし」, 花緑公園植物園, 講師.
- 2008年11月26日, 琵琶湖博物館の理念と展示, 兵庫県加小退職者校長会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年12月2日, 琵琶湖博物館の概要, 愛知学院大学学芸員現場見学実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年12月19日, 琵琶湖の環境と展示, 近江ふるさと会(中国からのインターン生), 琵琶湖博物館, 講師.
- 2009年1月22日, 鼎談「現代を展示する」, 国立歴史民俗博物館, 講師.
- 2009年2月7日, 琵琶湖博物館の概要. 韓国環境関連団体研修, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2009年2月9日, 地球温暖化についてどう考えるか, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会世話人会勉強会, NACS-J自然観察指導員大阪連絡会世話人会, 大阪環境学習プラザ(大阪市), 講師.
- 2009年2月11日, 地域博物館の役割, JICA中東地域研修, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2009年2月19日, 琵琶湖博物館の環境概念, JICA中国環境教育施設建設計画, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2009年2月22日, 琵琶湖の水と生活の水, 滋賀県臨床検査技師会総会・研究発表会・特別講演II, 琵琶湖ホテル(滋賀県大津市), 講師.
- 2009年3月15日, 琵琶湖博物館の裏側, 湖西里山倶楽部, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2009年3月22日, 多様性を守る地域の役割, 「みんなでつくる新しい博物館」~多様性の保全と博物館の役割, 三重県, 津市河芸中央公民館(三重県津市), 講師.
- 2009年3月25日, 琵琶湖博物館が考える環境, 香芝市ボランティア協議会研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

- 2008年4月3日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 三重県議会議員.
- 2008年4月13日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 韓国農業.
- 2008年4月16日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 三重県生活文化課.
- 2008年4月17日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 熊本県.
- 2008年5月27日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 滋賀県健康福祉課.
- 2008年6月3日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 兵庫県立人と自然の博物館.
- 2008年6月3日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 西日本自然史系博物館ネットワーク.
- 2008年6月6日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 千葉県現代科学産業館.

2008年7月13日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 韓国国立チョンジュ博物館.
2008年7月19日, 琵琶湖博物館の概要紹介, フランス国立自然史博物館.
2008年7月30日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 林原自然科学博物館.
2008年8月7日, 企画展示紹介, 滋賀県立琵琶湖博物館協議会.
2008年9月3日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 福島県議会.
2008年9月4日, 琵琶湖博物館の概要紹介, ちゅうでん.
2008年10月21日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 宮崎県副知事.
2008年11月27日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 沖縄県教育委員会.
2008年12月3日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 無錫市太湖生体博物館建設団.
2008年12月10日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 東北電力.
2009年1月7日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 中国湖南省人民政府副省長.
2009年2月13日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 岩手県立博物館.
2009年2月19日, 琵琶湖博物館の概要紹介, 中国環境教育施設計画・都エコロジーセンター.

メディアへの協力

2008年4月4日, NHK 大津放送局, 「フェアブルまなぶ」展についての説明.
2008年4月8日, 京都新聞, 「フェアブルまなぶ」展の見所.
2008年4月8日, 「フェアブルまなぶ」展・個人発見展示についての記者資料提供.
2008年4月9日, 京都新聞, 「フェアブルまなぶ」展個人発見展示, (2008年4月8日取材).
2008年4月17日, FM 滋賀, 「フェアブルまなぶ」展での発見, (2008年4月9日取材).
2008年4月23日, びわ湖放送, 「フェアブルまなぶ」展について, 出演.
2008年4月24日, 「フェアブルまなぶ」展記者発表.
2008年4月28日, 「フェアブルまなぶ」展内覧会, (びわ湖放送、中日新聞、産経新聞、ニュース守山 取材対応).
2008年4月29日, びわ湖放送, 「フェアブルまなぶ」展紹介, (2008年4月28日取材).
2008年4月29日, 朝日新聞, 「フェアブルまなぶ」展, (2008年4月28日取材).
2008年4月30日, 共同通信社, 「フェアブルまなぶ」展, (2008年4月29日取材).
2008年5月3日, 朝日新聞社, フェアブル展の個人参加展示について, (2008年5月1日取材).
2008年5月1日, NHK 大津放送局, 「フェアブルまなぶ」展.
2008年5月1日, 毎日新聞, フェアブルと自然観察, (2008年4月29日取材).
2008年5月2日, NHK 大津放送局, 「フェアブルまなぶ」展, 出演.
2008年5月7日, Z ケーブルテレビ, フェアブル展の撮影取材.
2008年5月7日, びわ湖放送, 「フェアブルまなぶ」展, 出演.
2008年5月7日, 読売新聞大阪本社メディア戦略室 (ケーブルテレビ+CS), 「フェアブルまなぶ」展.
2008年5月25日, 中日新聞, 「フェアブルまなぶ」展, (2008年5月17日取材).
2008年5月25日, びわ湖放送, 「ボンジュール, フェアブル先生」紙芝居の取材, 撮影協力.
2008年7月4日, 滋賀民報, 球温暖化に関する生物の状況.
2008年8月27日, 毎日新聞, ダイコンカゴについて.
2008年9月30日, 教材研究所 (毎日新聞), 琵琶湖博物館の展示の特徴.
2009年1月6日, 読売新聞, 「ウシいっぱい」展示について, (2009年1月4日取材).
2009年1月7日, ZTV 大津放送局, 「ウシいっぱい」展示について, 出演.
2009年1月21日, ZTV 大津放送局, テレビミュージアム「琵琶湖博物館」, 出演.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整理室, 副担当者.

他博物館・機関の活動

必佐小学校, 必佐小学校所蔵橋本忠太郎植物標本の内容確認と保管への指導.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 8 件.

交流員と話そう, 内容指導, 2 件.

琵琶湖博物館第 16 回企画展示「フェアブルにまなぶ」, 主担当者.

ギャラリー展示「うるわしき琵琶湖よ永遠に一父子の見た湖国」写真展, 協力.

他博物館・機関の活動

新潟県立歴史博物館, コレクション展への出品「仮面ライダー」

三重県立新博物館準備への助言.

【企画調整活動】

新任職員研修, C 展示室の考え方・暮らしと結びついた自然, 講師, 2008 年 4 月 22 日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館集中コース, 博物館の運営と企画展示, 講師, 2008 年 5 月 9 日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館集中コース, 地域博物館の運営, 講師, 2008 年 5 月 11 日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館集中コース, 展示評価, 講師, 2008 年 5 月 13 日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館集中コース, 総括と結びの挨拶, 講師, 2008 年 5 月 31 日, 国際フォーラム国立民族学博物館・琵琶湖博物館・JICA, 国立民族学博物館.

JICA 博物館集中コース, 地域博物館と利用者, 講師, 2008 年 6 月 24 日, 琵琶湖博物館.

ちゅうでん教育振興財団よりの活動助成, 受託補助.

文化庁ボランティア養成事業, 受託補助.

【研究部関連事業】

研究代表者会議, 委員, 2008 年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

昆虫記刊行 100 年記念日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展, 企画運営委員会, 副委員長.

2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日, 琵琶湖博物館広報経営戦略会議, 主担当者.

2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日, JICA 博物館集中コース運営委員会, 委員.

【館外の活動】

花王・コミュニティミュージアム・プログラム (2008) 選考委員会, 委員.

タカラホールディング助成評価委員会, 委員.

滋賀県棚田等保全検討委員会, 委員.

下之郷遺跡保存整備活用委員会整備部会, 委員.

下之郷遺跡保存整備活用委員会研究部会, 委員.

三重県新県立博物館基本計画検討部会, 委員.

三重県新県立博物館基本計画検討部会作業部会, 委員.

関西自然保護機構, 運営委員.

コイ科魚類の咽頭歯の研究を通じて、湖と人間のかかわりがどのように築かれてきたかを考えている。

2008年度は、総合地球環境学研究所プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」（代表者：内山純蔵）の琵琶湖ワーキンググループ、中国ワーキンググループで主に新石器化の景観形成史について研究を進めている。さらに、文科省科研費「河姆渡文化研究の再構築—余姚田螺山遺跡の学際的総合調査—」（代表者：中村慎一）に加わり田螺山遺跡のコイ科魚類咽頭歯遺体の分析を行っている。これらの研究プロジェクトで、長江流域の新石器時代遺跡から出土する咽頭歯遺存体の調査を実施している。2008年度は、浙江省余姚市の田螺山遺跡の調査とその報告の執筆とならんで、湖南省澧県の城頭遺跡、八十当遺跡、道県の玉蟾岩洞穴、高廟遺跡から出土した咽頭歯遺存体の調査を実施した。

咽頭歯研究のまとめとして、咽頭歯モノグラフ“Comparative studies on the pharyngeal teeth of cyprinids and their allies”の執筆に取りかかった。2009年度をめどに出版にこぎつけたいと考えている。

印刷物

【学術論文】

中島経夫・中島美智代・孫国平（2008）田螺山遺址 K3 魚骨坑内の鯉科魚類咽歯. 北京大学中国考古学研究中心・浙江省文物考古研究所・田螺山遺址研究課題組 編 *田螺山遺址自然遺存の総合研究*, 7, 北京大学中国考古学研究中心, 北京: 1-25.

Nakajima, T., Nakajima, M. and Yamazaki, T. (2008) Evidence for fish cultivation during the Yayoi Period in Western Japan. *International Journal of Osteoarchaeology*, Published online in Wiley InterScience.

【専門分野の著作】

中島経夫（2008）考古遺跡から出土するコイ科魚類咽頭歯から見える新石器化の景観. In Uchiyama, J., Lindstrom, K., Zevallos, C. and Nakamura, O., *Neomap Interim Report 2008*, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto: 103-113.

【一般向けの著作】

中島経夫（2008）縄文・弥生遺跡に見る「魚米之郷」. 佐藤洋一郎 編, *米と魚*, ドメス出版, 東京: 58-70.

中島経夫（2008）弥生人がコイを養殖. *歴史読本*, 12, 新人物往来社: 237.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Nakajima, T. and Nakajima, M. (2008年3月3日) Prehistoric landscape in East Asia: Changes correlated with altered usage patterns of carps. The 4th Worldwide Conference of Society for East Asian Archeology, Institute of Archeology Chinese Academy of Social Sciences (Beijing), [oral presentation].

中島経夫（2008年7月13日）魚米之郷の時空的広がり 東アジア内海を隔てて. 総合地球環境学研究所プロジェクト NEOMAP 中国ワーキンググループ会議, 総合地球環境学研究所（京都市）, [口頭発表].

中島経夫（2008年7月25日）景観研究の1つの方法. 総合地球環境学研究所プロジェクト NEOMAP 第2回景観セミナー, 大谷会館（京都市）, [口頭発表].

中江雅典・佐々木邦夫・中島経夫・宮崎祐介・松浦啓一（2008年9月20日～23日）オイカワの筋肉系とその神経支配. 日本魚類学会 2008 年度大会, 愛媛大学 (松山市), [ポスター発表].

中島経夫 (2008年11月24日) 魚骨坑出土のコイ科魚類咽頭歯. ワークショップ「河姆渡文化期の環境と生業」田螺山遺跡出土自然遺物の総合的研究会, 金沢大学 (金沢市), [口頭発表].

中島経夫 (2008年12月19日) 咽頭歯からわかること 人と魚と米の関係の始まりを探る. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「コイ科魚類の咽頭歯に関する研究」, (2008 年度).

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明 (研究代表者: 水野敏明), 共同研究者 (2006～2008 年度).

総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 文化的景観の形成史」(研究代表者: 内山純蔵), コアメンバー (2005～2011 年度).

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A) 海外「河姆渡文化研究の再構築—余姚田螺山遺跡の学際的総合調査—」(研究代表者: 中村慎一), 研究協力者 (2007～2009 年度).

社団法人近畿建設協会「琵琶湖魚類調査研究」研究代表者, (2008 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

2008 年度, はしかけ制度担当.

はしかけ登録講座, 3 件.

他の博物館・機関等主催行事

2008 年 5 月 29 日, コイからみた湖と人間, 滋賀県レイカディア大学, 滋賀県立文化産業交流会館 (米原市), 講演.

2008 年 5 月 29 日, ボランティアコーディネーター養成プログラムとはしかけ制度, 立命館大学 (草津市), 講演.

2008 年 8 月 8 日, 理科実験講座「琵琶湖の魚類」, 湖北町教育委員会, 湖北中学校 (湖北町), 講演.

2008 年 9 月 2・13 日, はしかけ制度の概要と活動, 大阪歴史博物館友の会, 琵琶湖博物館 (草津市), 講演, 2 件.

2008 年 10 月 14 日, 環境を意識した農業を行うための基礎知識, 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策活動組織 乗倉結の会, 琵琶湖博物館, 講演.

視察対応

2009 年 1 月 28 日, 琵琶湖博物館の活動, 入間市教育委員会, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2008 年 9 月 18 日, 「コイは弥生時代から養殖されていた」ことがわかりました, 資料提供.

2008 年 9 月 18 日, 日本経済新聞 (夕刊)・中日新聞 (夕刊)・産経新聞 (夕刊)・京都新聞 (夕刊), 「コイは弥生時代から養殖されていた」ことがわかりました, (2008 年 9 月 18 日資料提供).

2008 年 9 月 20 日, 中日新聞, 「コイは弥生時代から養殖されていた」ことがわかりました, (2008 年 9 月 18 日資料提供).

2008 年 10 月 2 日, 読売新聞, 「コイは弥生時代から養殖されていた」ことがわかりました, (2008 年 9 月 18 日資料提供).

2008 年 11 月 8 日, 朝日新聞, 「コイは弥生時代から養殖されていた」ことがわかりました, (2008 年 9 月 18 日資料提供).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館うおの会ウェブサイト，更新・管理.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館魚類標本，登録（2,143点），管理（50,788点）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2008年5月12日～18日，中華人民共和国湖北省武漢市中国科学院水生生物研究所，田螺山遺跡出土の咽頭歯遺存体同定のための現生コイ科魚類の調査.

2008年6月2日～10日，中華人民共和国北京市中国社会科学院考古学研究所，第4回東アジア考古学会での発表.

2009年3月15日～3月24日，中華人民共和国湖北省武漢市中国科学院水生生物研究所および湖南省文物考古研究所，田螺山遺跡出土の咽頭歯遺存体同定のための現生コイ科魚類の調査および湖南省新石器時代遺跡から出土する咽頭歯遺存体の調査.

研究関連では、これまでに自分自身および共同研究者等が琵琶湖の湖岸、内湖、および水田地帯で魚類調査してきた内容について論文化すべく執筆活動を進めてきた。その結果、水田におけるニゴロブナの成長に関する論文1編が公表され、同じくニゴロブナの水田からの脱出習性に関する論文1編を学術誌に投稿中である。これ以外に、現在学術誌に投稿すべく3編の原著論文を訂正・加筆中である。水田の総合研究では、2007年、2008年と実施してきた得られた成果の一部を、当館研究発表会（2008年10月5日）にて「琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見る」とのテーマで、また日本生態学大会（2009年3月17日；岩手県立大学）において自由集会「湖に面した水田の特性をさぐる一魚（ニゴロブナ）の目線から眺める」を開催して発表した。また、当館主催事業として新しく「新琵琶湖学入門セミナー『湖と人間』」（2008年12月～2009年3月）を企画し、国土交通省琵琶湖河川事務所、琵琶湖環境科学研究センター、（財）滋賀県文化財保護協会、滋賀県水産試験場等と連携して実施した。さらに、大学、企業、その他さまざまな団体への講演会等を通じて、水辺環境の現在の由々しき実態と外来種（魚類）の生態系へ及ぼす影響等の解説にもつとめた。

事業関連では、「フィールドレポーター制度」担当となり、フィールドレポーター制度の円滑な運営に資するとともに、「みちしるべ今昔調査」、「年末年始の食調査」（2008年度調査）の結果をマスコミリリースするなど、フィールドレポーター参加者のモチベーションアップを図り、また新規参加者を募るよう積極的に活動した。また、「新たな交流の方向性」のまとめ担当として、当館の中長期計画である「地域だれでも・どこでも博物館」を実現するための既存交流事業を展開するための方策を取りまとめた。

印刷物

【学術論文】

金尾滋史・大塚泰介・前畑政善・鈴木規慈・沢田裕一（2009）ニゴロブナ *Carassius auratus Grandoculis* の初期成長の場としての水田の有効性. 日本水産学会誌, 75 (2) : 191-197.

【一般向けの著作】

前畑政善（2008）湖と人と一琵琶湖博物館からの発信―「田んぼで増える魚たち」. 44, 毎日新聞：2008年4月1日.

前畑政善（2008）天皇陛下のおことばから外来種を考える. フィールドレポーター掲示板, 1 (50), 琵琶湖博物館：1.

前畑政善（2008）びわ湖の魚（固有種について）. びわ湖検定実行委員会 編, びわ湖検定公式問題解説集：28.

前畑政善（2008）ナマズ（ナマズ科）. あいあいAI 滋賀, 392, 朝日新聞社：2008年8月6日.

前畑政善（2008）ズナガニゴイ（コイ科）. あいあいAI 滋賀, 396, 朝日新聞社：2008年8月13日.

前畑政善（2008）カワバタモロコ（コイ科）. あいあいAI 滋賀, 397, 朝日新聞社：2008年8月20日.

前畑政善（2008）オイカワ（コイ科）. あいあいAI 滋賀, 398, 朝日新聞社：2008年8月27日.

前畑政善（2008）カワムツ・ヌマムツ（コイ科）. あいあいAI 滋賀, 399, 朝日新聞社：2008年9月3日.

前畑政善（2008）アユモドキ（ドジョウ科）. あいあいAI 滋賀, 400, 朝日新聞社：2008年9月10日.

前畑政善（2008）ギギ（ギギ科）・アカザ（アカザ科）. あいあいAI 滋賀, 401, 朝日新聞社：2008年9月17日.

前畑政善（2008）メダカ（メダカ科）. あいあいAI 滋賀, 402, 朝日新聞社：2008年9月24日.

前畑政善（2008）琵琶湖にすむ魚の特徴. あいあいAI 滋賀, 403, 朝日新聞社：2008年10月1日.

前畑政善（2008）琵琶湖で減った魚・増えた魚. あいあいAI 滋賀, 404, 朝日新聞社：2008年10月8日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 鈴木規慈・原田泰志・前畑政善・畠山絵美（2008年9月21日）ため池におけるカワバタモロコシの繁殖生態—いつ、どのような場所を利用するのか—. 日本魚類学会，愛媛大学（松山市），[口頭発表].
- 前畑政善（2008年10月5日）今、なぜ水田なのか. 琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 前畑政善・鈴木規慈・細谷和海（2008年10月17日）雌性発生魚ギンブナがつがう相手種. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 鈴木規慈・原田泰志・前畑政善・畠山絵美・高久宏佑（2008年10月19日）生息環境の異なるため池間におけるカワバタモロコシの生活史変異（予報）. 第46回魚類自然史研究会，追手門学院（大阪市），[口頭発表].
- 前畑政善（2009年3月17日）今、なぜ水田なのか. 日本生態学会自由集会，岩手県立大学（盛岡市），[口頭発表].
- 金尾滋史・前畑政善・澤田裕一（2009年3月18日）保全・復元の指標となる魚類相の時代変遷とそれを把握する試み—琵琶湖周辺の水田地帯を事例に—. 日本生態学会自由集会，岩手県立大学（盛岡市），[ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「水田地帯、内湖の魚類の生態」，（2008年度）.
- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」（研究代表者：前畑政善），総括、魚類調査（2007～2011年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- (社)日本魚類学会，日本魚類学会自然保護委員会，委員，2001年6月～.
- (社)日本魚類学会，2009年度市民講座「(仮)イタセンパラのシンポジウム」，企画責任者，2008年8月～2009年7月.
- Fundamental and Applied Limnology, 論文査読，1件.
- Ichthyological Research, 論文査読，1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2008年4月1日～2009年3月31日，金尾滋史（滋賀県立大学大学院博士過程），学位論文指導.
- 2008年4月1日～2009年3月31日，鈴木規慈（三重大学大学院修士過程），論文指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件.
- フィールドレポーター制度，担当.
- 2008年8月7日，ザリガニの飼い方，生き物飼い方講座，琵琶湖博物館，講師.
- 2008年11月2日，里山デジタル選手権，公開審査開催担当（主催：近畿中国森林管理局・箕面森林環境保全ふれあいセンター、共催：滋賀県立琵琶湖博物館、(財)水と緑の惑星保全機構・里地ネットワーク）.
- 2009年1月10日，魚はなぜ田んぼをめざすのか，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演.

他の博物館・機関等主催行事

- 2008年4月19日，魚からみた水環境，同志社女子大学学芸学部，琵琶湖博物館，講師.
- 2008年4月26日，琵琶湖の環境を魚から考える，滋賀県立大学研修会，琵琶湖博物館，講師.
- 2008年5月16日，琵琶湖博物館の展示の狙いについて，富山県農業協同組合労働組合女性部，琵琶湖博物館，講

師.

- 2008年5月17日, 琵琶湖の環境と魚, 啓山会(林野庁近畿中国森林管理局京都大阪森林管理事務所), 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年5月24日, 琵琶湖の環境を魚から考える, 京都造形芸術大学研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年6月1日, 琵琶湖博物館の展示、見どころについて, 長浜市小沢地域婦人会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年6月15日, 琵琶湖の環境と魚、そして人, 高月町地域女性会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年7月28・29・31日, 淡水魚入門講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, シニア自然大学, NPO法人シニア自然大学, 大阪NPOプラザ(大阪市), 講師, 3件.
- 2008年8月4・5・21日, 淡水魚入門講座 野外実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, シニア自然大学, NPO法人シニア自然大学, 大戸川(大津市), 講師, 3件.
- 2008年8月6日, 野外観察会, おにぐるみの会・滋賀県河港課, 木の岡ビオトープ(大津市), 講師.
- 2008年8月9日, 琵琶湖の環境と魚, 歯科技工士専門学校関西地区協議会, 琵琶湖ホテル(大津市), 講師.
- 2008年8月12日, 魚から見た琵琶湖の水環境, 平成20年度環境教育研究協議会, 教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年9月3日, 琵琶湖の魚と環境, 財団法人三重こどもの城, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年10月18日, 人々のくらしと環境, 福知山環境会議, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年10月18日, 琵琶湖博物館の概要, 全国スポーツレクリエーション大会滋賀大会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年10月26日, 魚はなぜ田んぼをめざすのか, 魚のゆりかご水田プロジェクトセミナー2008, 滋賀県農政水産部農村振興課, ビバシティホール(ビバシティ彦根), 講師.
- 2008年11月13日, 博物館学芸員の仕事について, 京都府亀岡市立西別院小学校, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年11月14日, 琵琶湖の魚と環境, 滋賀県下水道公社, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年11月15日, 琵琶湖の魚と環境, 琵琶湖博物館の概要説明, NPO法人水と緑の自然大学, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年11月18日, 琵琶湖の魚と環境, Mid-Asia Environmental Conservation Group(アゼルバイジャン共和国 JICA 研修生), 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

- 2007年6月12日, 琵琶湖博物館の概要説明・館内案内, (独)科学技術振興機構, 琵琶湖博物館.
- 2008年7月15日, 琵琶湖博物館の概要説明, 鶴岡市議会議員, 琵琶湖博物館.
- 2008年8月8日, 琵琶湖博物館の概要説明, 根室北方少年少女, 琵琶湖博物館.
- 2008年11月12日, 琵琶湖の魚と環境, 鹿児島県霧島市議会, 琵琶湖博物館.
- 2008年12月3日, 琵琶湖博物館の概要説明, 伊丹市環境ネットワーク, 琵琶湖博物館.
- 2009年1月30日, 琵琶湖博物館の概要説明, 知多市環境審議会, 琵琶湖博物館.
- 2009年2月11日, 琵琶湖博物館の概要説明, 下槻瀬地区環境保全隊, 琵琶湖博物館.
- 2009年3月7日, 琵琶湖博物館の概要説明, 名古屋市議会議員, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

- 2008年4月18日, 京都新聞, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「鯰-イメージとその素顔-」について, (2008年4月17日取材).
- 2008年5月1日, 毎日新聞, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「鯰-イメージとその素顔-」について, (2008年4月17日取材).
- 読売テレビ(東京本社), ビワコオオナマズ等水族展示室の撮影協力, (2008年5月10日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育委託業務の管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3件。

近畿中国森林管理局・箕面森林環境保全ふれあいセンター、(財)水と緑の惑星保全機構・里地ネットワーク、琵琶湖博物館、里山デジタル選手権，作品展示協力。

【企画調整活動】

新任職員研修，資料としての水族－琵琶湖の環境と魚、水環境に関する課題，講師，2008年4月23日，琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

研究代表者会議，委員，2008年4月1日～2009年3月31日。

市民公開講座「新琵琶湖学入門セミナー」，企画実施世話人，2008年4月～2009年3月。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2007年4月1日～2009年3月31日，琵琶湖博物館広報交流サービス事業「新たな交流のあり方検討委員会」，主担当者。

【館外の活動】

2003年11月～，大津市立逢坂小学校，逢坂小学校エコスクール委員会，委員。

2006年7月～，草津市立笠縫東小学校，笠縫東小学校エコスクール支援委員会，委員。

2002年9月～，滋賀県農政水産部農村振興課，みずすまし専門部会（生態系保全専門部会）、部会員。

2000年5月～，滋賀県琵琶湖環境部，自然環境保全課滋賀県生きもの総合調査委員会，委員（魚貝類部会長）。

2003年5月～，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，移入種問題検討委員会，委員（水生生態系部会部会長）。

2008年6月～2010年6月，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，指定希少野生動物種および指定外来種に関する選定専門委員。

2007年6月～，滋賀県農政水産部農村振興課，農村まるごと保全推進委員会，委員。

2007年8月～2009年8月，琵琶湖総合保全学術委員会，委員。

2008年2月～，ゆりかご水田ネットワーク顧問。

2004年10月～，淡水魚保全研究会，常任理事。

2003年5月～，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会（技術部会 人工繁殖技術検討委員会），委員。

2007年7月～，農村整備センター，水口頭首工（野洲川）改良工事にとまなう稀少種・ハリヨの保全に関するアドバイザー。

2007年8月～2009年8月，琵琶湖総合保全学術委員会委員，滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生課。

2003年8月～，国土交通省近畿地方整備局・大戸川ダム工事事務所，環境アドバイザー。

2004年4月～，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，丹生ダム環境保全対策懇談会，委員。

2008年5月～2009年3月，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度，委員。

2004年7月～，環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進委員。

2007年6月～，環境省自然環境局，絶滅のおそれのある動植物種の生息域外保全計画動物分科会，検討員。

2004年8月～，環境省自然環境局，絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会，検討員（淡水魚類作業部会）。

本年度は事業部長の職についたことから、博物館事業についてはこれまでの研究部運営中心の活動から事業部中心の活動へと変化した。

研究事業では昨年6本の学術論文と1本の専門分野の著作を報告したこともあり、今年度は2本の論文に留まった一方、琵琶湖博物館のシリーズ本の一冊として「化石は語る—ゾウ化石でたどる日本の動物相—」を出版できた。

この本では、これまで博物館の研究として行ってきた古琵琶湖層群からのゾウ化石の話題を中心に、そこから読み取れる地球の環境変化を一冊の本としてまとめた。これによって、地域資料の研究とそれをさらによく知るための周辺地域の研究の重要性も伝えることができた。

また、本年度は平成20年度笹川科学研究助成「博物館資料を使った地球温暖期における日本列島の脊椎動物化石相の実態解明」が採択されたことから、この研究の一環として台湾およびインドネシアにおける海外調査を行った。

交流事業では、引き続きはしかけ活動「ほねほねくらぶ」の担当を行っている。この活動を活かして、昨年度につづき本年度もお正月展示を行った。また、展示事業では、企画展示の準備に多くの時間を費やした。

印刷物

【学術論文】

高橋啓一・北川博道・添田雄二・小田寛貴（2008）北海道 忠類産ナウマンゾウの再検討. *化石*, 84, 日本古生物学会 : 74-80.

岡村喜明・高橋啓一（2008）新生代からの足跡化石研究の現状. *化石研究会会誌*, 41, 化石研究会 : 82-88.

【一般向けの著作】

高橋啓一（2008）湖と人と—琵琶湖博物館からの発信—「ゾウ・シカ・ワニも生息太古の琵琶湖」. *毎日新聞*, 50, 毎日新聞社 : 2008年5月20日.

高橋啓一（2008）*琵琶湖がピューラーサイエンスシリーズ*「化石は語る—ゾウ化石でたどる日本の動物相—」. 川那部浩哉 監修・高橋啓一 編, 八坂書房 : 230p.

高橋啓一（2008）化石を楽しむ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2008年10月22日.

高橋啓一（2009）化石を見に行こう. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞社 : 2009年1月3日.

研究活動に関する業績

高橋啓一（2008年6月22日）近藤洋一「大型哺乳動物化石からみた日本列島における動物相の変遷と絶滅—とくにナウマンゾウ、オオツノジカ、へらじかの時空分布—」へのコメント. 2008年度日本旧石器学会シンポジウム「日本列島の旧石器時代遺跡—その分布・年代・環境—」, 首都大学東京（東京都）, [口頭発表].

高橋啓一（2008年8月22日）どのように研究が進展してナウマンゾウからマンモスゾウをみつけたのか. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Takahashi, K. (2008年11月23日) Transition of large mammal faunas in the Sea of Japan area during the Late Pleistocene International symposium on human ecosystem changes in the northern circum Japan Sea Area (NCJSA) in Late Pleistocene. The University of Tokyo, [口頭発表].

大島光春・富田幸光・高橋啓一・里口保文（2009年1月31日）下部鮮新統古琵琶湖層群上野層から産出したイノシシ類化石について. 日本古生物学会第158回例会, 沖縄, [口頭発表].

北川博道・高橋啓一・張鈞翔・蔡政修・田中里志（2009年1月31日）台湾の中期更新世矮小型マンモス，日本古生物学会第158回例会，沖縄，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「奥山コレクションの整理と古生物学的意義付け」，（2008年度）.

琵琶湖博物館共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」(研究代表者：高橋啓一)，研究代表者（2007～2010年度）.

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析」(研究代表者：井内美郎)，共同研究者（2008～2010年度）.

総合地球環境学研究所プロジェクト「日本列島における人間－自然相互関係の歴史的・文化的検討」(研究代表者：湯本貴和)，プロジェクトメンバー（2006～2010年度）.

平成20年度笹川科学研究助成「博物館資料を使った地球温暖期における日本列島の脊椎動物化石相の実態解明」(研究代表者：高橋啓一)，研究代表者（2008年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本第四紀学会，評議員，2007年8月～2009年8月.

日本第四紀学会，博物館連絡委員，2007年8月～2009年8月.

化石研究会，事務局長，2003年6月～.

化石研究会誌特集号，査読および編集，5件.

Journal of Asian Earth Science，査読，1件.

国際第四紀学連合 INQUA 小委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」準備委員会，委員.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件.

はしかけ運営，ほねほねくらぶ，担当.

2008年7月26日，夏休み自由研究講座，博物館講座，琵琶湖博物館，運営.

2008年10月19日，化石の観察会，観察会，甲賀市土山，案内.

2008年12月13日，古琵琶湖のゾウ化石が教える地球のリズム，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演.

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月31日・6月1日，化石研究会総会・学術大会，琵琶湖博物館，運営.

2008年8月10日，忠類ナウマン象記念館 開館20周年記念・ナウマンゾウ発見40周年プレ記念特別展記念講演会，幕別町教育委員会，講演.

2008年8月12日，琵琶湖博物館の説明，平成20年度環境教育研究協議会コース別研修，琵琶湖博物館，講演.

2008年8月31日，琵琶湖博物館の説明，京都女子大学文学部国文学科4回生，琵琶湖博物館，講師.

2008年11月1日，総合学習講義，立命館守山中学校，琵琶湖博物館，講師.

2009年2月21日，体験学習講義，大阪市小学校教育研究会理科部会，琵琶湖博物館，講師.

2009年3月1日，古環境について，熊野古道語り部友の会，琵琶湖博物館，講演.

2009年3月4日，古環境について，シニア自然大学，琵琶湖博物館，講演.

視察対応

2008年5月8日，琵琶湖博物館の説明・展示案内，韓国全羅南道順天市.

2008年6月10日, 琵琶湖博物館の説明・展示案内, 韓国昌原市.
2008年6月17日, 琵琶湖博物館の説明・展示案内, 韓国順天市職員.
2008年7月16日, 展示案内, 自由民主党特命委員会・水の安全保障研究会.
2008年7月26日, 琵琶湖博物館の説明・展示案内, JTB2008 東日本合同教育担当者関西戦略研修.
2008年11月8日, 琵琶湖博物館の説明, 京都文化博物館ボランティア研修会.

メディアへの協力

2008年4月16日, 大分合同新聞, ミエゾウの牙発見, インタビュー, (2008年4月15日取材).
2008年4月17日, 西日本新聞, 朝日新聞, 読売新聞, 毎日新聞, ミエゾウの牙宇佐で出土, インタビュー, (2008年4月15日取材)
2008年5月16日, 朝日新聞, 化石から環境変化を読み取る, インタビュー (2008年5月14日取材).
2008年7月9日, 朝日新聞, 歴史に探る気候変動<上>, インタビュー, (2008年2月19日取材).
2008年8月11日, 北海道新聞, 十勝毎日新聞, ナウマンゾウ足跡化石か, インタビュー, (2008年8月10日取材).
2008年10月1日, あいあいAI 滋賀, 湖国450万年の軌跡, インタビュー, (2008年9月3日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石標本データベース公開, 担当.
哺乳類標本データベース公開, 担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石鉱物資料, 受入.
化石資料, 受入.
脊椎動物資料, 受入.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4件.
2008年1月3日~2008年2月15日, お正月開館トピック展示「うし」, 展示制作.

【企画調整活動】

新任職員研修, 博物館について・A展示室紹介, 講師, 2008年4月15日, 琵琶湖博物館.
JICA研修, 琵琶湖博物館の研究事業について, 講師, 2008年4月15日, 琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

環境史研究担当の研究推進, 2008年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年~, 図書選定委員.

【海外渡航】

2008年7月28日~8月5日, 台湾台南県菜寮地区, 台南県, 台湾省博物館(台北), 笹川研究助成に係る調査.
2009年1月21日~1月28日, インドネシア生物科学センター(ボゴール), 動物学博物館, 笹川研究助成に係る調

査.

【館外の活動】

2007年～2010年, The Vth International Conference on Mammoths, Scientific Committee.

琵琶湖博物館での研究テーマは、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓と中世山岳寺院の研究、湖上交通史の考古学的研究や琵琶湖特別民俗調査の成果である民具資料を扱った考古民俗学的方法論の開発研究を中心に行っているが、2008年度は特に、湖底遺跡や湖上交通および山岳寺院の調査・研究成果のとりまとめを行った。

「湖と山をめぐる考古学」と題した、これまでの古墳時代を除く考古学的なテーマに沿った論文集をまとめることになり、新たにこれに含める4編の論文を書き下ろした。また、全22編からなる論文の加筆・修正を行い、図版等の整備も行った。これらは2009年度中にとりまとめを終了して刊行する予定である。なお、山岳寺院の成果の一部は、旧坂田郡を中心とする機関誌「佐加太」に2回にわたって掲載し、毎日新聞の特集記事にも解説を加えた。

また、10数年間にわたって行っている琵琶湖博物館民具資料の整理作業は大詰めを迎え、科学研究費補助金を新たに得ることができたため、「生産生業（諸職）ほか」と称した「琵琶湖博物館資料目録」（民俗資料5）を年度末に刊行することができた。これにより、本館所蔵の民具資料目録は完結することとなった。

県立大学大学院での講義は6年目となり、実践的な考古学的テーマに沿った話題を中心に取り上げ、日本列島の考古学の現状と課題を整理した。

その他、マレーシア・シンガポール・韓国、鹿児島県や沖縄県での博物館や遺跡の調査を行い、特に本州最南端の前方後円墳や埴輪出土地の調査については詳細に実施した。

研究部長としては、科学研究費補助金事業の学芸員全員申請に取り組み、全申請書類に目を通して修正事項を指摘するなどしながら採択率の向上に努め、また今後の博物館における研究の方向について、その指針をまとめた。

印刷物

【専門分野の著作】

用田政晴（2008）清滝寺に見る近世山岳寺院要素．佐加太，28，米原市教育委員会：2-3．

用田政晴（2008）書籍紹介「琵琶湖博物館資料目録 民俗資料3・4 衣食住・生産生業」．民具マンスリー，41（7），神奈川大学日本常民文化研究所：21-22．

用田政晴（2009）伊吹山寺にみる中世山岳寺院祖型．佐加太，29，米原市教育委員会：2-3．

【一般向けの著作】

用田政晴（2008）湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「伊吹山の山岳寺院－山伏とつわものどもの跡をたどる－」．

毎日新聞，48，毎日新聞社：2008年4月29日．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

用田政晴（2008年5月10日）山岳寺院研究・伊吹山．京都新聞カルチャーセンター，京都新聞カルチャーセンター（京都市），[口頭発表]．

用田政晴（2008年5月12日）伊吹山の信仰と寺院跡．朝日カルチャーセンター，朝日カルチャーセンター（千葉市），[口頭発表]．

用田政晴（2008年5月16日）上平寺城・山岳寺院論の提唱．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

用田政晴（2008年10月9日）琵琶湖をめぐる古墳と古墳群．米原市教育委員会，米原市歴史講座，伊吹山文化資

料館（米原市），[口頭発表].

用田政晴（2009年3月1日）湊・舟、そして湖底に沈んだ村，米原市教育委員会，米原市米原公民館，[シンポジウム進行].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖をめぐる水と山の歴史にかかわる考古学的研究」，（2008年度）.

日本学術振興会科学研究費補助金事業「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的手法論の開発研究と展示への試み」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2008年度）.

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」（研究代表者：用田政晴），（2008年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，代表.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年度前期，滋賀県立大学大学院人間文化学研究科，「日本考古学」.

2008年12月18日，京都造形芸術大学，「博物館学」.

【受賞など】

第22回ハン六文化振興財団学術賞，2008年8月31日，滋賀県内の遺跡の調査研究と保存の功績が認められた.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件.

2008年7月20日，日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ＝ファーブル』，琵琶湖博物館，司会進行・実行委員会委員.

2008年7月26日，日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ＝ファーブル』，東京大学，実行委員会委員.

2009年2月28日，湖上交通史の再検討，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演.

他の博物館・機関等主催行事

2008年9月21日，琵琶湖博物館見学会，彦根市肥田町，琵琶湖博物館，説明.

2008年10月9日，伊吹山山岳寺院研究，伊吹山文化資料館講演会，伊吹山文化資料館（米原市），講演.

2008年10月25日，湖北の古墳と古墳群，浅井歴史民俗資料館歴史講演会，浅井歴史民俗資料館（長浜市），講演.

2008年11月7日，丸子船に見る琵琶湖の環境と湖上交通の歴史，日本商工会議所青年部全国大会，琵琶湖博物館，講演.

2009年2月6日，琵琶湖学習，立命館守山中学校，総合学習，琵琶湖博物館，指導.

視察対応

2008年8月20日，資料調査，富山大学，琵琶湖博物館.

2008年8月27日，資料調査，滋賀県文化財保護協会，琵琶湖博物館.

2008年11月2日，資料調査，国立歴史民俗博物館，湖北町.

2009年1月14日，資料調査，米原市教育委員会，琵琶湖博物館.

2009年2月18日，展示案内，中国旅行社，琵琶湖博物館.

2009年3月10日，展示案内，浜松市文化財保護委員会，琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館学芸員個人ページ（用田政晴），更新多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民具資料目録作成、写真撮影・編集.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館常設展示（B 展示室）維持管理，担当.

他博物館・機関の活動

滋賀県立安土城考古博物館，2008 年度，展示企画検討会，委員.

【企画調整活動】

クイズ形式案内板設置，担当，2008 年度，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究計画の策定と調整・研究予算の編成と執行管理，2008 年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2008 年 7 月 28 日～8 月 3 日，マレーシア，博物館・遺跡・民俗調査.

2008 年 10 月 10 日～10 月 13 日，韓国，博物館・遺跡調査・研究交流.

【館外の活動】

2008 年度，金山城跡調査指導委員会，委員長.

2008 年度，安土城考古博物館展示企画委員会，委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的としている。

今年度は、申請専門研究「琵琶湖北西部の中期更新世前半の化石林に基づく古環境復元」と共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」を軸に野外調査や試料処理等の研究活動を行ってきた。

そのほか下記のような研究成果を論文公表した。

1. 愛知川化石林の古環境復元の再検討

愛知川河床から産出した直立樹幹・樹根化石および大型植物化石群集に基づいて、第三紀植物群の構成要素である落葉針葉樹メタセコイアとスイショウが優占する後期鮮新世の湿地林を復元した。本研究では、直立樹幹・樹根化石の木材組織の特徴から、メタセコイアとスイショウを区分することができた。現在ではそれぞれ中国やベトナムに隔離分布しているメタセコイアとスイショウは、鮮新世後期の日本では後背湿地で湿地林を構成していた。また、直立樹幹・樹根化石の時空間分布から、メタセコイアとスイショウは異なった層準に生育していたと考えられ、メタセコイアは長期間にわたり成長するような安定した環境下で生育し、一方スイショウはハンノキとともに頻繁に洪水が起きるような不安定な環境に生育していたと考えられる。湿地林の周辺には、スゲ属、カヤツリグサ属、タデ属、ミツガシワなどの水生・湿性植物が生育していた。化石林の後背地には、サワラ、ツガ属などの常緑針葉樹とカエデ属やモクレン属などの落葉広葉樹の混合林が分布していた。大型植物化石群集の構成種は冷温帯性の植物で構成され、現在は亜熱帯性の気候下で生育するスイショウも、後期鮮新世の間、日本では冷温な気候で生育していたと考えられる（Yamakawa et al., 2008）。

2. 古琵琶湖層群・更新統畑層の植物化石群集

滋賀県高島市畑に分布する前期更新世末に堆積した古琵琶湖層群畑層（約74万年前）から産出した大型植物化石を採取し、古植生と古環境を考察した。その結果、落葉広葉樹17科20属23分類群、草本16科18属27分類群の、主に種実類からなる大型植物化石群集を得た。針葉樹や常緑広葉樹は見られず、ハンノキが全体の36.7%の高い産出個体数率を占め、スゲ属、ヒメジソ、エゴノキ属、キイチゴ属が比較的多かった。日本からの絶滅種サイクロカリア属の化石が産出しており、古琵琶湖層群で最も新しい化石記録となる。これらの植物化石群は河川の後背湿地で堆積し、当時の堆積地にはヒシ属などの水生植物とハンノキの湿地林が分布し、周囲に落葉広葉樹が分布していた。なお、この研究は、千葉大学理学部地球科学科の学部生の卒論研究の一部である（南澤ほか、2008）。

印刷物

【学術論文】

Yamakawa, C., Momohara, A., Nunotani, T., Matsumoto, M. and Watano, Y. (2008) Paleovegetation reconstruction of fossil forest dominated by *Metasequoia* and *Glyptostrobus* from the late Pliocene Kobiwako Group, central Japan. *Paleontological Research*, 2 (12) : 167-180.

南澤 修・松本みどり・百原 新・山川千代美(2008)古琵琶湖層群畑層から産出した前期更新世末の大型植物化石.
植生史研究, 2 (16) : 49-55.

【専門分野の著作】

山川千代美・亀田佳代子・夏原浩子・布谷知夫(2008)人とモノと情報が行き交うライブラリー—琵琶湖博物館図書室—. *専門図書館*, 233 : 7-12.

【一般向けの著作】

- 山川千代美 (2008) 湖と人と一琵琶湖博物館からの発信―「時空を超え 歴史語る街路樹」. *毎日新聞*, 55, 毎日新聞社: 2008年6月24日.
- 山川千代美 (2009) 150万年前のイチョウ. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞: 2009年1月28日.
- 山川千代美 (2009) 「銀河鉄道の夜」に登場. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞: 2009年2月4日.
- 山川千代美 (2009) 生きている化石. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞: 2009年2月11日.
- 山川千代美 (2009) カエデに似た葉. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞: 2009年2月18日.
- 山川千代美 (2009) アケボノゾウの時代に咲いた. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞: 2009年2月25日.
- 小川雅広・西村知記・松田征也・山川千代美・牧野厚史 編 (2009) *うみつこ通信*. 1, 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 山川千代美 (2008年6月19日) 北海道忠類産ナウマン象化石の包含層から産出した大型植物化石. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 山川千代美 (2008年12月5日) 北海道忠類産ナウマンゾウ化石の包含層から産出した大型植物化石に基づく古植生の検討. 総合地球環境研究所, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館申請専門研究「琵琶湖北西部の中期更新世前半の化石林に基づく古環境復元」, (2008～2009年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」(研究代表者: 高橋啓一), 共同研究者 (2007～2010年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.
- 2008年10月5日, 化石観察会, 観察会, 滋賀県甲賀市鮎河, 担当.
- 2008年12月13日, 古琵琶湖層の化石林が語ること, 新琵琶湖学入門セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.
- 2009年2月8日, 地学研究発表会, 研究交流, 滋賀大学・滋賀県大津市, 担当.

他の博物館・機関等主催行事

- 2008年7月30日, 展示解説, 滋賀県立膳所高校, スーパーサイエンス研修, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2008年8月12日, 植物化石から見た環境変化, 環境教育研究協議会, 研修Kコース, 講師.
- 2008年11月8日, 大学生と文化施設職員・文化政策関係者との交流研修会, 京都橘大学, 講義.
- 2008年12月6日, 地層・化石について, 立命館守山中学校, 総合学習, 琵琶湖博物館, 講義.

メディアへの協力

- 雑誌掲載対応, 104件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 植物化石標本, 整備、同定.

他博物館・機関の活動

二上山博物館，二上層群産大型植物化石の同定・天然記念物指定，約70点。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう（ゾウのいる森コーナーについて），内容指導，1件。

【企画調整活動】

事業に関する資料提供・記者発表，71件。

県内旅館・ホテル等への広報活動（チラシ・ポスター配布），2件。

京都駅前観光キャンペーンの参加，2件。

【研究部関連事業】

研究成果等の記者発表・資料提供，22件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年度，琵琶湖博物館情報誌「うみっこ通信」，企画・編集担当。

【館外の活動】

2008年4月～，大津市科学館運営協議会，委員。

まず、すでに終了した専門研究に関して、大学院時代以来長年取り組んできた日本中世の判決文書、裁許状（さいきょじょう）に関する研究を総括した大山喬平 編『中世裁許状の研究』（塙書房）が刊行され、拙論三篇が掲載された。これは日本中世社会における裁判の位置づけを歴史的に検討したもので、12世紀に東アジア世界の辺境に樹立された軍事政権が、実は王朝国家の下部に存在した法曹官僚を中枢に取り組みで成立した政権であり、政権の存立基盤として裁判が重視されたこと、そして、紛争当事者双方の主張と判決理由を明示するというスタイルの裁許状が軍事政権以外の権力機構の判決文書にも約一世紀にわたって影響を与えたことなどを実証的に明らかにしたものである。「隣人訴訟」事件に象徴されるように、日本社会は裁判忌避型の社会であることが強調されることが多い。しかし、紛争解決の手段として公正な手続きによる裁判を重視する流れは、14世紀の新たな軍事政権成立後も一定程度存在し、近世社会へと受け継がれていった可能性がある。こうした公正な手続きによる裁判の存在は、各中間団体それぞれが自らの権益を証明する文書を保管することを促したのであり、地縁型の小規模な村落やその内部の小経営体の自立化にとっても大きな意義をもっていたのではないだろうか。

次に、科学研究費補助金基盤研究（C）「日本中世における内水面の環境史的研究」（研究代表者橋本道範）、琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における内水面の環境史的研究—その環境と生業—」（研究代表者橋本道範）、科学研究費補助金基盤研究（B）「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」（研究代表者水野章二）に関して、第一に、「環境史」研究の有効性と課題を探るべく、佐野静代氏の業績の批判的検討を行った。佐野氏は、歴史地理学的研究をベースとしつつも、歴史生態学的視点など幅広い視点で、多種多様な資料をもちいてコモンズの長期的な検証を行い、「環境史」という新たな研究領域を切り開く先頭に立っている。ただ、日本中世史という限られた視点からみると資料や研究史の理解について違和感を覚える部分もある。分野を跨ぐことによって新たな地平に立とうとする「環境史」研究は、異分野との「協業の装置」として捉える必要があるのではないだろうか。なお、これについては『歴史科学』（大阪歴史科学協議会）誌上に掲載された。

第二に、日本中世における自然と人間との関係を人類史的視点から追究した故網野善彦氏の学説、特に、非農業民論と海民論について、実証的な批判を行った。網野氏の議論の最大の特質は、山野河海における人間の自然との関わり方は田畠におけるものとは異質で、それは「無所有」（「だれのものでもない」という関係）という関わり方であったとする点にある。そこでまず、陸域と水域とが不定期に可逆的に推移する「水辺」という環境が記録史料にはどのように登場しているのかにこだわり、それが「河原」、「河辺」、「浜際」などとして認識されていたこと、日本中世における支配の地域単位であった領域型荘園は「水辺」という環境を必ず含みこんで成立していたことを強調した。その上で、「水辺」における漁撈の実態を追究し、網野氏が主張する海民による特権的な漁撈がいわばフィクションであり、「水辺」では様々な階層による異質な漁撈が競合しつつ併存していたことを明らかにした。特に、村落の生業と関わる重要な漁撈として、その日の生活のための小規模で素朴な漁撈があったことを断片的な史料からではあるが主張し、そうした小規模な漁撈も市場を前提とした可能性があることを推測した。このような非特権的な内水面漁撈の存在は、村落やその内部の小経営体の存立基盤として重要な意義を有していたのではないだろうか。なお、これについては『史林』（史学研究会）誌上に掲載された。

第三に、吉井川左岸に展開した王家領備前国豊原庄の環境と人間との関わりについて、通史「平安時代末期・鎌倉時代の邑久」の叙述を行った。これについては『邑久町史 通史編』に掲載された。

次に、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化—景観の形成史—」（研究代表者内山純蔵）に関して、殺生禁断（狩猟や漁撈の禁止）が行われた「寺辺」という空間がどのように成立していたのかを考察するため、GISを利用して視界の復元を行った。これについては現在投稿中である。

なお、すでに終了した総合研究「東アジアの中の琵琶湖：コイ科魚類の展開を軸にしたその環境史に関する研究」（研究代表者中島経夫）歴史班の成果をとりまとめるべく作業を進めたが、力及ばず研究調査報告書の刊行にまで至らなかった。ご関係の各位にお詫び申し上げたい。

その他事業関係の業務については下記に概要のみ示すが、2009年3月19日、館保管の滋賀県指定文化財東寺文

書(滋賀県所有本)の一部を重要文化財に指定するよう文化審議会が文部科学大臣に答申したことを特筆しておく。

印刷物

【学術論文】

橋本道範 (2009) 日本中世における水辺の環境と生業—河川と湖沼の漁撈から—。史林, 92-1, 史学研究会 : 4-35.

【専門分野の著作】

橋本道範 (2008) 鎌倉幕府の裁判。大山喬平 編, *中世裁許状の研究*, 塙書房, 東京都 : 57-69.

橋本道範 (2008) 鎌倉幕府裁許状の歴史的位置—対問・勘判を引用する裁許状の広がり—to注目して—。大山喬平 編, *中世裁許状の研究*, 塙書房, 東京都 : 165-225.

橋本道範 (2008) 東寺の裁許と裁許状—権門における鎌倉幕府裁許状の構成の受容—。大山喬平 編, *中世裁許状の研究*, 塙書房, 東京都 : 487-506.

橋本道範 (2009) 琵琶湖の寺辺殺生禁断論—「現代化」論に向けて—。Uchiyama, J. ほか, *NEOMAP Interim Report 2008*, Research Institute for Humanity and Nature, 京都府 : 163-169.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

橋本道範 (2008年4月18日) 日本中世における水辺の環境と生業について—河川と湖沼の漁撈から—。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

橋本道範 (2008年4月19日) 日本中世における水辺の環境と生業について—河川と湖沼の漁撈から—。史学研究会例会, 史学研究会, 京都大学(京都府京都市) [口頭発表].

橋本道範 (2008年8月22日) 寺辺殺生禁断試論—宗教的タブーのつくる景観—。総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」第3回景観研究会, 総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」, 大谷婦人会館(京都府京都市) [口頭発表].

橋本道範 (2009年3月13日) Remarks on the prohibition of hunting and fishing around temples: The cases of Chomei-ji and Ishiyama-dera temples in the Lake Biwa area. NEOMAP General Meeting 2009, 総合地球環境学研究所4-4プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」, 総合地球環境学研究所(京都府京都市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における内水面の環境史的研究—その環境と生業—」, (2007~2010年度).

総合地球環境学研究所4-4プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」(研究代表者：内山純蔵), メンバー (2005~2011年度).

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」(研究代表者：水野章二), 共同研究者 (2006~2009年度).

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「日本中世における内水面の環境史的研究」(研究代表者：橋本道範), 研究代表者 (2007~2010年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク，琵琶湖博物館，補助，2件。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料貸出情報の発信，補助。

トピック展示情報の発信，補助，2件。

収蔵資料展示情報の発信，補助，3件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

館蔵資料東寺文書（滋賀県所有本）国指定のための調査，対応，2件。

館蔵資料の貸出，対応，2件。

館蔵資料の特別観覧，対応，2件。

定期収蔵庫清掃（特別収蔵庫・一時保管庫），補助，約10回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2008年5月13日～8月31日，トピック展示「むしとこもんじょー資料保存と防虫対策」，補助。

2009年1月3日～2月15日，お正月トピック展示「ウシいっぱい モーいっぱい!？」，補助。

2009年9月2日～9月28日，琵琶湖博物館B展示室，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第1回，補助。

2009年9月30日～11月3日，琵琶湖博物館B展示室，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第2回，補助。

2009年11月5日～12月24日，琵琶湖博物館B展示室，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第3回，補助。

2009年2月17日～3月22日，琵琶湖博物館B展示室，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第4回，補助。

2009年3月24日～4月26日，琵琶湖博物館B展示室，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第5回，補助。

2008年度，展示交流員担当（委託業務仕様書の作成、研修の企画、調整、制服の購入など），主担当。

2008年度，展示交流のあり方検討会議，主担当。

2009年1月19日，展示交流員外部講師研修「つなぐことの意味ー展示交流の現場で」（染川香澄氏），企画・運営・講師。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004年11月～，呂久町史編集委員会，専門委員（中世史部会）。

主として、古琵琶湖層群とその同時代の地層(鮮新-更新統)にある火山灰層をもとに、広範囲の詳細な地層層序をあり、時空間的な地層形成環境の変化や、日本の鮮新-更新世の爆発的火山噴火活動史を明らかにすることを目的としている。また、琵琶湖の形成史に関する研究では、ここ数年とくに現在の琵琶湖形成史にとりくみ始めた。これまで、現在の場所で琵琶湖ができる以前の琵琶湖、いわゆる古琵琶湖といわれているものの形成や環境変動について行ってきたが、現在の琵琶湖がある地域でどのように形成されてきたのかを中心に行っている。その一つとして、今年度より共同研究「琵琶湖周辺のボーリングコアから見た琵琶湖の成立」を立ち上げ、外部の研究者を中心とする組織で行っている。現在の琵琶湖にとって約40万年前に急激に湖が広がった理由についての検討のために、気候変動と湖水位変動についての関係についての研究を始める準備(一部は共同研究として行っているもの)を行っている。これら現在の琵琶湖の形成史に関する研究は、数年で結論がでるものではないと考えており、中心となる研究の視点や方法をかえながら、長いスパンで徐々に解明していく計画を検討中である。

2008年度の前半は、2件の学会発表準備を行ったほか、市史の原稿執筆をおこなった。後半は、2009年度に行う湖沼堆積物研究のシンポジウムについて計画を行った他、外部研究プロジェクトに関わった調査を行った。この外部研究プロジェクトは個人研究の新たな方向性や広がりについて重要であるほか、琵琶湖周辺の数万年間の変動を研究するための参考になると考えている。しかし、新たな研究プロジェクトの検討や新たな地域での調査を行った他には、論文公表などの目立った研究活動がなく、やや停滞気味である。

博物館事業活動については、2009年が滋賀県北部で起こった大規模な地震である姉川地震から100年目にあたることから、その記念展示を計画し、滋賀県防災危機管理局との共催で行う事、外部の地震関連研究者による展示の協力、関連する展示として県内の3カ所で同様の展示を行うなどを計画に盛り込み、関係者との協議・打ち合わせを進めてきた。琵琶湖博物館での展示は2009年4月から6月に行う予定で進めている。さらに、2010年春には、これまでに2回行ってきた地域の化石や鉱物愛好家と共同で行うギャラリー展示の鉱物・化石展を開催する方向で関係者との打ち合わせを進めている。

これまでの研究成果やこれから行おうとする研究、研究を元にした交流活動をはじめとする博物館活動の発信を、琵琶湖博物館インターネットページの個人管理ページで行っている。また、滋賀県に関係する地学関係者による情報交換や交流、研究の活発化などを目的として、琵琶湖博物館地学関係学芸職員と共に事務局をもち、研究会を開いている。この研究会の活動については、前述の個人管理ページにおいて研究会のページを作成して紹介している。

印刷物

【学術論文】

黒川勝己・長橋良隆・吉川周作・里口保文(2008)大阪層群の朝代テフラ層と新潟地域のTzwテフラ層の対比. 第4紀研究, 47, 日本第四紀学会: 93-99.

Satoguchi, Y., Nagahashi, Y., Furusawa, A., Yoshikawa, S. and Inouchi, Y. (2008) The Middle Pleistocene to Holocene tephrostratigraphy of the Takashima-oki core from Lake Biwa, central Japan. *Journal of geoscience Osaka City University*, 51: 47-58.

【一般向けの著作】

里口保文(2008)湖と人と一琵琶湖博物館からの発信―「数億年前の微生物の亡骸!?!」. 毎日新聞, 62, 毎日新聞社: 2008年9月9日.

里口保文(2009)伊賀・近江盆地(古琵琶湖層群, 段丘堆積層, 琵琶湖湖底堆積物). 日本地質学会 編, 日本地方地質誌 近畿地方, 5, 朝倉書店, 東京: 253-258.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 里口保文・小松原琢・宮本真二（2008年8月22日）湖岸ポーリングコアからみた琵琶湖に於ける3万年前以降の湖水位変動. 日本第四紀学会2008年大会（東京大学），日本第四紀学会，東京大学（東京都），[ポスター発表].
- 里口保文（2008年9月20日）宮崎層群とのテフラ対比からみた津房川層の堆積年代. 日本地質学会第115年学術大会，日本地質学会，秋田大学（秋田県秋田市），[口頭発表].
- 里口保文（2008年9月20日）地域間層序対比と年代層序スケール. 日本地質学会第115年学術大会，日本地質学会，秋田大学（秋田県秋田市），[座長].
- 長橋良隆・吉川清志・吉川周作・吉田武義・里口保文（2008年9月22日）火山ガラスの化学組成によるアダカイト質テフラ層の同定と噴火時期. 日本地質学会第115年学術大会，日本地質学会，秋田大学（秋田県秋田市），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「安曇川周辺地域の古琵琶湖層群の層序と年代」，（2008年度）.
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖周辺のポーリングコアから見た琵琶湖の成立」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2008年〜）.
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析」（研究代表者：井内美郎），共同研究者（2008年〜）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本地質学会，代議員（全国区），2007年4月〜2009年4月.
- 日本地質学会，生涯教育委員会委員，2008年度.
- 日本第四紀学会，テフラ・火山研究委員会委員，2008年度.
- 日本第四紀学会，第四紀研究編集委員，2007年9月〜.
- 日本堆積学会，事務局員，2008年1月〜.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10件.
- 水はしかけ（はしかけグループ），主担当.
- 2008年10月4日，地層の見方講座―野洲川を例にして，観察会，湖南市吉永，案内者，（みなくち子どもの森自然館共催・小西省吾氏と共同）.

他の博物館・機関等主催行事

- 2008年7月22日，琵琶湖400万年の自然史，石部高校，琵琶湖探求2008（夏季集中講義），琵琶湖博物館，講義.
- 2008年7月28・29日，滋賀県の断層（調べ），石部高校，琵琶湖探求2008（夏季集中講義），琵琶湖博物館，学生指導.
- 2008年7月31日，大昔の甲賀，土山中学校，総合的な学習の時間，琵琶湖博物館，講義.
- 2008年8月15日，地層の見方，茨木市教育研究会理科部会，茨木市教育研究所教員研修，湖南市と琵琶湖博物館，実習指導・講義.
- 2008年11月22日，琵琶湖の地層と化石について，立命館守山中学，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，学生

指導.

2008年12月11日, 地層・大地の変化, 草津市立矢倉小学校, 第6学年の理科学習, 矢倉小学校(草津市), 小学生指導.

2009年2月26日, 滋賀と地球の地学, 滋賀県教育委員会, 理科支援員研修会, 琵琶湖博物館, 講義.

視察対応

2008年7月22日, 深層ボーリングの保管・活用に関する事, 関西国際空港株式会社建設事務所, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2008年7月5日, 京都新聞, A展示室地域の人々による展示コーナーの説明, (2008年7月4日取材).

2009年3月26日, 読売テレビ, ニューススクランブル, A展示室烏丸ボーリングコアおよび火山灰の説明, (2009年3月23日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ(里口), 管理・運営, 更新多数.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

岩石・鉱物資料, 受け入れ, 約1300件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2008年7月1日, A展示室「地域の人々の展示コーナー」新設, 展示コーナー設置運営.

2008年度, 企画展示・ギャラリー展示計画・推進, 主担当.

他博物館・機関の活動

滋賀県防災危機管理局, 2008年9月7日, 平成20年度総合防災訓練での「姉川地震写真展」, 展示構成・説明パネル作成・来場者への説明.

【研究部関連事業】

研究部連絡調整, 連絡調整, 2008年度, 琵琶湖博物館.

業績目録, 編集, 2008年度, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年度, プラズマディスプレイ運用会議, 書記.

【館外の活動】

2008年度, 愛媛大学沿岸環境科学研究センター, 客員研究員.

花粉化石群集の組成変化、堆積物の分析、または、遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて過去数十万年から現在にかけての自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。近年は、近江はもとより、南部アフリカ、南米、アジア各国を対象に、フィールド科学の立場から「人為的環境の成立過程」の復原を行っている。

本年度は、外部研究プロジェクトの最終年度に該当するものがいくつかあり、現在査読中も含めて6本程度の論文を作成し、そのうち2本が年度内に公表された。またプロジェクトに関する学会・研究会での研究発表では、8月の国際地理学連合（チュニジア）や12月の国際ワークショップ（インド）をはじめ、国内の主要な学会等やプロジェクトの研究会等で10回以上成果の一部を公表してきた。

海外の現地調査は、継続中のインド北東部、バングラデシュ、ナミビアにおいて実施するとともに、新たなフィールドとして南米のペルーの予備調査を実施した。これらの海外調査は、異分野との共同研究であり、自己の専門性を意識しつつ、フィールドの一次データを重視した「地に足のついた地域研究」を継続して実施する予定である。また、外部研究費の獲得申請に関する民間助成への申請もいくつか申請したり、大学での非常勤講師なども継続して実施した。

これらの研究は環境史研究領域を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった研究領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置している。したがって、自然科学的方法論を手段としつつ、人文・社会科学の諸分野などとの異分野との共同研究から、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題に関して、世界各地の地域研究を通じて模索してゆきたいと考えている。

印刷物

【学術論文】

宮本真二・内田晴夫・安藤和雄・ムハマッド・セリム（2009）洪水の環境史ーバングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域における地形環境変遷と屋敷地の形成過程ー. *京都歴史災害研究*, 10, 京都歴史災害研究会, 京都: 27-34.

【専門分野の著作】

Miyamoto, S. (2008) Sedimentary Environment of the Fluvial Sediments along the Kuiseb River in Namib Desert, Namibia. Mizuno, K. ed., *Existing permit to conduct research 2008 and Research Report in 2007, Ministry of Environment and Tourism of Namibia*: 41-44.

宮本真二（2008）ヒマラヤ地域、高所山岳地域の自然災害問題（総合地球環境学研究所・地球研プロジェクトFS3-4 PR3-4）. 奥宮清人 編著, *人の生老病死と高所環境ー3大「高地文明」における医学生理・生態・文化適応 2006年・2007年度報告書*, 総合地球環境学研究所, 京都: 53-57.

宮本真二（2009）人文地理学会歴史地理研究部会 112 回要旨（記録）. *人文地理*, 61（1）: 45-48.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

宮本真二（2008年5月25日）ナミブ砂漠、クイセブ川中流域における堆積環境の変遷. 日本アフリカ学会第45回学術大会, 龍谷大学（京都府京都市）, [口頭発表].

宮本真二・安藤和雄（2008年6月6日）バングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域平野に分布する屋敷地の形成過

- 程. 2008年度第1回ブラマプトラ科学研究会, 京都大学東南アジア研究所(京都府京都市), [口頭発表].
- 宮本真二(2008年7月11日) アフリカ大陸南西部、ナミブ砂漠、クイセブ川中流域における堆積環境の変遷. 平成20年度第2回ブラマプトラ科学研究会, 平成20年度第1回総合地球環境学研究所高所研究文化班農業ユニット合同研究会, 京都大学防災研究所(京都府宇治市), [口頭発表].
- Miyamoto, S. (2008年8月14日) The Late Pleistocene Sedimentary Environment of the “Home Silts” Deposit. along the middle Kuiseb River in the Namib Desert, Namibia, 31st Congress International Geography in Tunis, (チュニジア・チュニス), [口頭発表].
- 里口保文・小松原 琢・宮本真二(2008年8月23~24日) 湖岸ボーリングコアからみた琵琶湖における3万年前以降の水位変動. 日本第四紀学会, 東京大学(東京都), [ポスター発表].
- 小野映介・宮本真二(2008年10月4日) 平安時代前半に生じた越後平野中部の地形環境変化. 2008年度日本地理学会秋季学術大会, 岩手大学(岩手県盛岡市), [口頭発表].
- 宮本真二・安藤和雄・アバニィ・クマール・バガバティ(2008年10月12日) アッサム・ヒマラヤにおける土地開発の歴史的検討. 総合地球環境学研究所プロジェクト研究「人間の生老病死と高所環境-3 大「高地文明」における医学生理・生態・文化適応-」全体会議. 総合地球環境学研究所(京都府京都市), [口頭発表].
- 宮本真二・安藤和雄(2008年11月9日) アッサム・ヒマラヤにおける土地開発の歴史的検討. 2008年度人文地理学会大会, 筑波大学(茨城県つくば市), [口頭発表].
- Miyamoto, S. and Ando, K. (2008) Buried Humus Soil Layers and Land Development in Central and Eastern Himalayas. International Workshop in North East INDIA “Agricultural Ecosystem and Sustainable Development in Brahmaputra Basin” 19 and 20th/Dec. 2008 Department of Geography, Guwahati University (インド, ゴウハティ市), [口頭発表].
- 宮本真二(2008年12月28日) ナミブ砂漠、クイセブ川中流域に分布する河成堆積物の評価. 第16回環境史研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 宮本真二・安藤和雄(2009年1月16日) バングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域平野に分布する屋敷地の形成過程. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 宮本真二(2009年1月29日) 京都大学 防災研究所・生存圏研究所・東南アジア研究所・生存基盤科学研究ユニット「気象災害軽減など人間活動の持続可能性に関する研究集会南アジア地域を中心として」. 研究集会, 京都大学防災研究所(京都府宇治市), [座長].
- 宮本真二・安藤和雄・モハメッド・セリム(2009年1月30日) バングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域における先史時代以降の地形環境変遷と屋敷地の形成過程. 京都大学防災研究所・生存圏研究所・東南アジア研究所・生存基盤科学研究ユニット「気象災害軽減など人間活動の持続可能性に関する研究集会南アジア地域を中心として」研究集会. 京都大学防災研究所(京都府宇治市), [口頭発表].
- 宮本真二・安藤和雄・アバニィ・クマール・バガバティ(2009年2月1日) ヒマラヤにおける土地開発史の地域的相違. 2009年度第2回高地文明研究会(高所プロジェクト全体会議), 総合地球環境学研究所(京都府京都市), [口頭発表].
- 宮本真二(2009年3月28日) ナミブ砂漠、クイセブ川中流域に分布する河成堆積物の層相と堆積環境. 2009年日本地理学会春季学術大会, 帝京大学(東京都八王子市), [口頭発表].
- 宮本真二(2009年3月28日) 2009年日本地理学会春季学術大会, 帝京大学(東京都八王子市), [座長]

【インターネットページでの公表】

- 宮本真二(2008年5月11日) 研究メンバー紹介. <http://www.chikyuu.ac.jp/high-altitude/ProjectMembers.html>, 総合地球環境学研究所高所プロジェクト.
- 宮本真二(2008年5月30日) 研究メンバーの成果紹介 <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/brahmaputra/>, 京都大学 東南アジア研究所ブラマプトラ科研プロジェクト.

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「土地開発史の復原」, (2008年度).
- 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)「南部アフリカにおける『自然環境-人間活動』の歴史の変遷と現問

題の解明」(研究代表者：水野一晴)，研究分担者(2005～2009年度)。
文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」(研究代表者：水野章二)，研究分担者(2006～2009年度)。
滋賀大学環境総合研究センター・プロジェクト研究「水辺における『二次的自然』とその維持管理の地域システムに関する研究」(研究代表者：佐野静代)，研究分担者(2008～2010年度)。
文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)「ブラマプトラ川流域地域における農業生態系と開発一持続的発展の可能性一」(研究代表者：安藤和補)，研究協力者(2005～2009年度)。
総合地球環境学研究所・プロジェクト研究「人間の生老病死と高所環境一3大『高地文明』における医学生理・生態・文化適応一」(研究代表者：奥宮清人)，研究メンバー(2006～2011年度)。
総合地球環境学研究所プロジェクト研究「東アジア内海の新石器と現代化：景観形成史」(研究代表者：内山純蔵)，研究メンバー(2006～2011年度)。
文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)「ペルー海岸地方における先土器時代神殿の建築構造と自然災害に関する学際的研究」(研究代表者：藤澤正視)，研究協力者(2007～2009年度)。
文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)「高地環境における家畜と近縁野生種の生態と遺伝学的関係に関する学際的研究」(研究代表者：稲村哲也)，研究協力者(2007～2009年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境史研究会，企画・運営，2003年一。
人文地理学会，地理学文献目録編集員・雑誌担当委員，2006年7月一。
人文地理学会，歴史地理研究部会世話人，2007年11月一。
人文地理学会，編集員会，2008年11月一。
総合地球環境学研究所，共同研究員，2005年7月一。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2009年1月6・7・8日，滋賀県立大学集中講義，「自然地理学」。
2009年1月10・11日，放送大学面接授業，「世界と近江の自然環境のなりたち」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件
はしかけ制度の運営に関すること，担当。

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月17日，環境の歴史と人間，京都教育大学研修，京都教育大学，琵琶湖博物館，講義。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館個人管理ページ(宮本)，更新多数。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4件。

【研究部関連事業】

研究助成に関わること, 主任.

電子顕微鏡の維持管理, 主任.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2008年8月5日～9月4日, チュニジア共和国・ナミビア共和国, 学会発表・現地調査・資料収集.

2008年9月8日～9月25日, インド共和国, 現地調査・資料収集.

2008年11月18日～11月29日, バングラデシュ共和国, 現地調査・資料収集.

2008年12月3日～12月14日, ペルー共和国, 現地調査・資料収集.

2008年12月16日～12月25日, インド共和国, 学会発表・資料収集.

2009年2月10日～2月25日, バングラデシュ共和国, 現地調査・資料収集.

2009年3月13日～3月25日, インド共和国, 現地調査・資料収集.

今年度は、「桶風呂文化の保存と活用」についての取り組みを、昨年度に引き続き行った。東近江市在住の桶職人お二人と竹細工職人お一人に、桶風呂と竹笠の製作を依頼し、その製作工程の記録を行った。調査は実測とメモ、写真による記録だけでなく映像での記録も行い、その成果として滋賀県の桶風呂文化を紹介する教材用DVDの制作を行った。来年度は、今年度の調査成果も加味して、これまでの桶風呂研究のとりまとめを行いたい。

その他、桶風呂の製作工程の記録と併行して博士論文の作成に取り組み、現在、来年度の早い段階で審査を受けるべく訂正を行っている。

また、今年度から、博物館が受け入れ機関となった科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」(2008～2011年度)の共同研究者として、それに伴う研究・調査を始めた。

2008年12月には、今年度は研究初年度であり、日本の博物館や研究機関で行われている民具資料やそれ以外の種類の博物館資料・歴史資料等の基本的な整理・分類方法、資料整理体制、その問題点や課題について、把握を行うことを目的としている。そこで、施設のにも、また予算規模も大きい国立の博物館(国立歴史民俗博物館)と、小規模ながら着実な運営を行っている市立の博物館(川崎市立日本民家園)を調査対象として選び、資料整理担当者からの資料管理方法等の具体的な聞き取り調査を行い、資料整理の方法や具体例の現状把握、そこでの問題点の洗い出しを行う中で、今後の検討材料を得ることにした。合わせて、展示資料および保存管理諸施設の見学などを行った。

加えて、神奈川大学常民文化研究所において犁を素材として扱った研究発表会へ参加し、農具研究の現状を知る中で、民具資料を用いた資料操作方法の具体例についての知見を得ると同時に、次年度以降に本格的に取り組む民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究のための検討項目の抽出を行った。同時に、民具資料と歴史資料の融合を試みた企画展を見学し、最終年での展示案を考える参考資料とした。

印刷物

【一般向けの著作】

老 文子・藤森麻子・杉原宏太(2008) 限界を超え続ける集落. 滋賀県立大学 近江楽座学生委員会, 近江楽座のススメ 学生力で地域が変わる/4年間の軌跡, 株式会社ラトルズ: 22-32.

老 文子(2008) 湖と人と一琵琶湖博物館からの発信-「魅力ある地域への誘いの場」. 毎日新聞, (53), 毎日新聞社: 2008年6月10日.

老 文子(2008) 湖国のエコなおけ風呂. うみんど, 46, 琵琶湖博物館: 6.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

近江の桶風呂再生プロジェクトチーム(特定非営利活動法人 五環生活・老 文子・C3(滋賀県立大学学生チーム)・滋賀県立大学濱崎研究室)(2008) 桶風呂をつくる. 近江の桶風呂再生プロジェクト: DVD 作品時間 27分33秒.

濱崎一志・老 文子・海福 敏(2005) 歴史的な文脈に根ざした地域文化財の保存と活用. HIROBA, 近畿建築士会協議会: 12-13.

老 文子(2004) 民家の中の風呂. 近江八幡の歴史 第一巻 街道と町なみ, 滋賀県近江八幡市: 138-139.

浜村 茂・森垣直美・老 文子(2004) 歴史的景観とその構成要素. 近江八幡市八幡重要伝統的建造物群保存地区見直し調査報告書, 滋賀県近江八幡市: 57-74.

濱崎一志・老 文子(2002) 肥田の歴史的景観とその構成要素. 平成13年度 彦根市景観部会報告書 彦根の歴史的

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

老 文子（2008年5月16日）桶風呂の形態と使用域．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「朝鮮人街道沿いの民家と集落景観」，（2008年度）．

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）「琵琶湖地域民具資料を用いた考古民俗学的方法論の開発研究と展示への試み」（研究代表者：用田政晴），共同研究者（2008～2011年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件

2008年度，フィールドレポーターみちるのべ今昔調査，琵琶湖博物館，アドバイザー．

2008年8月3日，博物館実習，琵琶湖博物館，実習指導．

2008年9月21日，古い民家のおけ風呂を見にいこう，見学会，彦根市肥田町，主担当．

他の博物館・機関等主催行事

2008年6月26日，農家の循環型の暮らしと桶風呂，米原市教育委員会，米原市歴史講座，伊吹山文化資料館（滋賀県米原市），講師．

2008年7月27日，愛東の桶風呂，愛のまち交流協会，愛のつくまち交流事業，東近江市立愛東公民館（滋賀県東近江市），講師．

2008年11月27日，おけ風呂の話，教育委員会事務局文化財保護課，近江の水の宝クルーズ3「堅田 湖賊の郷を訪ねて」，琵琶湖博物館，講師．

2009年2月6日，立命館守山中学校 総合学習（琵琶湖学習），琵琶湖博物館，学習補助．

メディアへの協力

2008年4月1日，綾羽株式会社 社内報，琵琶湖発人間探訪 今を生きる 第六十一話，資料提供・インタビュー，（2008年2月28日取材）．

2008年7月8日，NHK 大津放送局，桶風呂の精神を今に，資料提供・インタビュー，（2008年7月1・2日取材）．

2008年7月28日，京都新聞，半蒸半湯の桶風呂体験，インタビュー，（2008年7月27日取材）．

2009年9月22日，中日新聞，鹿島邸のおけ風呂 学生ら興味津々，インタビュー，（2008年9月21日取材）．

2009年3月31日，中日新聞，職人技 民具のたが直す，インタビュー，（2009年3月29日取材）．

視察対応

2008年10月13日，博物館資料案内，氷見市立博物館，琵琶湖博物館．

2009年2月5日，博物館資料案内，滋賀県立大学人間文化学部，琵琶湖博物館．

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

2009年6月30日，滋賀県立大学，滋賀県立大学 CAMPUS GUIDE 2009，写真・メッセージ提供．

2009年10月30日，滋賀県立大学，滋賀県立大学 大学紹介 DVD，琵琶湖博物館撮影協力・メッセージ提供(2009年6月30日撮影)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整理，管理運営，琵琶湖博物館資料目録(13)の編集，資料の受け入れ5点。

環境資料整理，収蔵庫管理，資料の貸し出し15点。

考古資料整理，収蔵庫管理。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4件。

他博物館・機関の活動

伊吹文化資料館，2008年6月18日～7月25日，おけ風呂ー滋賀県の特異な入浴文化ー(第70回伊吹文化資料館企画展)，展示資料とパネルの貸し出し・映像資料の提供・展示内容の監修。

東近江市立愛東公民館，平成20年度 第2回 ほがらか学級(桶風呂製作記録上映会)，メッセージ・展示資料提供。

【研究部関連事業】

研究セミナーの運営と広報・特別研究セミナーの関係各機関への広報，主担当，2008年度。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年度，滋賀県博物館協議会，広報委員。

【館外の活動】

2008～2010年，滋賀県環境影響評価審査会，委員。

In 2008 I was again leader and chief administrator of the Lake Biwa Museum's comprehensive research project on biological exploration and systematics of the aquatic biota of Lake Biwa and surrounding waters. I made a few collecting trips but mostly managed other participants' activities and the project's paperwork. As part of this, I organized a multi-speaker presentation for the museum's annual formal research convocation. This was combined with the project's own mid-term meeting, to which I invited several outside advisors to help us define the future course of the project.

Several multi-authored papers in which I had a major or minor role were published during the course of the year. 1) The first records from Tohoku of a species of clam shrimp, *Caenestheriella gifuensis*. 2) The discovery of the "ypsigon", a slug-like, apparently parasitic juvenile that follows the cypris stage in the Facetotecta, a group of crustaceans until now only known from larvae; there was considerable media interest in this find worldwide. 3) The redescription of a nematode parasite from the eye socket of catfish. 4) An SEM-based description of the first- and second-stage ascothoracid-larvae, and some aspects of the males, of various Russian species of the ascothoracidan crustacean genus *Dendrogaster*, which are endoparasites of starfishes. I provided advice and literature on *Dendrogaster* and other kinds of starfish parasites to Dr. Mieko. Komatsu's laboratory at The University of Toyama.

In the course of curating the crustacean collections, I made progress on a review of clam shrimp distribution records in Japan. I also prepared the first draft of a proposal to add many animal names found in early Opinions issued by the International Commission on Zoological Nomenclature to the appropriate Official Lists and Indexes. Also, being a Commissioner myself, I was involved in revising the Commission's bylaws and voted on many nomenclatural Cases brought before the Commission.

2008年度の主な作業は、研究代表者・事務担当者として、琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」の先導および管理を行なった。本研究の調査に時々参加したが、私の作業の多くは、共同研究者への依頼手続きや通信であった。私と共同研究者6名は、本総合研究の前半の結果について、6月に開催された琵琶湖博物館研究報告会で発表した。総合研究「分類学」の評価や、残りの2年間の計画について検討するために、外部アドバイザー数人を同日に予定された総合研究の中間会議に招聘した。

私の貢献は重要または少ないものもあるが、数人の著者による学術論文4編を出版した。1) カイエビの分布域について、青森県と宮城県の水田からの初記録を発表した論文。2) プランクトンにおける幼生しか知られていなかった甲殻類彫甲亜綱のキプリスy幼生に続く生活環段階(ナメクジ様の寄生虫であると考えられる「イプシゴン」幼体)を発見した論文。本論文は、世界中でメディアの関心を集めた。3) ナマズの眼窩から採集された寄生性線虫(*Philometra parasiluri*)の再記載論文。4) ヒトデ類に寄生する囊胸類シダムシ属数種の第1期および第2期アスコトラシダ幼生(雄の情報も少し含む)の、走査電子顕微鏡による形態学的な記載論文。

シダムシ類を含むヒトデの寄生虫について、富山大学の小松研究室に関連文献や専門的なアドバイスをを行った。

当館の甲殻類標本の管理・整理をしながら、カイエビ類の国内分布に関する論文の原稿を進展させた。私はまた、動物命名法国際審議会が1910年代に出版した意見書に見られる動物学名を、公式リストまたは公式索引に加えることを提案する草稿を準備した。私自身、同審議会の会員として、審議会の細則の改正に関係しており、審議会の前にもたらされる多くの命名法に関する案件について投票した。

印刷物

【学術論文】

- 大高明史・Mark J. Grygier・市田忠夫・斉藤仁志・川瀬莉奈 (2008) カイエビ (甲殻綱, 鰓脚亜綱, カイエビ目, カイエビ科) の青森県と宮城県からの初記録. *青森自然誌研究*, 13, 青森自然誌研究会 : 47-50.
- Kolbasov, G. A., Grygier, M. J., Høeg, J. T. and Klepal, W. (2008) External morphology of the two cypridiform ascothoracid-larva instars of *Dendrogaster*: The evolutionary significance of the two-step metamorphosis and comparison of lattice organs between larvae and adult males (Crustacea, Thecostraca, Ascothoracida). *Zoologischer Anzeiger*, 247, Elsevier : 159-183.
- Moravec, F., Scholz, T., Kuchta, R. and Grygier, M. J. (2008) Female morphology of *Philometra parasiluri* (Nematoda: Philometridae), an ocular parasite of the Amur catfish *Silurus asotus* in Japan. *Acta Parasitologica*, 53 (2), W. Stefanski Institute of Parasitology, Polish Academy of Sciences : 153-157.

【専門分野の著作】

- Schram, F. R., Ah Yong, S. T., Crandall, K. A., Gherardi, F., Grygier, M. J., Lavalli, K. L., Poore, G., Rogers, D. C., Scholz, G., Simon, T., Tamone, S. and Wicksten, M. (2008) Publication in the Journal of Crustacean Biology. *Journal of Crustacean Biology*, 28 (2), The Crustacean Society : 197-202.
- Høeg, J. T., Glenner, H., Grygier, M. J., Fujita, Y., Perez-Losada, M. and Crandall, K. A. (2008) Metamorphosis in crustacean Y-larvae. A parasitic solution to an old zoological riddle. *Journal of Morphology*, 269, Wiley InterScience : 1471.
- Rosenberg, G. and Grygier, M. J. (2008) Comment on the proposed designation of a neotype for *Conus jaspideus* Gmelin, 1791. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (3), 動物命名法国際審議会 : 214.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2197 (Case 3341) *Cardium egmontianum* Shuttleworth, 1856 (currently *Trachycardium egmontianum*; Mollusca, Bivalvia, CARDIIDAE) : current usage conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (2), 動物命名法国際審議会 : 152-153 [特にグライガー委員の意見、p. 153].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2202 (Case 3368) *Eatoniella* Dall, 1876 and EATONIELLIDAE Ponder, 1965 (Mollusca, Gastropoda) : conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (3), 動物命名法国際審議会 : 220-221 [特にグライガー委員の意見、p. 221].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2203 (Case 3343) *Gigantopecten* Rovereto, 1899 and *Lissochlamys* Sacco, 1897 (Mollusca, Bivalvia, PECTINIDAE) : names conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (3), 動物命名法国際審議会, 222-224 [特にグライガー委員の意見、pp. 223-224].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2205 (Case 3376) *Lithocolletis oxyacanthae* Frey, 1855 (currently *Phyllonorycter oxyacanthae*; Insecta, Lepidoptera) : specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (3), 動物命名法国際審議会, 227-228 [特にグライガー委員の意見、p. 228].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2206 (Case 3355) ORTHOCLADIINAE Kieffer, 1911 and *Orthocladius* van der Wulp, 1874 (Diptera, CHIRONOMIDAE) : subfamilial name conserved and type species fixed. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (3), 動物命名法国際審議会 : 229-231 [特にグライガー委員の意見、p. 230].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2212 (Case 3267) *Cherax tenuimanus* Smith, 1912 (Crustacea, Decapoda, PARASTACIDAE) : proposed designation of neotype not accepted and usage not conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (4), 動物命名法国際審議会 : 320-322 [特にグライガー委員の意見、p. 321].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2213 (Case 3387) *Cancer setosus* Fabricius, 1798 (currently *Pseudograpsus setosus*; Crustacea, Decapoda) : replacement of a syntype by a neotype

approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (4), 動物命名国際審議会: 323-324 [特にグライガー委員の意見、pp. 323-324].

International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2214 (Case 3366) *Cisseis* Gory & Laporte de Castenau, 1839 and *Curis* Gory & Laporte de Castelnau, 1838 (Insecta, Coleoptera, BUPRESTIDAE): generic names not conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (4), 動物命名国際審議会: 325-326 [特にグライガー委員の意見、p. 326].

【一般向けの著作】

マーク・ジョセフ・グライガー (2008) 湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「淡水生物を中間宿主に 寄生虫ヒトへの感染暮らしの変化で減少」. *毎日新聞*, 63, 毎日新聞社: 2008年9月23日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Alonso-Zarazaga, M., Brothers, D. J., Bogutskaya, N. G., Bouchet, P., Fautin, D. G., Grygier, M. J., Halliday, R. B., Kerzhner, I. M., Kottelat, M., Krell, F., Kullander, S. O., Lamas, G., Lim, S., Macpherson, E., Mawatari, S. F., Minelli, A., Ng, P. K. L., Pape, T., Papp, L., Patterson, D. J., Pyle, R., Rosenberg, G., Stys, P., Tol. J. V. and Zhang, Z.-Q. (2008年5月29日) ZooBank: the official registry of zoological names. Updating the Linnaean Heritage, University of Padua and The Linnean Society of London, Accademia Galileiana di Scienze Lettere ad Arti in Padova (イタリア、パドバ), [口頭発表].

Hoeg, J. T., Glenner, H., Grygier, M. J., Perez-Losada, M., Crandall, K. A. and Fujita, Y. (2008年6月11日) Metamorphosis in Y-larvae: A remarkable convergence between the facetotectan ypsigon and the rhizocephalan vermigon. The Crustacean Society 2008 Summer Meeting, The Crustacean Society, Texas A&M University at Galveston (米国、ガルベストーン), [口頭発表].

マーク・J・グライガー (2008年6月29日) はじめに・琵琶湖及びその集水域の寄生虫粗に関する研究 (魚類の寄生虫やハリガネムシ類を中心に) [その前半]・小動物、特にコケムシ類、ミミズ類に関する分類学的研究・まとめ. 2008年度総合研究・研究報告会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表 3.5件].

Alonso-Zarazaga, M., Brothers, D. J., Bogutskaya, N. G., Bouchet, P., Fautin, D. G., Grygier, M. J., Halliday, R. B., Kerzhner, I. M., Kottelat, M., Krell, F., Kullander, S. O., Lamas, G., Lim, S., Macpherson, E., Mawatari, S. F., Minelli, A., Ng, P. K. L., Pape, T., Papp, L., Patterson, D. J., Pyle, R., Rosenberg, G., Stys, P., Tol. J. V. and Zhang, Z.-Q. (2008年7月8日) ZooBank: the official registry of zoological names. XXIII International Congress of Entomology, Entomological Society of Southern Africa, International Convention Center (南アフリカ、ダーバン), [口頭発表].

Høeg, J., Glenner, H., Grygier, M. J., Fujita, Y., Perez-Losada, M. and Crandall, K. A. (2008年8月18日) Metamorphosis in crustacean Y-larvae. A parasitic solution to an old zoological riddle. First International Congress on Invertebrate Morphology, Natural History Museum of Denmark, University of Copenhagen Panum Institute (デンマーク、コペンハーゲン), [口頭発表].

Pyle, R. L., Alonso-Zarazaga, M., Bogutskaya, N. G., Bouchet, P., Brothers, D., Fautin, D. G., Grygier, M. J., Halliday, R. B., Kerzhner, I. M., Kottelat, M., Krell, F.-T., Kullander, S. O., Lamas, G., Lim, S., Mawatari, S. F., Minelli, A., Ng, P. K. L., Pape, T., Papp, L., Patterson, D. J., Rosenberg, G., Stys, P., Tol. J. v. and Zhang, Z.-Q. (2008年8月27日) ZooBank: reviewing the first two years, and preparing for the next 250. 20th International Congress of Zoology, シンポジウム「Systema Naturae 250」, Muséum National d'Histoire Naturelle, Paris (フランス、パリ), [口頭発表].

Ziegler, A. and Grygier, M. J. (2009年1月6日) First report of *Ulophysema* (Crustacea: Ascothoracida) outside northern seas, parasitizing the bathyal Antarctic species *Pourtalesia hispida* (Echinoidea: Holasteroidea). 13th International Echinoderm Conference, University of Tasmania (オーストラリア、

ホバート), [ポスター発表].

【インターネットページでの公表】

Glenner, H., Høeg, J. T., Grygier, M. J. and Fujita, Y. (2008年5月20日) Induced metamorphosis in crustacean y-larvae: Towards a solution to a 100-year-old riddle. <http://www.biomedcentral.com/1741-7007/6/21>, *BMC Biology*, 6, BioMed Central : 21 (6 pp. + additional files (videos) 1-5) .

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「鰓脚類と顎脚類（甲殻類）の分類学や固体発生学に関する研究」, (2005年度へ).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者：マーク・ジョセフ・グライガー), 研究代表者 (2006～2010年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者:前畑政善), 研究協力者 (2007～2011年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 7件.

動物命名法国際審議会, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, Associate Editor, 査読, 4件.

Systematic Parasitology, Associate Editor.

日本動物分類学会, *Species Diversity*, Editorial Consultant.

日本ベントス学会, *Japanese Journal of Benthology*, 編集委員, 2008年4月1日更新.

日本付着生物学会, *Sessile Organisms*, 編集委員.

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences. *Zoosystematica Rossica*, International Advisory Board.

American Microscopical Society and Division of Invertebrate Zoology, Society for Integrative and Comparative Biology, *Invertebrate Biology*, 査読, 1件.

Zoological Museum Amsterdam, *Contributions to Zoology*, 査読, 1件.

Zootaxa, 査読, 2件.

Crustaceana, 査読, 1件.

Journal of Natural History, 査読, 1件.

Hydrobiologia, 再査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

はしかけ運営, 田んぼの生き物調査グループ, 副担当.

フィールドレポーター運営, 「What's a Field Reporter?」, 募集ちらしの英語の監修.

視察対応

2008年5月17日, ミシガン州立大学ビジネススクール関係者.

2008年5月20日, 大阪市立大学大学院法学研究科のタイの国際政治団.

2008年7月3日, 京都インターナショナルスクール.

2008年7月3日, JICA 集団研修「環境中の有害汚染物質対策」コース.

2008年7月19日, ミシガン州立大学連合日本センター.

2008年7月24日, JICA 国別研修「フィリピン都市及び蚕業における環境管理・環境対処能力向上」コース.

2008年9月2日, イラク環境大臣の一行.

2008年11月22日、「世界学生湖沼会議2008」の海外から参加の学生。
2008年12月6日、Euro Asia Management Studies Association。
2009年1月21日、豪州からの訪日教育旅行誘致に係る教育旅行関係者。
2009年2月6日、アロイーズ財団会長の一行。

メディアへの協力

2008年5月27日、琵琶湖博物館の学芸員が参加した研究チームが、謎の甲殻類「Y(わい)幼生」の変態「イプシゴン」を発見しました、資料提供。
2008年5月27日、NHK 天津放送局、滋賀610、(2008年5月27日取材)。
2008年5月28日、毎日新聞、謎のプランクトン「Y幼生」人工的脱皮に成功、(2008年5月27日取材)。
2008年5月28日、朝日新聞、「Y幼生」脱皮に成功、(2008年5月27日取材)。
2008年5月28日、中日新聞、世界初「幼体」の姿謎のプランクトンY幼生、(2008年5月27日取材)。
2008年5月28日、産経新聞、イプシゴン甲殻類・・・一転ナメクジ化、(2008年5月27日電話取材)。
2008年5月28日、京都新聞、謎のプランクトン人工変態成功、(2008年5月27日取材)。
2008年6月26日、TOKYO FM、八代英輝クロノス、(2008年6月25日取材)。
2008年6月26日、NatureAsia-Pacific、<<http://www.natureasia.com/japan/tokushu/detail.php?id=109>>、謎の甲殻類「Y幼生」の人工変態に成功、(2008年6月18日取材)。
2008年7月23日、67年ぶりにナマズの眼窩に寄生する線虫を再発見しました！、資料提供。
2008年7月24日、京都新聞、ナマズの眼窩“珍種”線虫、(2008年7月23日取材)。
2008年11月19日、Kippo News、第580号、Scientific name is ‘okame hyottoko’ [学名は「オカメ ヒョットコ」]、(2008年10月23日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本受入、無脊椎動物(昆虫、貝類を除く)、18件(271点)。
仮データ入力・ラベル付け、甲殻類930点、扁形動物50点、その他の無脊椎動物42点(タイプ標本62点を含む)。
貸出(研究のため)、広島大学、ヒル類4点。
研究依頼、広島大学、カイアシ類2点。
研究依頼期間延伸、4件。

他博物館・機関の活動

北九州市立自然史・歴史博物館、資料の寄贈、甲殻類カシラエビ(*Sandersiella acuminata*)3個体。
スミソニアン研究所国立自然史博物館、資料の寄贈、甲殻類ミスジヒメカイエビ(*Eulimnadia braueriana*)2点11個体。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4件。
常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」、パネル更新。
2009年3月23日～4月12日、水族トピック展示「ハッタミミズ」、協力。

他博物館・機関の活動

大阪市立自然史博物館、常設展示「生き物のくらし」、英文説明の翻訳。

【企画調整活動】

新任職員研修、C展示室「寄生虫」説明、講師、2008年4月16日、琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」中間会議、運営・司会，2008年6月29日，琵琶湖博物館。

日仏友好百五十年記念国際シンポジウム「ジャン・アンリ＝ファーブル」，講師順番係，2008年7月20日～21日，琵琶湖博物館。

琵琶湖博物館研究発表会「琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見る」，司会進行，2008年10月5日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター，「Lake Biwa Environmental Research Institute」，パンフレットの英語の監修。

(NPO 法人) 農と自然の研究所・(NPO 法人) 生物多様性農業支援センター，「田んぼの生きもの指標ーあなたのまなざしを待っている世界ー」および「田んぼの生きもの全種リスト」，協力。

動物命名法国際審議会，委員。

2008年5月1日～2009年3月31日，国立科学博物館外部評価委員会，委員。

2008年11月15日更新，(米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員。

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部(無脊椎動物学研究科)，協力研究員。

本年度の専門研究は、農村地域の保全管理活動に着目し、平成19年度から展開している「農地・水・環境保全向上対策」を通じて、農村地域の保全管理活動に必要な組織形成手法について調査・検証した。「農地・水・環境保全向上対策」は、農地や農業用水などの農業用施設の保全管理やそれらが基盤となって形成されている農村の生態系、景観などの環境保全を地域ぐるみの共同活動で実施し、その活動組織に対して支援を行うという施策である。滋賀県においてはこの対策を、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」と命名し、約800集落・農地面積約32,000haで展開している。この対策を取り組むためには、地域の主体的な活動が必要不可欠であり、主体的かつ持続的な地域づくりの組織形成を図る必要がある。今回、生態系保全活動のメニューの一つでもある「魚のゆりかご水田」に着目して調査を行った。

総合研究では、「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」について共同研究者として加わった。具体的には、昨年度の調査に引き続き、農業排水路において5月上旬から7月末にかけて、遡上してくる生物の捕獲調査や水路の物理的調査を実施した。この研究に関係して、従来の水田環境の再生を目的とした滋賀県の施策である「魚のゆりかご水田」の概要を日本生態学会で発表した。さらに、昨年度の捕獲調査で淡水ヌマガメ類がまとまって採集されたことから、今年度は捕獲個体にマーキングを施す等の詳細な調査を試みた。今後は、魚類の遡上の可能性や在来種の淡水ヌマガメ類の生息空間の確保といった点を視野に入れ、農村地域に生息する様々な生物について農業施設の構造面からの保全対策、農業・農村の持つ多面的機能のPR手法を検討していきたいと考えている。

印刷物

【一般向けの著作】

小川雅広・西村知記・松田征也・山川千代美・牧野厚史 編 (2009) うみっこ通信. 1, 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

小川雅広・堀 明弘 (2008年10月5日) 魚を水田に遡上させる試み—魚のゆりかご水田—. 平成20年度琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

小川雅広・前畑政善・水野敏明・金尾滋史 (2009年2月20日) 滋賀県南部の水田地帯に出現する淡水カメ類. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

小川雅広 (2009年3月17日) 魚を水田に遡上させる試み—魚のゆりかご水田—. 第56回日本生態学会, 日本生態学会, 岩手県立大学 (岩手県), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「農村地域の環境保全活動組織の形成手法について」, (2008年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者 (2008年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

里山体験教室，野洲市，副担当，3件。

2008年10月9日，昔の農家のくらしー脱穀等の体験ー，指導者のための博物館活用講座，琵琶湖博物館，講師。

2008年11月8日，マキノの里山を歩こう，観察会，高島市，講師。

2009年1月10日，魚のゆりかご水田，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2008年6月14日・7月5日，生き物観察会，長浜・米原みずすまし推進協議会，米原市立坂田小学校・米原市，講師，2件。

2008年6月22日，生き物観察会，野洲市須原自治会，野洲市，講師。

2008年11月22日・12月6日，立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師，2件。

2009年1月15日，魚類観察，湖南地域みずすまし推進協議会，イオンモール草津，講師。

視察対応

2008年7月3日，施設説明，野洲市須原自治会，琵琶湖博物館。

2008年8月5日，施設説明，六箇環境保全会，琵琶湖博物館。

2008年8月17日，施設説明，南あわじ市自治会，琵琶湖博物館。

2008年10月12日，施設説明，宇根野ヶ原を守る会，琵琶湖博物館。

2008年10月30日，施設説明，油ヶ淵悪水土地改良区，琵琶湖博物館。

2008年11月13日，施設説明，尾張西部排水対策推進協議会，琵琶湖博物館。

2008年12月16日，施設説明，愛知県土地改良事業団体連合会，琵琶湖博物館。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう（人にも生きものにもやさしい田んぼ），内容指導，1件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年度，琵琶湖博物館情報誌「うみっこ通信」，企画・編集主担当。

2008年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，主幹を兼務。

【館外の活動】

2008年度，魚のゆりかご水田ネットワーク事務局。

2008年度，みずすましネットワーク運営委員。

専門研究では、水族飼育施設において長期にわたり継代飼育しているカワバタモロコについて、飼育水槽内での産卵生態を調べるとともに、これまでに蓄積した知見をまとめて、愛媛県松山市の愛媛大学で開催された魚類学会シンポジウム「カワバタモロコの人工繁殖と系統保存」について口頭発表を行った。

外部資金による委託研究では、近畿大学の小林徹准教授と共同で、ハリヨの生息域外保全について研究をおこなった。この研究では、飼育下で継代繁殖しているハリヨの、遺伝的多様性の低下を軽減する方法を探るとともに、滋賀県内におけるハリヨの遺伝的な系統関係を明らかにし、生息域外での種の保存を図るための基礎的なデータを収集した。本研究は来年度も引き続き実施する予定である。

印刷物

【学術論文】

米山和良・光永 靖・松田征也・平石智徳・國宗義雄・山根 猛 (2008) 琵琶湖南湖における超音波テレメトリーを用いたニゴロブナ成魚の行動測定 (短報). 日本水産学会誌, 5 (74), 日本水産学会: 864-866.

【一般向けの著作】

松田征也 (2008) ヤリタナゴ (コイ科), あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年4月16日.

松田征也 (2008) アブラボテ (コイ科), あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年4月23日.

松田征也 (2008) イチモンジタナゴ (コイ科), あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年4月30日.

松田征也 (2008) シロヒレタビラ (コイ科), あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年5月14日.

松田征也 (2008) カネヒラ (コイ科), あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年5月21日.

松田征也 (2008) ニッポンバラタナゴ (コイ科), あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年6月4日.

松田征也 (2008) 滋賀県立博物館 水族展示の裏舞台「保護増殖センター」(水産研究のフロントから). 日本水産学会誌, 74 (2): 203.

小川雅弘・西村知記・松田征也・山川千代美・牧野厚史 編 (2009) うみっこ通信. 1, 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也・布施幸江 (2008年9月23日) カワバタモロコの人工繁殖と系統保存. 魚類学会シンポジウム, 日本魚類学会, 愛媛大学 (愛媛県松山市), [口頭発表].

松田征也・布施幸江 (2008年10月17日) カワバタモロコの人工繁殖と系統保存. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中野正俊・松田征也 (2009年1月9日) 学校博物館の授業場面に限定した2×2 要因分散分析. 第49回日本動物園水族館教育研究会 よこはま大会, 日本動物園水族館教育研究会, 上郷・森の家 (神奈川県横浜市), [口頭発表].

國宗義雄・米山和良・松田征也・光永 靖・高木 力・山根 猛 (2009年3月28日) 超音波テレメトリーによる琵琶湖におけるニゴロブナ、ゲンゴロウブナの空間分布の季節推移. 平成21年度日本水産学会春季大会, 日本水産学会, 東京海洋大学 (東京都港区), [口頭発表].

米山和良・高木 力・鈴木勝也・山根 猛・光永 靖・松田征也・平石智徳 (2009年3月30日) 音響標識個体の

出現と定置網の漁獲量に影響を与える環境要因の評価ー2 個体分散遺伝的アルゴリズムを用いた解析, 平成 21 年度日本水産学会春季大会, 日本水産学会, 東京海洋大学 (東京都港区), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館収蔵資料の DNA 解析による外国産シジミ侵入時期の推定」, (2008 年度).

希少淡水魚の飼育下保存に関する研究「ISSR 分析によるハリヨ天然繁殖群および水族館飼育継代群の遺伝的多様性」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2008 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

2008 年 8 月 5 日, 企画調整課の仕事, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2008 年 10 月 27 日, オープニング式典, サテライト博物館, 佐山小学校・滋賀県甲賀市, 記録.

2009 年 1 月 17 日, 希少淡水魚の保全を考える, 新琵琶湖学入門セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2008 年 4 月 23 日, 琵琶湖の水生生物, シジミ祭り実行委員会, シジミ祭り, 琵琶湖博物館, 講師.

2008 年 8 月 6 日, 観察会 (貝類班担当), 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2008 年 8 月 12 日, 琵琶湖の概要と水族展示室の解説, 滋賀県教育委員会, 平成 20 年度環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2008 年 9 月 6 日, 琵琶湖の水生生物, 大津市環境保全課, 自然家族がご縁のみんながみんなにありがとう会, 大津市北小松, 講師.

2008 年 11 月 6 日～11 月 7 日, 日本動物園水族館協会 水族館・教育事業, (社)日本動物園水族館協会, ワークショップ, 琵琶湖博物館, 開催運営責任者.

2008 年 11 月 21 日, 琵琶湖博物館の紹介, イオンモール草津, エコステーション, イオンモール草津 (滋賀県草津市), 担当.

2008 年 11 月 21 日～, 写真展示, イオンモール草津, うるわしき琵琶湖よ永遠に, イオンモール草津 (滋賀県草津市), 担当.

2009 年 2 月 8 日, 水族展示バックヤードの案内, ぼてじゃこトラスト, タナゴ復活シンポジウム, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2008 年 6 月 11 日, 琵琶湖博物館の概要, JICA 研修, 琵琶湖博物館.

2009 年 3 月 15 日, 展示案内, 韓国国立慶州博物館, 琵琶湖博物館.

2009 年 3 月 20 日, 評価基準, 宮崎県立博物館, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2008 年 4 月 16 日, 釣りサンデー, 湖国の風物詩ホンモロコ釣り大同川で復活!?, ホンモロコの説明, (2008 年 4 月 12 日取材).

2008 年 5 月 15 日, 中日新聞, ムサントミヨ展示, 資料提供の説明, (2008 年 5 月 7 日取材).

2008 年 5 月 22 日, 滋賀報知新聞, ムサントミヨの稚魚展, 資料提供の説明, (2008 年 5 月 7 日取材).

2008 年 6 月 19 日, 中日新聞, カゼトゲタナゴ草津で幼魚展示, 資料提供の説明, (2008 年 6 月 10 日取材).

2008 年 6 月上旬, 東海テレビ, 外来魚駆除大会, オオクチバス・ケツギョ撮影, (2008 年 5 月 25 日取材).

2008 年 8 月 15 日, 中日新聞, クイズパネル来館者に好評, クイズの設置について, (2008 年 8 月 13 日取材).

2008年8月15日, 京都新聞, クイズ楽しみ博物館入館を, クイズの設置について, (2008年8月13日取材).

2008年8月19日, 京都新聞, 外来魚瀬田川で捕獲, アメリカナマズについて, (2008年8月18日取材).

2008年8月19日, 読売新聞, 瀬田川に特定外来ナマズ, アメリカナマズについて, (2008年8月18日取材).

2008年8月19日, 毎日新聞, 肉食チャネルキャットフィッシュ, アメリカナマズについて, (2008年8月18日取材).

2008年8月19日, 産経新聞, 瀬田川で外来魚捕獲, アメリカナマズについて, (2008年8月18日取材).

2008年9月5日, 京都新聞, 新草津川で捕獲されたレッドテールキャットフィッシュについて, (2008年9月5日取材).

2008年9月5日, びわこ放送, 新草津川で捕獲されたレッドテールキャットフィッシュについて, (2008年9月5日取材).

2008年9月5日, NHK, 新草津川で捕獲されたレッドテールキャットフィッシュについて, (2008年9月5日取材).

2008年9月6日, 産経新聞, 南米原産ナマズ捕獲, レッドテールキャットフィッシュについて, (2008年9月5日取材).

2008年9月6日, 読売新聞, 生態系脅かす? 外来ナマズ捕獲, レッドテールキャットフィッシュについて, (2008年9月5日取材).

2009年1月5日, 読売新聞, お正月トピック展示「うし」, 展示紹介, (2009年1月3日取材).

2009年1月5日, 産経新聞, お正月トピック展示「うし」, 展示紹介, (2009年1月4日取材).

2009年1月10日, 京都新聞, お正月トピック展示「うし」, 展示紹介, (2009年1月8日取材).

2009年1月14日, 読売新聞, コラムでの「ヒウオ」「フナタツベ紹介」, 撮影協力, (2009年1月14日取材).

2009年1月22日, FM滋賀, レディオ・ロコ「Around The Shiga」, 正月開館トピック展示「うし」, (2009年1月22日取材).

2009年2月1日, 翼の王国 (ANAグループ機内誌), 日本水族館紀行「竜宮城伝説を訪ねて」, 水族展示の取材対応, (2008年11月27日取材).

2009年3月5日, 読売新聞, 黄色ナマズ発見! 地方版 (関東地方), 黄色いナマズについてコメント, (2009年3月4日取材).

2009年5月, turbo (西川貴教ファンクラブ機関誌), 琵琶湖博物館, 館内の案内, (2009年3月31日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

インターネットホームページ・博物館ニュース, 企画・運営, 150件.
水族トピック展示, 情報提供, 10件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類資料, 受け入れ, 5件.
映像資料, 提供, 2,611件.
魚類資料, 受け入れ, 2件.
学校サテライト博物館, 展示物製作.

他博物館・機関の活動

名古屋市東山動植物園, ネコギギ、スイゲンゼニタナゴ、オヤニラミ、ニッポンバラタナゴ、ホトケドジョウの分譲・資料提供, 種の保存法・文化財保護法に関わる手続き.
鳥の博物館, イケチョウガイ、メンカラスガイ、ササノハガイ、タテボシガイ、セタシジミ、ナガタニシ貝殻分譲, 資料提供.
三重大学, スイゲンゼニタナゴの鱗提供, 資料提供.
滋賀県立大学, コイ、ニゴロブナ、カネヒラ、ホンモロコシの分譲, 資料提供.

海の中道海洋生態科学館，ヒナモロコノ分譲，資料提供。
水道記念館，アブラヒガイの提供，資料提供。
宮津エネルギー研究所水族館，イチモンジタナゴノ分譲，資料提供。
姫路市立水族館，ハリヨノ分譲，資料提供。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3件。
2008年8月13・15日，水族展示室繁忙期対応，担当，2件。
2008年9月23日，ディスカバリールーム繁忙期対応，担当。
2008年8月10日～8月31日，企画展示「フェアブルにまなぶ」，コレクションボックスへの出展。
2008年3月25日～4月13日，水族トピック展示ムハリヨの稚魚，担当。
2008年5月7日～25日，水族トピック展示ムサシトミヨの稚魚，担当。
2008年5月27日～6月8日，田んぼに生息する不思議なエビ類，担当。
2008年6月10日～29日，水族トピック展示カゼトゲタナゴの稚魚，担当。
2008年7月1日～21日，水族トピック展示ホンモロコノ稚魚，担当。
2008年7月29日～9月7日，水族トピック展示ズナガニゴイの稚魚，担当。
2008年9月13日～10月5日，水族トピック展示コウライギギの稚魚，担当。
2008年10月15日～11月3日，産卵期を迎えたカネヒラ，担当。
2008年11月5日～11月30日，水族トピック展産卵期を迎えたゼニタナゴ，担当。
2009年1月3日～2月15日，お正月開館トピック展示「うし」，主担当。
2009年3月24日～4月12日，水族トピック展ハッタミミズ，担当。

他博物館・機関の活動

亀岡市文化資料館，2008年9月6日，アユモドキの貸し出し，資料提供。
多賀町立博物館，パネル等の貸し出し，資料提供。

【企画調整活動】

企画展示オープニングセレモニー，司会進行・運営，2008年4月29日，琵琶湖博物館。
滋賀県博物館協議会・総会，事務局，2008年6月25日，琵琶湖博物館。
日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ＝フェアブル』，運営・副総括，2008年7月20日～21日，琵琶湖博物館。
琵琶湖博物館協議会，事務局，2008年8月7日・2009年3月8日，琵琶湖博物館，2件。
滋賀県観光PRへの参加，PR活動，2008年9月16日・2009年3月28日，JR京都駅，2件。
琵琶湖博物館協議会，水族展示バックヤード案内，2009年3月8日，琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

調査船「うみんど」管理，副担当，2008年度。
研究用アルコール管理，主担当，2008年度。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年度，広報・経営戦略行動計画の作成と進行管理，運営，広報・経営戦略会議。
2005年～，滋賀県博物館協議会，企画委員，委員。
2008年度，琵琶湖博物館情報誌「うみっこ通信」，企画・編集担当。

【館外の活動】

1999 年～，滋賀県，守山湖岸再生部会，委員.

2000 年～，滋賀県，木浜内湖再生部会，委員.

2004 年～，環境省，淀川水系アユモドキ連絡協議会，委員.

2005 年～，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，検討委員.

2005 年～，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ・イタセン
パラ・ニッポンバラタナゴ種別調整者.

2005 年～，国土交通省，瀬田川及び天ヶ瀬ダム再開発ワーキンググループ，委員.

2008年度の研究活動としては、2006年度より開始され本年度が最終年度となる琵琶湖博物館共同研究「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」、および専門研究「琵琶湖内におけるビワマスの遊泳層解明のための予備的研究」の二本立てで行った。

共同研究では、琵琶湖水系に生息するアマゴとの比較を目的として、周辺水域4河川でのアマゴのサンプリングを行った。ただ、湖内産ビワマスとサツキマスに関する AFLP 分析がサンプルの鮮度の問題でうまくいかなかったため、再度ビワマスのサンプリングを行い、分析をやり直すなどしたため、周辺水域のアマゴについては、DNA の抽出は行ったものの、分析までは行う時間がとれなかった。しかし、本年度までの結果からビワマスについては比較的アマゴの遺伝子の浸透が少ない一方、サツキマスの多くが交雑している可能性のあることが明らかとなった。また、流入河川産アマゴについては、全ての河川においてアマゴの遺伝子が検出され、放流個体由来である可能性が示唆された。しかし、これについては放流種苗となっている醒井養鱒場産のアマゴの由来を調査して比較する必要があることが明らかとなった。

専門研究については、レークトローリングで捕獲されるビワマスと小糸網で漁獲されるビワマスとの比較を行った。その結果、ビワマスの泳層がおおむね10°C前後(8~12°Cくらい)の水温層であることがわかった。しかし、2008年は釣りを含め漁師の漁獲状況について例年とは大きく異なっており、季節変化等十分な調査を行うことができなかった。なお、本研究については、近畿大学の卒論生と一緒にやり、データの整理や解析等を行ってもらいながら、その指導を行った。

事業では、展示担当のグループリーダーを行うとともに、6月に日本電気硝子株式会社より寄贈されたプラズマディスプレイの運用方針を決め、実際の運用を行った。

印刷物

【学術論文】

Kikko, T., Kai, Y., Kuwahara, M. and Nakayama, K. (2008) Genetic diversity and population structure of white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, in the Lake Biwa water system inferred from AFLP analysis. *Ichthyological Research*, 55, 日本魚類学会: 141-147.

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2008) アブラハヤ・タカハヤ (コイ科). あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年7月2日.

桑原雅之 (2008) ニゴイ・コウライニゴイ (コイ科). あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年7月9日.

桑原雅之 (2008) ゼゼラ (コイ科). あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年7月23日.

桑原雅之 (2008) カマツカ (コイ科). あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年7月30日.

桑原雅之 (2008) 湖と人と一琵琶湖博物館からの発信ー「琵琶湖水系はイワナの宝庫」. 毎日新聞, 60, 毎日新聞社: 2008年8月5日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・来見誠二 (2008年4月18日) 琵琶湖内での漁獲されるビワマスとサツキマスにおける遺伝子浸透の現状Ⅱ. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

桑原雅之・井口恵一朗・高橋 洋・亀甲武志・来見誠二（2008年9月21日）ビワマスの河川残留型個体群の存在する可能性. 2008年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 愛媛大学（愛媛県松山市）, [口頭発表].
桑原雅之（2009年3月20日）ビワマス河川残留型個体群存在の可能性. 第48回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 大阪教育大学（大阪府柏原市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖内におけるビワマスの遊泳層解明のための予備的研究」, (2008年度).
琵琶湖博物館共同研究「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」(研究代表者: 桑原雅之), 研究代表者 (2008年度).
琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学, 形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク・ジョセフ・グライガー), 研究協力者 (2008年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年4月～2009年3月, 近畿大学卒論生 (高田和行), ビワマスの性成熟に基づく漁獲選択の検討.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク,, 琵琶湖博物館, 9件.

2008年7月26日, 漁船に乗ってビワマス漁を見てみよう, 見学会, 湖北町尾上, 副担当, (協力: 朝日漁協、共同: 磯田能年).

2008年8月2日, 常設展示室の概要と戦略および展示ビデオ視聴, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年10月26日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 観察会, マキノ町知内, 主担当, (協力: 百瀬漁協・滋賀県漁連高島事業場、共同: 磯田能年).

2008年12月20日, 湖と河川を結ぶ魚・ビワマス, 新琵琶湖学入門セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

2009年1月11・18日, 水鳥の羽根を描いてみよう, ギャラリー展示関連イベント, 琵琶湖博物館, 主担当, (今森洋輔氏協力), 2件.

他の博物館・機関等主催行事

2008年11月30日, 発見! 大谷池・大谷川の魅力, 竜王町新村自治会, 観察会, 新村公民館 (滋賀県竜王町), 講師.

視察対応

2009年2月10日, ハンズオン施設にかかる視察, 沖縄県立博物館・美術館, 琵琶湖博物館.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 10件.

2008年12月13日～2009年2月15日, 細密画で見る琵琶湖の水鳥たち—鳥の羽根に想いをこめて—, 主担当.

2009年1月20日～2月15日, 絵画教室「水鳥の羽根を描いてみよう」参加者作品展, 主担当.

水族展示維持管理, 担当.

【企画調整活動】

新任職員研修, 琵琶湖博物館の展示について (ユニバーサルデザイン説明など含む), 講師, 2008年4月15日, 琵琶湖博物館.

新人水族研修, 水族を支える設備とスタッフ, 講師, 2008年4月23日, 琵琶湖博物館.

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。今年度は 2008 年 4 月 29 日～8 月 31 日まで琵琶湖博物館で開催された日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展を中心に博物館活動を行った。日本の 5 館とフランス国立自然史博物館との共同で企画実施された日本で初めての企画展示であるばかりでなく、フェアブル昆虫記後 100 年の昆虫学等の発展を紹介するという意味から独自の展示である。開催期間中の来館者数は 55,039 人で、展示の評判もおおむね良かった。

「オサムシ飛ぶことを忘れた虫の魅惑」が八坂書房から刊行された。これは、2005 年に開催した企画展「歩く宝石オサムシ飛ばない昆虫のふしぎ発見」の展示解説書をもとにして、作り直したものである。本書の編集および分担執筆を行った。広く一般向けにこれまでの専門研究や共同研究を発信する上で重要な業績となった。

琵琶湖博物館のウェブページで公開している電子図鑑「日本&滋賀県のオサムシ」が日本昆虫学会の「あきつ賞」を受賞した。「あきつ賞」は昆虫分類学、応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生態学などの学術的昆虫学分野、および一般向けの昆虫学教育普及分野に関するホームページを表彰するもので、博物館の研究を基礎とした資料整備活動および情報発信活動が評価された結果と言える。学術論文は大分県九重町の野上層から産出した中期更新世の昆虫化石に関する論文 1 件で、専門分野の著述は 9 件であった。

また、交流担当のグループリーダーとして交流事業の総括を行ったほか、18 件の館内外の観察会・講座等を担当し交流・サービス活動を行った。

印刷物

【学術論文】

林 成多・八尋克郎・北林栄一（2009）大分県九重町の野上層から産出した中期更新世の昆虫化石. 瑞浪市化石博物館研究報告, 35 : 105-110.

【専門分野の著作】

八尋克郎（2008）オサムシの暮らし. 川那部浩哉 監修・八尋克郎 編, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシ飛ぶことを忘れた虫の魅惑」, 八坂書房 : 9-27.

八尋克郎（2008）オサムシの体のつくり. 川那部浩哉 監修・八尋克郎 編, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシ飛ぶことを忘れた虫の魅惑」, 八坂書房 : 28-36.

八尋克郎（2008）北のオサムシはなぜ美しいのか. 川那部浩哉 監修・八尋克郎 編, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシ飛ぶことを忘れた虫の魅惑」, 八坂書房 : 49-50.

八尋克郎（2008）日本のマイマイカブリの地域変異. 川那部浩哉 監修・八尋克郎 編, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシ飛ぶことを忘れた虫の魅惑」, 八坂書房 : 90-95.

長太伸章・曾田貞磁・久保田耕平・八尋克郎（2008）ミトコンドリア DNA から見たオオオサムシ亜属の系統関係—近畿地方の 3 種を中心に—. 川那部浩哉 監修・八尋克郎 編, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシ飛ぶことを忘れた虫の魅惑」, 八坂書房 : 96-105.

八尋克郎（2008）オサムシ調査のはじまり. 川那部浩哉 監修・八尋克郎 編, 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ「オサムシ飛ぶことを忘れた虫の魅惑」, 八坂書房 : 166-172.

八尋克郎（2008）滋賀県のオサムシ類・ゴミムシ類. 昆虫と自然, 43 (10) : 11-14.

八尋克郎（2008）滋賀県で絶滅が危惧される昆虫. 昆虫と自然, 44 (11) : 27-30.

八尋克郎（2008）滋賀県内における外来種ツマアカオオヒメテントウの記録. *Came 虫*, 148 : 7.

【一般向けの著作】

八尋克郎 (2008) 湖と人と一琵琶湖博物館からの発信ー「日仏共同企画展開催に寄せて フェアブルに学ぼう」. *毎日新聞*, 47, 毎日新聞社: 2008年4月22日.

八尋克郎 (2008) 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展 (上). *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞社: 2008年4月23日.

八尋克郎 (2008) 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展 (中). *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞社: 2008年4月30日.

八尋克郎 (2008) 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展 (下). *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞社: 2008年5月14日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎 (2008年9月13日) カワウの営巣が地表性甲虫群集に与える影響. 第68回日本昆虫学会, 地表性甲虫談話会 (小集会), 日本昆虫学会, 香川大学 (高松市), [口頭発表].

藤澤貴弘・藤本玲子・浅井ひろみ・武本大輔・青木まりあ・八尋克郎・近 雅博 (2008年9月14日) 犬上川下流域の河川改修工事による地表性甲虫相への影響. 第68回日本昆虫学会, 日本昆虫学会, 香川大学 (高松市), [口頭発表].

八尋克郎 (2008年11月21日) 滋賀県のゴミムシ相. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

長太伸章・久保田耕平・八尋克郎・曾田貞滋 (2009年3月19日) 近畿地方に分布するオオオサムシ亜属4種の種分化と遺伝子浸透. 第56回日本生態学会盛岡大会, 岩手県立大学 (盛岡市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖およびその集水域におけるゴミムシ類の分類学的研究」, (2008年度).

琵琶湖博物館共同研究「近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理」(研究代表者: 八尋克郎), 研究代表者 (2007~2009年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度~.

日本昆虫学会, 近畿支部自然保護委員, 2003年度~.

地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度~.

【受賞など】

日本昆虫学会 2008年度「あきつ賞」, 2008年9月14日, 電子図鑑「日本&滋賀県のオサムシ」が昆虫分類学、応用昆虫学、昆虫生理学、昆虫生態学などの学術的昆虫学分野、および一般向けの昆虫学教育普及分野に関する、優秀ホームページを表彰する日本昆虫学会の2008年度「あきつ賞」を受賞した.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2008年6月22日, 虫たちのファッションショー, 企画展開連イベント, 琵琶湖博物館, (「びわたん」肥山陽子氏、平田健生氏共同).

2008年6月28日, 烏丸半島でトンボを観察, 観察会, 琵琶湖博物館, 講師, (澤田弘行氏共同).

2008年7月5日, 昆虫観察会, 希望ヶ丘文化公園自然観察会, 希望ヶ丘文化公園・竜王町, 講師, (希望ヶ丘文化

公園共同).

2008年7月27日, 昆虫採集および同定, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 講師, (南 尊演氏、武田 滋氏、高橋和征氏、榎永一宏共同).

2008年8月6日, 琵琶湖博物館の交流事業の概要, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月27日, 滋賀県の昆虫, 滋賀県中学校教育研究会理科部会, 教員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年6月7日, 滋賀県の昆虫, 立命館守山中学校, 琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年6月8日, ホタルを観察しよう, ホタルの学校, 千丈川 (滋賀県大津市), 講師.

2008年6月14日, ホタルの観察会, 真野北公民館, 融神社 (滋賀県大津市), 講師.

2008年6月17日, 滋賀県の昆虫, 東我孫子中学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年6月27日, 企画展示室での展示解説, 滋賀県総合教育センター, 理科実習助手講座・理科教育講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年7月10・15日, 「フェアブルにまなぶ」展の概要, シニア自然大学, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2008年8月3日, フェアブルが観察した虫たち, 滋賀県立近代美術館, 「フェアブル昆虫記の世界」特別講演会, 滋賀県立近代美術館 (滋賀県大津市), 講師.

2008年8月6日, 博物館周辺で昆虫を採集しよう, 滋賀県中学校理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年8月12日, 昆虫から見る琵琶湖, 環境教育研究協議会, ILEC (滋賀県草津市), 講師.

2008年12月6日, 滋賀県の昆虫, 立命館守山中学校, 総合学習 (琵琶湖学習), 琵琶湖博物館, 指導.

2009年2月26日, 滋賀県の昆虫, 滋賀県生涯学習課, 理科支援員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2009年2月26日, 博物館における研究活動, 山口県立博物館, 琵琶湖博物館.

2009年3月24日, 博物館の交流・サービス活動等, 国際子ども図書館, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2008年4月29日, 京都新聞, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年4月28日取材).

2008年5月8日, BBC, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年5月7日取材).

2008年5月14日, NHK, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年5月9日取材).

2008年5月19日, NHK, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年5月9日取材).

2008年6月10日, 東京新聞・中日新聞 (夕刊)・微聞積聞, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年6月5日取材).

2008年6月15日, ニュースもりやま, 学芸員の仕事など, (2008年5月19日取材).

2008年6月28日, BBC, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年6月24日取材).

2008年6月23日, 京都新聞, 企画展関連イベント「虫たちのファッションショー」, (2008年6月22日取材).

2008年6月23日, 朝日新聞, 企画展関連イベント「虫たちのファッションショー」, (2008年6月22日取材).

2008年6月23日, 読売新聞県民情報誌, 企画展関連イベント「虫たちのファッションショー」, (2008年6月22日取材).

2008年6月29日, 中日新聞, 企画展関連イベント「烏丸半島でトンボを観察」, (2008年6月28日取材).

2008年7月2日, あいあいAI 滋賀, 企画展関連イベント「虫たちのファッションショー」, (2008年6月22日取材).

2008年7月6日, KBS 京都ラジオ, 勇さんのGo! GO!ユーストン, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年7月2日取材).

2008年7月2日, 滋賀ガイド, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, (2008年7月6日取材).

2008年7月29日, NHK, おうみ発610-QP ハートプラザ, 「フェアブルにまなぶ」展の紹介, 出演.

2008年10月3日, 朝日新聞, ひと交差点, オサムシHPに学会から賞, (2008年8月29日取材).

2008年10月4日、朝日新聞、アカトンボのふるさと探し、(2008年8月29日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ、2件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、3件。

【企画調整活動】

新任職員研修、C展示室生きものコレクション概要、講師、2008年4月23日、琵琶湖博物館。

JICA博物館集中コース、琵琶湖博物館の交流活動とは、講師、2008年5月12日、琵琶湖博物館。

ショップ会議、レストラン・ショップとの連携、12件、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会、研修委員。

【館外の活動】

2003年7月1日～、滋賀生きもの総合調査委員会昆虫類部会、専門委員。

2008年度は、2007年度から始まった3つの共同研究の推進と、今後の研究費確保のための外部助成金への申請が研究活動の中心となった。これら共同研究に関する活動の他に、自分の専門分野に関する活動としては、学会の運営、国や県の専門委員会への参加、地域支援としての講演や学校団体への対応を行った。専門分野以外の博物館事業としては、2007年度に引き続き資料活用担当のグループリーダーとして、資料活用に関する全体総括や、財政構造改革プログラムに伴う新たな資料保存管理方法の検討や次年度の資料整備予算の確保に努めた。また、新たに担当となった図書資料業務も行った。

具体的な研究活動と成果を以下にあげる。まず5月に、海外の研究ネットワーク、“SEAPRE: Seabird Islands and Introduced Predators: Impacts of Presence and Eradication on Island Function（海鳥の生息する島と移入捕食者：海鳥、捕食者の存在と除去が島の機能に与える効果）”の会議に出席し、琵琶湖のカワウコロニー（集団営巣地）の状況を口頭発表するとともに、島の生態系間の比較のためのデータ提供と内容の議論を行った。博物館共同研究「カワウ営巣林における森林衰退－回復過程の解明：異地性流入モデル構築のための調査方法の検討」では、調査地の視察も含めた共同研究者、研究協力者間の情報交換と議論を、4月から1月にかけて計5回行った。また同時に、外部助成金への申請を積極的に行い、文部科学省科学研究費補助金を含む4件の研究助成に応募した。平成20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」においては、「カワウ被害評価のための餌魚種選好性の解明」と「カワウ被害軽減のための効果的なコロニーおよびねぐら管理手法の開発」の二つの課題に参加しているが、それぞれ館外の共同研究者との共同研究により、一定の成果を上げることができた。前者の結果については、3月の第56回日本生態学会大会で口頭発表を行った。最後に、博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明－ニゴロブナを媒体として－」に関連した活動では、第56回日本生態学会大会のシンポジウム「水田をめぐる群集生態学最前線－ミクロからマクロまで」において、鳥類の視点から見た水田群集研究についてコメントを行った。2008年度までに得られたこれらの研究結果については、まだ論文にとりまとめられていない。そのため、今後は論文執筆を進めていく予定にしている。

専門分野の研究交流や研究発信としては、学会運営、地域支援、博物館行事における講義や学習支援、国や県の委員会等への参加と助言を行った。学会運営に関しては、日本鳥学会では事務局庶務幹事および評議員として、日本生態学会では近畿地区委員として、それぞれの分野の発展のために学会の維持運営にたずさわっている。また、博物館に関わる活動としては、地域支援として2件、観察会・講座等を3回、学校団体への対応を4件行った。これに加え、国や県の委員会等には大小含めて7件に参加しており、2008年度はのべ9日間の会議に参加し意見を述べた。

専門分野以外の事業部の業務としては、資料活用担当の業務が中心となった。特に、地下の温水配管交換工事への対応、予算削減にともなう新たな燻蒸方法の検討と実施、IPM（総合的有害虫管理）対策の一環としての収蔵庫空間の清掃推進を、資料活用担当全体で推進した。さらに図書資料担当として、新任の嘱託員や日々雇用職員に対する業務の指示や対応等を行い、図書資料整備を進めた。こうした資料整備を2009年度以降も継続するため、予算編成時には必要な情報や書類の収集と提出を行い、必要な予算の確保に労力と時間をかけた。

印刷物

【専門分野の著作】

山川千代美・亀田佳代子・夏原浩子・布谷知夫（2009）人とモノと情報が行き交うライブラリー－滋賀県立琵琶湖博物館図書室－. 専門図書館, 233:7-12.

【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2008) おおらかに、たくましく生きる鳥 キジバト. *わたしたちの自然*, (財)日本鳥類保護連盟機関誌, 50 (543) : 24-26.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Kameda, K. (2008年5月16日) Lake Biwa: a Unique Cormorant-Forest System. SEAPRE II, Shoals Marine Laboratory (Maine, USA), [口頭発表].

亀田佳代子 (2008年10月8日) Effects of the Great Cormorant on a Forest Ecosystem: Nutrient Supply and Changes of Vegetation. Dr. Dominique Homberger 奈良セミナー, 日本鳥学会, 奈良女子大学 (奈良県奈良市), [口頭発表].

亀田佳代子・井口恵一朗・棗田孝晴・岩田靖宏・都築 基・大友芳成・田中英樹・坪井潤一 (2008年10月10日) カワウ被害評価のための餌魚種選好性の解明. 平成20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」研究推進会議, (独)水産総合研究センター中央水産研究所, 農林水産省共済組合「南青山会館」(東京都港区), [口頭発表].

日野輝明・石田 朗・亀田佳代子 (2008年10月10日) カワウ被害軽減のための効果的なコロニーおよびねぐら管理手法の開発. 平成20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」研究推進会議, (独)水産総合研究センター中央水産研究所, 農林水産省共済組合「南青山会館」(東京都港区), [口頭発表].

石田 朗・日野輝明・亀田佳代子 (2008年11月21日) カワウ被害軽減のためのコロニー・ねぐら管理手法の検討. 平成20年度日本水産学会中部支部大会シンポジウム「カワウの食害対策と個体群管理」, 日本水産学会中部支部, ホテル祥園 (長野県上田市), [口頭発表].

亀田佳代子・新妻靖章・井口恵一朗・棗田孝晴・大友芳成・田中英樹・岩田靖宏・都築 基 (2009年2月17日) カワウ被害評価のための餌魚種選好性の解明. 平成20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」研究推進会議, (独)水産総合研究センター中央水産研究所, (独)水産総合研究センター中央水産研究所上田庁舎 (長野県上田市), [口頭発表].

日野輝明・石田 朗・亀田佳代子 (2009年2月17日) カワウ被害軽減のための効果的なコロニーおよびねぐら管理手法の開発. 平成20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」研究推進会議, (独)水産総合研究センター中央水産研究所, (独)水産総合研究センター中央水産研究所上田庁舎 (長野県上田市), [口頭発表].

亀田佳代子・岩田靖宏・都築 基・大友芳成 (2009年2月20日) カワウの餌魚種選好性の解明. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

亀田佳代子・岩田靖宏・都築 基・大友芳成・田中英樹 (2009年3月18日) カワウの餌魚種選好性の解明. 第56回日本生態学会大会, 岩手県立大学 (岩手県岩手郡滝沢村), [口頭発表].

亀田佳代子 (2009年3月18日) コメント: 鳥類をめぐる景観レベルの群集解析の試み. 第56回日本生態学会大会シンポジウム「水田をめぐる群集生態学最前線—マイクロからマクロまで」, 岩手県立大学 (岩手県岩手郡滝沢村), [コメンテーター].

【研究プロジェクト等への参加】

National Science Foundation (NSF), Research Coordination Networks in Biological Sciences (RCN) 「SEAPRE: Seabird Islands and Introduced Predators: Impacts of Presence and Eradication on Island Function」(研究代表者: Christa Mulder), 研究分担者 (2007~2009年度).

平成20年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」(研究代表者: 村上眞裕美), 研究分担者 (2007~2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者: 前畑政善),

共同研究者（2007～2011年度）。

琵琶湖博物館共同研究「カワウ営巣林における森林衰退一回復過程の解明：異地性流入モデル構築のための調査方法の検討」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2007～2009年度）。

琵琶湖博物館専門研究「鳥類による異地性流入が陸域の生態系に与える影響の検討」，（2008年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会庶務幹事，2007年4月～2009年12月。

日本鳥学会評議員，2006年1月～2009年12月。

日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人，2000年～。

日本生態学会近畿地区委員，2008年1月～2009年12月。

日本水産増殖学会「水産増殖」，査読，1件。

第56回日本生態学会大会，ポスター発表審査，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

学部学生の大学院進学相談。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

2008年8月3日，琵琶湖博物館の資料の特徴の講義・資料整理実習，博物館実習，琵琶湖博物館，講師，2件。

2008年12月13日，水鳥を観察しようー色とりどりの冬の水鳥たちー，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。

2008年12月21日，下物の水鳥を観察してみよう，観察会，鳥丸半島周辺・草津市，主担当，（日本野鳥の会滋賀支部・はしかけグループ「びわたん」共催）。

2009年2月21日，カワウの被害とは何か，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2008年8月31日，カワウによる「森林被害」を通して鳥獣害問題を考える，生物学史分科会 夏の学校，琵琶湖博物館，講師。

2008年9月4日，琵琶湖に住んでいる鳥・琵琶湖にやってくる鳥，渋川小学校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2008年9月7日，森と湖、そして人をむすぶ鳥：カワウ，エコネット近畿，第4回近畿の環境団体情報交流会，京都テルサ（京都府京都市），講師。

2008年11月20日，カワウといっしょに生きる，甲南第三小学校，総合学習，琵琶湖博物館，講師。

2008年11月22日・12月6日，琵琶湖の鳥について，立命館守山中学校，総合学習，琵琶湖博物館，講師，2件。

2009年1月29日，カワウってどんな鳥？，湖北町立朝日小学校，朝日っ子わくわく博物館 総合的な学習の時間，湖北町立朝日小学校（滋賀県東浅井郡），講師。

メディアへの協力

2009年2月2日，中日新聞，湖北町立朝日小学校の総合的な学習の時間で行う「カワウってどんな鳥？」の授業について，（2008年1月29日取材）。

2009年3月2日，京都新聞，「湖のこえ 暮らしと環境 第2部 野鳥編①」，琵琶湖に生息するカワウについて，（2008年11月7日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類剥製標本及び骨格標本の製作，手続き，主任，46件.

鳥類標本提供，受入・整理，主任，39件.

鳥類仮剥製標本製作の研修受け入れ.

資料活用担当事務の総括に関すること.

図書、文献の収集、整理、保管および活用に関すること，主任.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3件.

展示交流員と話そう，内容指導，3件.

繁忙期の展示室安全および交流対応，4日.

【企画調整活動】

新任職員等研修，琵琶湖博物館の資料保存の説明，講師，2008年4月15日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究交流室の管理に関すること，主任.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1997年4月1日～2010年3月31日，京大大学生態学研究センター，協力研究員.

2006年6月1日～2009年3月31日，滋賀県外来種問題検討委員会，委員.

2006年8月1日～2011年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員.

2006年7月12日～2009年3月31日，農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ，委員.

2006年10月1日～2009年3月31日，滋賀県カワウ総合対策計画検討協議会，委員.

2007年11月27日～2009年11月26日，大津市環境審議会，委員.

2009年3月11日～2012年3月31日，滋賀県カワウ保護管理計画検討委員会，委員.

本年度は、二つの領域で調査研究を進めてきた。一つは、専門研究として取り組んでいる鳥獣被害問題の研究であり、もうひとつは総合研究として行っている水田利用についての研究である。それらはいずれも人間による伝統的な自然利用とその変遷に関する研究として位置づけられる。前者については、滋賀県下のカワウ営巣による森林衰退の問題を中心に、この問題を伝統的な資源利用との連続性のなかで位置づけるための調査を実施してきた。その結果、鳥糞を肥料として利用している地域は、想像以上に多くあること、さらに、利用形態も多様であることがわかってきた。その成果の一部は公表したが、資料収集をすすめ、来年度にはまとまった成果をだすとともに、博物館の展示等についても構想をたてる予定である。もうひとつは、前年度に着手した水田の研究である。人文社会科学からの水田の研究は、これまで稲作という主要な生業に即した研究が多かったが、営農条件の変化と自然環境への関心の高まりにより、水田の評価は揺れ続けている。こうした評価の揺れ動きのなかで、そこに住む住民としては水田との関わりを持ち方をどのように考えていこうとしているのかを、琵琶湖の集水域を中心に調査し、その論理を整合的に提示することが当面の課題である。本年度は、様々な博物館外部での研究組織にも参加し、日本生態学会での生態学研究者との交流や、同じように水田を抱える中国の環境に関心をもつ研究者たちとの交流を行った。博物館事業では、使う・集う・創る新空間の活性化をめざすとともに、ギャラリー展示等での支援を行った。また、県内の博物館や利用者同士のネットワーク化の試みにも積極的に参加した。

印刷物

【学術論文】

牧野厚史（2008）*生活環境論的視点からのコミュニティ環境の研究*. 筑波大学博士（社会学）学位論文：206p.

牧野厚史（2008）ヨシ帯保全における自然と人間との適度な関係. *滋賀大学環境総合研究センター研究年報*, 1 (5), 滋賀大学環境総合研究センター, 大津市：1-12.

【専門分野の著作】

牧野厚史（2008）社会学・農村社会学の研究動向. 日本村落研究学会 編, *年報 村落社会研究*, 44, 農山漁村文化協会, 東京：279-295.

【一般向けの著作】

牧野厚史（2008）湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－『村の境』の意味を探る. *毎日新聞*, 49, 毎日新聞社：2008年5月13日.

小川雅弘・西村知記・松田征也・山川千代美・牧野厚史 編（2009）*うみっこ通信*. 1, 琵琶湖博物館, 草津市：4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

牧野厚史（2008年6月7日）分科会A：環境保全の理念と方法. 第37回セミナー（学会大会）, 環境社会学会, みなかみ町役場新治支所（群馬県利根郡みなかみ町）, [司会].

牧野厚史（2008年8月31日）村落研究学会中国・四国地区会. 龍谷大学, 龍谷大学（京都府京都市）, [企画・運営].

牧野厚史（2008年11月1日）自由報告第3セッション. 村落研究学会第56回大会, 村落研究学会, 佐渡島開発総

合センター（新潟県佐渡市），[司会].

牧野厚史（2008年12月23日）参加型調査と生活知. 関西ミニ研究会, JST 社会技術開発センター研究開発プログラム「科学技術と社会の相互作用」地域主導型科学者コミュニティの創造, 同志社女子大学(京都府京都市), [口頭発表].

牧野厚史（2009年3月17日）共同利用空間としての水田地帯—滋賀県「魚のゆりかご」構想にみる集落機能の検討—. 日本生態学会第56回大会, 日本生態学会, 岩手県立大学(岩手県盛岡市), [口頭発表].

牧野厚史・楊平（2009年3月28日）東アジア湖沼環境問題における比較社会学の可能性. 2008年度春季・日中社会学会国際シンポジウム, 日中社会学会・中央民族大学, 中央民族大学(中国北京), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」(研究代表者: 水野章二), 分担者(2006~2009年度).

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「巨大干拓事業による潟湖コモンズの崩壊と再生に関する社会学的研究」(研究代表者: 谷口吉光), 分担者(2008~2010年度).

JST 社会技術開発センター社会技術開発事業研究開発プロジェクト「地域社会主導型科学者コミュニティの創出」(研究代表者: 佐藤 哲), 分担者(2009~2012年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖沼—水田環境系の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者: 前畑政善), 環境利用調査班 班長(2007~2010年度).

琵琶湖博物館専門研究「農村環境問題についての環境社会学的研究」, 2008年度.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

村落研究会, 理事, 2007年~2009年.

環境社会学会, 環境社会学研究, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年4月~7月, 龍谷大学社会学部, 「びわ湖・滋賀学」.

2008年9月~12月, 関西学院大学社会学部, 「地域・生活・環境特論A」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2008年8月3日, 環境と科学のフェスティバル, 彦根市ビバシティ, 事務局, (県内自然科学系博物館との共同).

2008年8月1・7・8日, 企画展示プラン作成, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年10月5日, 共同利用空間としての水田地帯, 琵琶湖博物館研究発表会, 琵琶湖博物館, 講演.

2009年3月7日, 琵琶湖における水辺利用の過去、現在、そして未来は?, 新琵琶湖学入門セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2008年6月10日, 水でつながる暮らしと琵琶湖, 草津市水環境を守る市民運動協議会, 講演会, 草津市役所(滋賀県草津市), 講師.

2008年7月19日, 人と田んぼと魚たち—農と自然の共生, 魚類学会, 市民公開講座, 田主丸町総合文化施設そよ風ホール(福岡県田主丸町), パネリスト.

2008年10月12日, まち歩き, 草津市コミュニティ事業団, まちかどレポーター講座, 草津市街道交流館(滋賀県草津市), 講師.

2008年10月19日、案内マップづくり、草津市コミュニティ事業団、まちかどレポーター講座、草津市コミュニティセンター（滋賀県草津市）、講師。

2008年11月29日、淡海子どもエコクラブ活動交流会、滋賀県環境学習支援センター、琵琶湖博物館、審査員。

2009年1月19日、身近な自然とは何か？、滋賀県社会福祉協議会、レイカディア大学、草津市レイカディアセンター（滋賀県草津市）、講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

多賀の自然と文化の館、琵琶湖の生き物大集合!! 琵琶湖博物館も多賀にやってきました!、貸し出し担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、1件。

集う・使う・創る 新空間、担当。

【企画調整活動】

新任職員研修、農村のくらしと水、講師、2008年4月22日、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年度、琵琶湖博物館情報誌「うみっこ通信」、企画・編集担当。

【海外渡航】

2009年3月26～30日、中国北京（中央民族大学）、2008年度春季・日中社会学会国際シンポジウム。

【館外の活動】

2007年～2009年、村落研究学会、研究委員会、副委員長。

2008年～2009年、水陸移行帯ワーキング、委員。

2008年～2009年、高島市文化景観保存活用検討委員会、委員。

2008年～2009年、草津市「風景の記憶絵製作プロジェクト」、サポーター。

2008年度は前年度に引き続き沈水植物のモニタリングと湖底穴地形の測量を行った。そのほかの野外活動は行っておらず、データと成果の取りまとめが主な作業だった。南湖の沈水植物については、特に、過去のデータの洗い直し作業に時間を使った。

事業関係ではC展示室の常設展示の一部更新取りまとめ役となった。

印刷物

【学術論文】

芳賀裕樹・大塚泰介（2008）琵琶湖南湖の沈水植物の分布拡大はカタストロフィックシフトで説明可能か？. 陸水学雑誌, 69, 日本陸水学会：133-142.

【専門分野の著作】

芳賀裕樹（2008）琵琶湖南湖で見られる沈水植物の増加について. 日本水産学会誌, 74, 日本陸水学会：892-895.
森田 尚・芳賀裕樹・小林博美・岡村貴司・前河孝志・孝橋賢一（2009）南湖湖底穴の水質および生物に及ぼす影響調査. 滋賀県水産試験場研究報告書, 53.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹（2008年10月4日）琵琶湖における水草の分布と湖水環境の変化. 信州大学山岳科学総合研究所山地水環境教育研究センター第11回公開講演会／放送大学長野学習センター平成20年度公開講演会, 諏訪市, [口頭発表].

芳賀裕樹・琵琶湖博物館フィールドレポーター（2008年10月11日）2007年秋～冬の滋賀県下のボタンウキクサの分布について. 日本陸水学会第73回大会, 日本陸水学会, 北海道大学（札幌市）, [ポスター発表].

芳賀裕樹・石川可奈子（2008年10月12日）2007年の琵琶湖南湖の沈水植物の現存量分布. 日本陸水学会第73回大会, 日本陸水学会, 北海道大学（札幌市）, [口頭発表].

芳賀裕樹（2008年11月21日）2007年の南湖の水草繁茂状況について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

芳賀裕樹（2009年2月19日）第2回水草管理のあり方研究会. 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, [コメンテーター].

芳賀裕樹（2009年3月10日）琵琶湖の水質変動に関する研究会. 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, [コメンテーター].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「新規研究課題の検索ならびに南湖の沈水植物のモニタリング」, (2008年度).

滋賀県試験研究機関連絡会議共同研究「南湖湖底穴の水質および生物に及ぼす影響調査」, 共同研究者（2007～2008年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本陸水学会，和文誌編集委員長，2007年4月～2009年3月。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2008年10月7日，湖沼学の基礎，指導者のための博物館活用講座，琵琶湖博物館，講師

2008年10月25日，光とかげで写真をとろう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（中野正俊・飯住達也・長澤京子氏と共同）。

2009年2月21日，南湖で増えた水草，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月24日，琵琶湖の水質と水草について，京都造形芸術大学環境デザイン学科，スクーリング，琵琶湖博物館，講師。

2008年7月23日，琵琶湖の水質，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。

2008年7月29日，環境科学講座「川を調べてみよう」，滋賀県総合教育センター，滋賀大学（滋賀県大津市）・草津川（滋賀県草津市），講師と実習指導。

2008年7月30日，琵琶湖の水質，滋賀県立膳所高等学校，スーパーサイエンスハイスクール事業，琵琶湖博物館，講師

2008年8月12日，水草の大増殖，滋賀県環境教育研究協議会，環境学習担当教員研修，琵琶湖博物館／ILEC（滋賀県草津市），講師

2008年8月13日，琵琶湖の水草，茨木市教育研究会小中学校理科部会，平成20年度夏季臨地実習，琵琶湖博物館，講義及び野外実習。

2008年8月20日，琵琶湖と淀川について～淀川の水質はどんな風に悪かったのか？～，エネルギー・環境教育研修，奈良教育研究所，きつづ光科学館フォトン（京都府木津川市），講師。

2008年10月18日，びわ湖の水環境と現状，おおつ市民環境塾，おおつ市民環境フォーラム，明日都浜大津（滋賀県大津市），講演。

2008年11月24日，暮らしと琵琶湖のつながりについて，地球環境イニシアチブ事務局，太陽のエネルギーを使わないのはもったいない from 琵琶湖・琵琶湖博物館ツアー，琵琶湖博物館，講師。

2008年3月29日，第2回淡海の川づくりフォーラム 選考委員会，滋賀県流域治水対策室，コラボ滋賀（滋賀県大津市），選考委員。

メディアへの協力

2008年5月23日，京都新聞，ボタンウキクサの分布は限定的 琵琶湖で大発生 of 水草、駆除実る，資料提供（2008年5月23日取材）。

2008年8月23日，京都新聞，琵琶湖覆う水草 異常繁殖で南湖の6割占める，（2008年8月1日取材）。

2008年10月2日，NHK，おうみ発610，南湖の水草の観測光景，取材協力，（2008年10月1日取材）。

2009年1月1日，中日新聞，正月特集「湖の謎に迫る」本来の姿を模索，インタビュー，（2008年12月10日取材）。

2009年3月，AZBIL，マザーレイク・琵琶湖，取材協力，（2008年12月16日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年3月，C展示室「琵琶湖の様々な環境と生き物たち」，一部更新。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008 年度，琵琶湖博物館広報・経営戦略会議，メンバー。

【館外の活動】

2008 年度，水草繁茂に係る要因分析等検討会，滋賀県・国土交通省近畿地方整備局，委員。

2007年度から河畔林の竹林の伐採処分コストの大幅削減を図るために、竹資源を活用した持続可能な維持管理モデルの構築について検討を進めている。既に河畔林の現況調査をはじめ、竹材の需給調査、竹資源の利活用事例の収集、資源化(製品化)調査、竹の拡大防止方策の検討等を行い、現況での課題整理を行ってきた。2008年度においては、これらの調査検討結果を踏まえ、現状で最も可能性のある利活用方策として、オガクズの代替に竹パウダーを家畜の敷料として利活用できるかどうかの実験を行った。結果は概ね良好であり、今後この結果を基にどうやってこれを普及させていくのか、廃掃法、河川法等の諸法令の整理を始めとして、関係機関との連携をはかりながら循環型モデルの構築についての検討を進めていくことにしたい。

また、これに並行して問題となってくるのが将来的な維持管理の目標をどこに置くのか、ということである。愛知川、安曇川などの主要河川では数年前から県の主導で市民参加による維持管理の取り組みが始まり、河畔林の環境改善が徐々に図られてきている。しかし、これらの活動の多くは枯れ竹の除去を中心としたものであり、実態としては、どこまで手を加えるのか、明確な管理目標のないまま活動が行われているのが実情である。今後の河川環境管理のあり方としては、社会資本整備審議会がまとめた「安全・安心が持続可能な河川管理のあり方について」の提言にあるように、保全すべき状態を明確化するために、具体的な指標の開発を進め、管理基準を設定していくことが必要とされている。竹林の管理基準の設定には、治水面からの検討も必要と考えられるが、今年度は、河畔林がもつ環境の多様性を維持するためには竹林をどの程度の密度で管理するのがよいのかという点に焦点をあて、竹林の間伐による下層植生への影響について調査を行い、維持管理の指標としての検討を試みることにした。3,4ヶ月を経てある一定の結果は得られたが、1年後の結果を見て来年度以降も引き続き調査検討を進めていきたいと考えている。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

臼井 学・井上太樹・横川昌史・森 小夜子・野間直彦(2008年12月19日)間伐による下層植生の変化からみた竹林の維持管理指標の検討について、琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

臼井 学・野間直彦(2008年12月22日)間伐による下層植生の変化からみた竹林の維持管理指標の検討について、平成20年度滋賀県土木技術研究発表会, 滋賀県土木交通部, (財)滋賀県建設技術センター(滋賀県草津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの検討」, (2008年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10件.

視察対応

2008年7月4日, 琵琶湖の水位と治水について, Water Station 琵琶, 琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示維持管理，主担当.

展示交流員と話そう（琵琶湖疏水），内容指導，1件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年9月～2009年3月，第2回近畿子どもの水辺交流会，事務局担当.

2008年度，滋賀県土木交通部河港課河川環境担当主査を兼務.

近年、滋賀県内の中山間地域においては、野生動物による農林業被害が発生し、農林家、行政ともに対応に苦慮している。とくに林業被害としては、ニホンジカにより、植栽したばかりの苗木が食べられてしまう「食害」が起こっており、対策なしには森林資源の循環利用が行えない状態が続いている。私は、こうした被害を直接防ぐ「防除」をテーマに研究を行っている。防除とは、造林地や苗木を資材で取り囲み、物理的に接触できないようにする方法である。造林地の周囲を覆うものを防護柵、個々の苗木を覆うものを単木防除と呼ぶが、従来の防護柵は、機能が発揮されるように設置されていないものが多く、評価が低い原因となっている。一方で機能が発揮されるように設置した「侵入に強い防護柵」の場合には、支柱をはじめとする資材が“標準仕様”よりも多くなり資材費が高くなる懸念がある。しかし、“標準仕様”に対してどのくらい資材費が増加するのかは明らかになっていないため、「侵入に強い防護柵」の仕様に基づいて設置された、防除効果の出ている防護柵を調査している。

印刷物

【一般向けの著作】

西村知記(2008)湖と人と一琵琶湖博物館からの発信―「自然の発見や体験を通じ屋内展示と周囲の地域をつなぐ」.
毎日新聞, 59, 毎日新聞社: 2008年7月29日.
小川雅弘・西村知記・松田征也・山川千代美・牧野厚史 編(2009) うみっこ通信. 1, 琵琶湖博物館, 草津市: 4p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

西村知記(2009年2月20日) 侵入に強い食害防護柵設置にかかるコスト～従来型との比較. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
西村知記(2008年3月27日) 資源が循環する住まいと暮らし. 第53回特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [コーディネート].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「侵入に強い食害防護柵にかかる設置コスト」, (2008年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

はしかけ「里山の会」, 野洲市大篠原, 4件.

2008年4月20日・7月26日・10月19日・2009年1月18日, 里山体験教室, 野洲市大篠原, 4件, (里山の会と共同).

はしかけ登録講座, 琵琶湖博物館, 3件.

工房田んぼの作業・行事, 琵琶湖博物館生活実験工房, 12件, (はしかけ・フィールドレポーターと共同).

2008年10月9日・11月18日, 森と暮らしのつながり, 指導者のための博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2008年10月27日、サテライト博物館、甲賀市立佐山小学校、講師。

他の機関等主催行事

2008年5月22日、野外活動、高島中学校科学部、琵琶湖博物館、講師。

2008年5月26日、屋上公園で自然の色さがし、平野幼稚園、ここにご広場、大津市浄化センター（大津市）、講師。

2008年6月21日、野外活動、笠縫公民館わんぱくくらぶ、琵琶湖博物館、講師。

2008年7月30日、身近な生きものの暮らし、彦根市幼稚園教育研究会、「環境」実技研修、中地区公民館および庄堺公園（彦根市）、講師。

2008年8月6日、知っ得？ やっ得！ わくわくネイチャーウォッチング、大津市教育研究所、夏季研修講座、大津市生涯学習センターおよび膳所公園（大津市）、講師。

2008年10月10日、県産材型枠はどこから、県産材を活用する家づくりグループ意見交換会、琵琶湖博物館、講演。

2008年10月16日、野外活動、信楽中学校1年、琵琶湖博物館、講師。

2008年10月30日、茶臼山にお散歩に行こう、平野幼稚園、自然体験活動、茶臼山公園（大津市）、講師。

2008年11月4日、秋の自然にふれよう・あそぼう、田上幼稚園、自然体験活動、田上教育キャンプ場（大津市）、講師。

2008年11月8日、森の手作りバームクーヘン教室、近江富士花緑公園、体験教室、近江富士花緑公園（野洲市）、講師。

2008年11月10日、秋の森の料理人、平野幼稚園、ここにご広場、茶臼山公園（大津市）、講師。

2008年11月22日・12月6日、話題提供、立命館守山中学校1年、琵琶湖博物館、2件。

2008年11月23日、膳所の山辺でドングリたんけん、おうみ未来塾9期生遊人里グループ、あまのじゃくくらぶ、大津市膳所、講師。

2008年11月28日、語る会、滋賀大学教育学部附属幼稚園、公開研究会、滋賀大学教育学部附属幼稚園（大津市）、講師。

2009年2月26日、それぞれに必要なモノ（木と生きものと森）、滋賀県教育委員会、理科支援員研修、琵琶湖博物館、講師。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008年度、滋賀県森林センター主査を兼務。

2008年度、琵琶湖博物館情報誌「うみっこ通信」企画・編集。

【館外の活動】

2008年度、環境学習支援センター、企画運営委員会、委員。

研究の面では、昨年、琵琶湖環境科学研究センター兼務の間に行った委託研究である「森林渓流水の水質モニタリングと解析」という報告書を連名で5月に出した。朽木における伐採実験流域のモニタリング継続および、そこにおいてナラ枯れの影響が初めて渓流水で検出されたことを結果を報告したものである。近年ナラ枯れが湖北から南下しつつあり、その被害が対照流域（RW）のクリコナラ林にも及び、その影響が特に硝酸態窒素や有機体窒素濃度の上昇として水質に現れだしたのを初めて検出した。また同時に行った被害木の調査では、カシノナガキクイムシに穿孔されたりさらには枯死したコナラやクリがかなり増加していることがわかり、その結果との相関を検討中である。ナラ林は森林全体の3割を占めるため、ナラ枯れが琵琶湖集水域全体に進んだ場合には、森林からの河川を通しての窒素等の供給ベースがあがるので、琵琶湖への富栄養化などの影響が懸念される。まだ未知ではあるがこのナラ枯れによる栄養塩流出がどの程度で何年ぐらい続くのかということが今後の予測や影響評価に重要となる。

8月にはこれまで行ってきた伐採実験の結果をタイで行われたIWA（世界水協会）の国際会議で口頭発表した。オーストラリアの研究ではマツ林の伐採の際に窒素があまり流出しなかった旨を質問されたが、雨量の少ない地域では土壤水分が少なく硝化が起こりにくいためであろう。また、こういった研究が東南アジアなどの熱帯地域ではほとんどなされていないということも知った。

2002年から2006年にかけて共同で取り組んだ小面積実験区による森林管理の影響評価という研究で、現在専門研究で続けているが、今回新たに土壤水分のデータ解析を行い、草本群落との比較で残存の木本群落がいかに水を吸い上げ、コントロールしているかがよくわかった。それが栄養塩の流出に重要に関わっていることが明らかにできた。

事業の面では、資料担当に移り、初めて資料データベースと電子図鑑の担当となった。資料整理の方々の協力のもと、民俗データベース2,584件の新規登録と、まだ未公開の両生爬虫類のデータ入力474件が完了した。予算削減のため昨年度公開はかなわなかったが、今年度は公開にこぎ着けたい。また電子図鑑では、企画展の時のデータを基にしたため、ややデータや解説の片寄りがあったが、今回、新たに原稿募集して改善を図った。ただ予算が無いので、公開は今年度以降の課題である。

今、種の多様性研究や標本情報の共有のため、世界的なGBIFの活動で日本やアジアへの働きかけがなされたこともあり、科博を中心として、全国の大学や博物館でデータベースのインターネット公開を検討する動きがあるが、誰が使うのか、またどういったニーズがあるのかをよく検討して対応したい。

印刷物

【専門分野の著作】

- 草加伸吾・中島拓男・國松孝男・濱端悦治（2008）総合報告書「森林渓流水の水質モニタリングと解析」．滋賀県琵琶湖環境科学研究センター試験研究報告，No. 07 - S 2214，滋賀県琵琶湖環境科学研究センター：10，6，8.
- Kusaka, S., Hamabata, E. and Kunimatu, T. (2008) Influence of Forest Clear-Cutting on nitrate nitrogen Loads on stream water in the Lake Biwa Watershed. *Proceedings of 12th International Conference on Integrated Diffuse Pollution Management "IWA DIPCON 2008"*, Research Center for Environmental and Hazardous Substance Management (EHSM), Khon Kaen University Thailand : 84-85.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

草加伸吾（2008年7月18日）森林伐採に伴う硝化促進と下流域への窒素の負荷—植物によるコントロールをどう発揮させるか—。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館。[口頭発表]。

草加伸吾（2008年8月6日）橋本忠太郎先生の収集された植物標本。『橋本忠太郎の世界』橋本忠太郎顕彰会，蒲生郡日野町図書館，[口頭発表]。

Kusaka, S., Hamabata, E. and Kunimatu, T. (2008年8月25日) Influence of Forest Clear-Cutting on NO₃-N Loads in Headwater Streams in the Lake Biwa Watershed, Japan. IWA DIPCON 2008 Meeting Sofitel Raja Ochid Hotel, Khon Kaen, Thailand. 12th International Conference on Integrated Diffuse Pollution Management (IWA DIPCON 2008), Research Center for Environmental and Hazardous Substance Management (EHSM), Khon Kaen University (Thailand).

草加伸吾（2009年2月21日）Mongolia の自然と森林再生実験。滋賀県植物研究会総会，滋賀県植物研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

草加伸吾（2009年3月15日）森林の野外実験紹介：森林伐採による下流域への環境負荷を最小限にする植生管理委方法とは？。淡海森林クラブ10周年記念講演会，淡海森林クラブ，近江八幡健康福祉会館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「森林伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探究」，（2008年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2008年8月3日，琵琶湖博物館のデータベースシステム（植物分野）・植物標本の作り方，博物館実習，琵琶湖博物館，講義・指導，2件。

2008年12月20日，湖と森林，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演。

メディアへの協力

2009年1月5日，京都新聞，湖のこえ—林業家が清流守る—，（2008年10月21日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館資料データベース、電子図鑑，主担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう，内容指導，2件。

【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室・屋外展示，講師，2008年4月20・24日，琵琶湖博物館，2件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2008年8月24日～30日、タイ KhonKaen 大学、国際会議 IWA DIPCON 2008 に発表のため参加。

2008年度は、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課の兼務が3年目を迎え、前年度と同様、兼務先での勤務が週4日となった。兼務先での業務の内容は野生生物担当を継続し、主として「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」に関連して希少種・外来種に関する業務を分担し、「油日サギスゲ等生息・生育地保護区」の指定、「滋賀県ビオトープネットワーク長期構想」の策定等に取り組んだ。また、年度後半には、2010年度に愛知県・名古屋市で開催される第10回生物多様性条約締約国会議（COP10）に関連して滋賀県で行うべき事業等の検討や、緊急雇用対策事業として滋賀県域における外来生物の生息・生育状況の把握を目的とした事業の立案等も行った。前年度にボランティアベースで駆除の取り組みが始まった特定外来生物指定水生植物のミズヒマワリとナガエツルノゲイトウへの対策にも関わった。

水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業は、「外来種抑制等対策事業」の2年目を迎え、分担者として、滋賀県におけるため池を対象に特定外来魚と在来魚との生息様式を調査し、在来魚種ごとの共存の可否について分析を行った。また、(財)ダム水源地環境整備センターによる応用生態研究助成による研究も2年目を迎え、水面に設置した構造物へのブルーギルの蝸集状況を継続調査するとともに、オオクチバスに対して誘引性の高い人工産卵床の設置方法の開発に目処が立ち、次年度の繁殖期に検証を行う予定である。申請専門研究では、滋賀県における生物の分布情報の取り扱い状況について調査し、今後の方向性について検討した。

印刷物

【専門分野の著作】

- 中井克樹（2008）外来魚問題への対策（1）－外来魚の素性－. *日水季報*, 518: 3-7.
- 中井克樹（2008）イチモンジタナゴの繁殖実験によせて. ぼてじゃこトラスト 編, *ぼてじゃこトラスト活動報告書*.
- 中井克樹（2009）伊吹山における陸産貝類の生息状況調査－伊吹山自然再生事業にかかる植生調査との連携. 滋賀自然環境研究会 編, *平成20年度野生生物生息・生育状況調査報告書～魚類・貝類・その他の無脊椎動物編*: 2-10.
- 中井克樹（2009）滋賀県指定外来種スクミリンゴガイの新生息地における分布状況. 滋賀自然環境研究会 編, *平成20年度野生生物生息・生育状況調査報告書～魚類・貝類・その他の無脊椎動物編*: 48-53.
- 中井克樹（2009）3 布施溜池・布施新溜 7) 陸産および淡水産貝類. 滋賀自然環境研究会 編, *平成20年度生息・生育地保護区野生動植物調査報告*: 38-40.
- 中井克樹（2009）4 奥師 7) 陸産および淡水産貝類. 滋賀自然環境研究会 編, *平成20年度生息・生育地保護区野生動植物調査報告*: 86-90.
- 中井克樹（2009）5 佐目風穴 6) 陸産貝類. 滋賀自然環境研究会 編, *平成20年度生息・生育地保護区野生動植物調査報告*: 133-138.

【一般向けの著作】

- 中井克樹（2008）外来生物がこわす生物の地域性. *高翔（自動車技術会関東支部報）*, 49: 31-34.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

- 中井克樹（2008年9月22日）都道府県版レッドデータブックにみる特定外来生物指定魚類の在来魚種への影響。日本魚類学会2008年度大会，愛媛大学（愛媛県松山市），[口頭発表]。
- 中井克樹（2008年10月12日）利用したいが被害はイヤ！「いいとこどり」の望みはかなうのか？。日本陸水学会第73回大会公開シンポジウム「生物学的侵入と人間活動：外来生物と人間はどのように影響しあうか？」，北海道大学学術交流会館（北海道札幌市），[コメンテーターとして口頭発表]。
- 中井克樹（2008年11月16日）琵琶湖における外来魚対策～その効果はいかに？～。かんさい自然フェスタ2008 楽しみ・伝え・まもる私たちの自然 テーマ別シンポジウム「近畿地方における外来種問題への取り組み」，大阪市立自然史博物館（大阪府大阪市），[口頭発表]。
- 中井克樹（2008年11月29日）里山が育む生物多様性の大切さ。第53回プリマーテス研究会「里山の自然ー私たちは次世代に何を残すか」，(財)日本モンキーセンター・ビジターセンター（愛知県犬山市），[口頭発表]。
- 中井克樹（2008年12月19日）ブルーギルの効果的な捕獲方法：繁殖コロニー単位での捕獲。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中井克樹（2009年1月25日）外来生物法の見直しを前に：期待と不安。第4回外来魚情報交換会，琵琶湖を戻す会，大学サテライト・プラザ彦根（滋賀県彦根市），[口頭発表]。
- 中井克樹（2009年3月17日）カワヒバリガイ対策の課題。日本生態学会第56回大会 自由集会W14「特定外来生物カワヒバリガイの分布拡大および被害の現状と課題」，岩手県立大学（岩手県滝沢村），[口頭発表]。
- 中井克樹・金尾滋史（2009年3月21日）「特定外来魚」と他の魚類との“共存”。第48回魚類自然史研究会，大阪教育大学（大阪府柏原市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「滋賀県における野生生物の保全施策に関する研究」，(2008年度)。
- 水産庁平成20年度健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」，担当者（2007年度～）。
- (財)ダム水源地環境整備センター応用生態研究助成「ダム水源地における水位操作と人工産卵床を利用した特定外来魚の生息抑制に関する研究」，受託者（2007年度～2009年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本生態学会，自然保護専門委員会外来種問題対策検討作業部会，部会員，2001年3月～。
- 日本生態学会，近畿地区自然保護専門委員会，委員。
- 日本魚類学会，評議員，2004年1月～。
- 応用生態工学会，「応用生態工学」会誌編集委員会，専門編集委員，2000年4月～。
- 応用生態工学会，パートナーシップ委員会，委員，2001年12月～。
- 阪神貝類談話会，理事，2000年1月～。
- 山口貝類研究同好会，査読協力員，1996年～。
- 生物多様性ネットワーク新潟，顧問，2004年10月～。
- 日本生態学会，日本生態学会誌，投稿論文の査読，1件。
- Landscape and Ecological Engineering，投稿論文の査読，1件。
- 日本貝類学会，Venus，投稿論文の査読，1件。
- 兵庫県立人と自然の博物館，人と自然，投稿論文の査読，1件。
- 矢作川研究所，矢作川研究，投稿論文の査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2008年4月15日，帝京科学大学2008年度「アニマルサイエンストピックス」，「外来種問題と市民参加」。
- 2008年度，奈良大学大学院文学研究科修士課程1年生，琵琶湖における外来魚の研究に関する助言。

2008 年度、大阪府立松原高等学校 3 年生、ブラックバス問題をテーマとした課題学習に関する助言。
立命館大学探検部、兵庫県におけるヌートリア調査に関する助言。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2008 年 8 月 7 日、生きものの飼育に関するルール「してはいけないこと」と「しなくてはならないこと」、生きもの
の飼い方講座、琵琶湖博物館、講義。

2009 年 2 月 14 日、琵琶湖の外来魚問題の本質を問う～生き物との接し方の課題～、新琵琶湖学入門セミナー、琵
琶湖博物館、講演。

他の博物館・機関等主催行事

2008 年 4 月 23 日、アサザってなあに？ どうして大切にしなければいけないの？、水資源機構琵琶湖総合管理所、能
登川北小学校児童アサザ説明会「くりみ池にアサザがひっこしてきたよ！！」、東近江市立能登川北小学校(滋
賀県東近江市)、講師（分担担当）。

2008 年 6 月 1 日、守りたい身近な生きものたち、岡山市環境学習センター「めだかの学校」、第 20 回めだかの学校
環境まつり、岡山市環境学習センター「めだかの学校」（岡山県岡山市）、講師（記念講演）。

2008 年 6 月 1 日、紫陽花のころ、カタツムリのと看、京都 YMCA ワイルドベリー、6 月プログラム、滋賀県犬上郡多
賀町大君ヶ畑地先、講師（事前案内と指導：5 月 4 日、25 日）。

2008 年 6 月 11 日、農村地域の外来生物：魚類、貝類、水生植物を中心に、(社)農村環境整備センター、平成 20 年
度農村環境技術研修会「生態系保全（基礎）コース」、(独)国立オリンピック記念青少年総合センターセミナ
ーホール（東京都渋谷区）、講師。

2008 年 6 月 21 日、琵琶湖の環境～水辺でも進むグローバル化～、淡海生涯カレッジ草津校「環境文化の創造」、草
津市役所（滋賀県草津市）、講師。

2008 年 7 月 30 日、プランクトンと魚の観察、(財)大阪府水道サービス公社、夏休み水源・琵琶湖親子見学会、琵
琶湖博物館、講師（分担担当）。

2008 年 8 月 14 日、生物多様性と命の問題・琵琶湖の外来魚問題略史、茨木市教育研究会理科部、臨地実習、琵琶
湖博物館、講師（分担担当）、2 件。

2008 年 8 月 20 日、琵琶湖と内湖の自然観察、草津市、エコキッズくさつ、草津市下物町地先、講師（分担担当）。

2008 年 10 月 13 日、自然のバランスをくずす外来生物 琵琶湖で、そしてさくら湖で、さくら湖自然環境フォーラ
ム実行委員会、さくら湖自然環境フォーラム 2008、さくら湖自然観察ステーション（福島県三春町）、講師
（基調講演）。

2008 年 10 月 13 日、パネルディスカッション「外来魚から、故郷の自然を考える」、さくら湖自然環境フォーラム
実行委員会、さくら湖自然環境フォーラム 2008、さくら湖自然観察ステーション（福島県三春町）、コーデ
ィネーター。

2008 年 10 月 16 日、琵琶湖の現状から考える生きものとのつきあい方、京都府立東稜高等学校、京都府立東稜高等
学校 2008 年度 SPP、琵琶湖博物館、講師。

2008 年 10 月 19 日、琵琶湖の現状とラムサール条約について、滋賀県、滋賀の子ども環境特派員研修会、琵琶湖博
物館、講師。

2008 年 11 月 22 日・12 月 6 日、外来魚問題、立命館守山中学校、2008 年度総合学習（琵琶湖学習）（班単位での調
べ学習）、琵琶湖博物館、講師、2 件。

2009 年 1 月 16 日、外来種の影響と対策 II、環境省、自然保護官等研修（野生生物特設）、環境省環境調査研修所（埼
玉県所沢市）、講師。

2009 年 2 月 8 日、滋賀の希少淡水魚の現状、ぼてじゃこトラスト、ぼてじゃこ（タナゴ）復活シンポジウム、琵琶
湖博物館、講師（基調講演）。

- 2009年2月20日，外来種と絶滅危惧種について，京都府立東稜高等学校，2008年度SPP生徒研究発表会，京都府立東稜高等学校，講師（分担担当）。
- 2009年2月22日，外来生物問題の考え方，飛騨インタープリターアカデミー，専門インタープリターコース，高山市役所清見支所きよみ館（岐阜県高山市），講師。
- 2009年3月1日，外来生物の問題と外来魚の捕獲，特定非営利活動法人くすの木自然館，ふるさとを守る外来種シンポジウム，川東地区いきいき交流センター（鹿児島県蒲生町），講師。
- 2009年3月8日，外来魚が希少な淡水魚を脅かす：外来魚問題とその対策，NPO法人亀岡人と自然のネットワーク，第1回水域生態系保全情報交換会～水辺の保全は郷土を守ること～，玉川楼（京都府亀岡市），講師（基調講演）。

視察対応

- 2008年11月17日，琵琶湖周辺の外来生物の生息状況に関する視察，旭川大学非常勤講師，滋賀県庁および琵琶湖博物館周辺。

メディアへの協力

- 2008年7月5日，TBS系「報道特集NEXT」，“危険性物”が犯人か ホタルの光が消える？，コモチカワツボの生態的影響と滋賀県による指定外来種指定に関するコメント，（2008年6月13日取材）。
- 2008年8月9日，朝日新聞・産経新聞等，甲賀市の野洲川上流部の櫛野ダムでコクチバスが発見されたことについてコメント，（2008年8月8日記者発表）。
- 2008年9月7日，テレビ朝日系「素敵な宇宙船地球号」，外来種は警告する Vol.6～大都会の侵入者を捕獲せよ!!，監修および現地取材，（2008年8月10日同行取材）。
- 2008年11月2日，十勝毎日新聞，阿寒オンネト一湯の滝における外来魚ティラピアの駆除事業に関するコメント，（2008年10月30日取材）。
- 2009年3月30日，びわ湖放送，とっておき滋賀545，大津市内で発見されたセアカゴケグモの取り扱いに関するコメント，（2009年3月30日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー，講義，3件。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2007年4月1日～2009年3月31日，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課主査（野生生物担当）を兼務。

【館外の活動】

- 2003年5月～，滋賀県外来種問題検討委員会（2006年度までは「滋賀県移入種問題検討委員会」），検討委員および水生生態系部会員。
- 2003年度～，滋賀県生きもの総合調査委員会，魚貝類部会，専門委員。
- 2003年度～，環境省絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会，陸・淡水産貝類分科会，検討委員。
- 2004年10月～，環境省，外来生物専門家グループ（無脊椎動物），検討委員。
- 1999年2月～，（財）リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。
- 1999年10月～，（財）ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員（貝類担当）。
- 2004年8月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会，委員。

2005年12月～2009年3月，環境省近畿地方環境事務所，琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業調査検討委員会，委員。

2008年3月～2009年3月，環境省九州地方環境事務所，蘭牟田池オオクチバス等防除モデル事業に関する検討部会，アドバイザー。

2008年9月～2009年3月，農林水産省，平成20年度外来貝類被害防止対策検討委員会，委員。

2008年7月～2009年3月，農林水産省東海農政局，平成20年度外来貝類被害防止対策検討委員会，委員長。

情報システムの担当者として、機器の導入と廃棄、頻発するトラブルへの対応、および各種問い合わせへの対応などに追われた。年報を編集したが、印刷費が不足していたので印刷をとりやめ、PDF ファイルとしてウェブページに上げた。要覧を約3年半ぶりに再編集して出版した。

琵琶湖博物館の水田研究を進めるために、これまでの成果を研究発表会などで話すとともに、学会でシンポジウムおよび自由集会を企画して宣伝および新しい共同研究者の勧誘に努めた。水田研究の成果を論文として出版するために、各種のデータ解析および共著論文作成のための検討作業に多くの時間を費やした。成果公表は予定よりも遅れているが、ようやく1編目の学術論文が出版され、他にも投稿中および投稿準備中の成果が増えつつある。また、水田生物群集の研究を進めるために「地球環境研究総合推進費」への申請をサブテーマ代表者として行ったところ、2009年度からの採択が決定した。

ヨシのシュート上に発達するバイオフィルムの構造と機能について、京都大学や立命館大学の研究者と共同研究を進めた。5月には新しいシュート上で珪藻が優占し、立体的で隙間の多いバイオフィルムが発達すること、この時期にはバイオフィルムがもつ脱窒ポテンシャルが大きいことなどが明らかになってきた。

本業であるはずの珪藻研究では、主著論文を全く書くことができなかった。しかし、琵琶湖博物館はしかけ「たんさいぼうの会」の影の会長として暗躍し、今年度も会員を主著者とする学術論文2本を出版することができた。また、何人かの学生・大学院生の研究に対する助言指導の結果として、1編の共著論文が出版され、他にも受理済みや執筆中のものが数編ある。さらに1月からは、日本珪藻学会の編集委員長兼編集幹事に就任した。

概ね月に1回程度、微生物の観察実習を行った。近年、プランクトンだけでなく付着生物の観察希望も増えつつあり、付着藻類屋として喜ばしく思っている。

印刷物

【学術論文】

- 芳賀裕樹・大塚泰介（2008）琵琶湖南湖の沈水植物の分布拡大はカタストロフィックシフトで説明可能か？. *陸水学雑誌*, 69 (2), 日本陸水学会：133-141.
- 有田重彦・大塚泰介（2008）*Eunotia serra* Ehrenb. のサイズ減少に伴う殻形態の変化、特に波形の変化について. *Diatom*, 24, 日本珪藻学会：42-50.
- 木原靖郎・佐橋保司・大塚泰介（2008）比良山系小女郎ヶ池の珪藻. *Diatom*, 24, 日本珪藻学会：73-79.
- 中井大介・大塚泰介・中原紘之・中野伸一（2008）人工水路において添加された微細粒子が付着藻類群落の構造と種組成に与える影響. *陸水学雑誌*, 69 (3), 日本陸水学会：193-205.
- 金尾滋史・大塚泰介・前畑政善・鈴木規慈・沢田裕一（2009）ニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の初期成長の場としての水田の有効性. *日本水産学会誌*, 75 (2), 日本水産学会：191-197.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Ohtsuka, T., Nakai, D., Nakamura, Y., Morisaki, H., Yoshinaga, I. and Imai, I. (2008年6月2日) Algal assemblages on submerged reed stems and their influence on microbial activities. 5th International Conference Interfaces Against Pollution 2008, IAP 2008 Office, 京都大学（京都府京都市）, [口頭発表].
- 山崎真嗣・大塚泰介・柴原藤善（2008年10月5日）ニゴロブナが生まれ、育った水田でおこること. 琵琶湖博物

館研究発表会「琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見る」, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

大塚泰介・山崎真嗣・楠岡 泰・西村洋子・中井大介・今井清之・大林博幸・前畑政善・柴原藤善 (2008年11月6日) ニゴロブナが育った水田で何が起こるのか. 平成20年度滋賀県試験研究機関研究発表会「持続可能な社会システムを支える環境技術」, 滋賀県試験研究機関連絡会, 長浜ドーム (滋賀県長浜市), [ポスター発表].

Imai, I., Yan, R., Kihara, K., Yamamoto, Y., Nakai, D. and Ohtsuka, T. (2008年11月6日) Discovery of abundant existence of *Microcystis*-killer bacteria in biofilm on submerged reed stems in Lake Biwa: Possibility of reed community for control of *Microcystis* blooms. 13th International Conference on Harmful Algae, The International Society for the Study of Harmful Algae, Hong Kong Disneyland Hotel (Hong Kong, China), [口頭発表].

Ohtani, S., Ohtsuka, T., Inoue, G. and Seto, K. (2008年12月4日) Environmental change in the Syowa Station area of Antarctica inferred from diatoms of Lake Skallen 0-ike sediment core. 第31回極域生物シンポジウム, 国立極地研究所, 国立極地研究所 (東京都板橋区), [ポスター発表].

前畑政善・牧野厚史・大塚泰介 (2009年3月17日) シンポジウム「湖に面した水田の特性をさぐる一魚の目線から眺める」. 日本生態学会第56回大会, 日本生態学会, 岩手県立大学 (岩手県岩手郡滝沢村), [企画責任者].

日鷹一雅・大塚泰介 (2009年3月18日) シンポジウム「水田をめぐる群集生態学最前線—マイクロからマクロまで」. 日本生態学会第56回大会, 日本生態学会, 岩手県立大学 (岩手県岩手郡滝沢村), [企画者].

大塚泰介ほか (2009年3月18日) 水田に魚を放すと, 生物どうしの関係が見えてくる. シンポジウム「水田をめぐる群集生態学最前線—マイクロからマクロまで」. 日本生態学会第56回大会, 日本生態学会, 岩手県立大学 (岩手県岩手郡滝沢村), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県内ミズゴケ湿原の珪藻植生研究」, (2008年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学, 形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク・ジョセフ・グライガー), 共同研究者 (2006年度~).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者: 前畑政善), 副代表者 (2007年度~).

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「珪藻同定支援システムの開発」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2006年度~).

財団法人発酵研究所特定研究助成「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明—有用微生物の探索と応用—」(研究代表者: 今井一郎), サブリーダー (2007年度~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員, 2003年1月~2008年12月.

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員長 兼 編集幹事, 2009年1月~.

日本陸水学会, Limnology, 査読, 1件.

日本珪藻学会, Diatom, 査読, 1件.

日本生態学会, Ecological Research, 査読, 1件.

日本藻類学会, Phycological Research, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年8月9日・10日, 京都府立大学, 「環境微生物学」(分担).

2008年4月~2009年3月, 中井大介 (京都大学農学研究科博士課程), 研究指導・助言.

2008年4月~2009年3月, 高橋かつ江 (金沢大学自然科学研究科博士課程), 研究指導・助言.

2008年4月~2009年3月, 田中克典 (京都大学農学部), 研究指導・助言.

2008年4月~2009年3月, 篠原耕平 (龍谷大学理工学部), 研究指導・助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11 件。

はしかけ運営，たんさいぼうの会，琵琶湖博物館，随時。

2008 年 5 月 24 日，プランクトンでパラパラまんが，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（飯住達也共同）。

2007 年 8 月 1 日～13 日，博物館実習，琵琶湖博物館，副担当。

2008 年 10 月 11 日，光とかげで写真をとろう，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，（中野正俊・飯住達也・長澤京子氏共同）。

他の博物館・機関等主催行事

滋賀県立膳所高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業，琵琶湖博物館，研究方法への助言指導，随時。

2008 年 6 月 21 日，琵琶湖のプランクトン，立命館守山高等学校，琵琶湖博物館，講義。

2008 年 7 月 16 日，プランクトンの採集と観察，滋賀県立彦根東高等学校，校外実習，琵琶湖博物館，講師，2 件（楠岡 泰共同）。

2008 年 7 月 23 日，プランクトンの採集と観察，滋賀県立石部高等学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師。

2008 年 7 月 26・30 日，付着珪藻の採集と観察・生物統計学ことはじめ，滋賀県立膳所高等学校，スーパーサイエンスハイスクール事業，琵琶湖博物館，講義と実習，2 件。

2008 年 8 月 5 日，プランクトンの採集と観察，尼崎市小学校理科教育研究会，琵琶湖博物館，講義と実習，2 件（中野正俊共同）。

2008 年 8 月 12 日，付着微小生物の採集と観察，滋賀県教育委員会環境学習研究協議会，琵琶湖博物館，講義と実習。

2008 年 8 月 29 日，地球温暖化を考える～琵琶湖の生態系に迫り来る危機～，クボタヒューテックセミナー，琵琶湖博物館，実習指導とワークショップ，（奥田 昇氏・熊谷道夫氏共同）。

2008 年 10 月 21 日，プランクトンの採集と観察，滋賀県立甲南高等学校，校外実習，琵琶湖博物館，講師。

2008 年 12 月 7 日，プランクトンの採集と観察，和歌山県立日高高等学校，スーパーサイエンスハイスクール事業，琵琶湖博物館，講義と実習。

2009 年 3 月 5 日，プランクトンの採集と観察，大阪府立住吉高等学校，校外実習，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2009 年 3 月 20 日，琵琶湖博物館で行う環境学習の紹介，東京海洋大学，琵琶湖博物館（中野正俊・楠岡 泰共同）。

メディアへの協力

2008 年 8 月 22 日，FM 滋賀，マイ・エコロ・スタイル，エコロライズ「エチゼンクラゲについて」，出演。

2009 年 1 月 16 日，読売新聞，滋賀県民情報，珪藻に魅せられ写真 2 万枚，取材対応。

2009 年 2 月 12 日，京都新聞，ミズゴケ湿原ある大津・小女郎ヶ池「珪藻」41 種を確認 琵琶湖博物館の市民グループ 学会誌に掲載 調査少なく貴重，取材対応，（2009 年 2 月 5 日取材）。

2009 年 2 月 13 日，科学新聞，珪藻サイズ 環境要因で大差 海洋と湖沼で異なる進化，写真提供。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

情報システム管理運営，主担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集・整理，監督・指示，（楠岡 泰共同）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ふえた生き物へった生き物（プランクトンと水質），展示更新作業，原稿の作成（芳賀裕樹・楠岡 泰共同）。

【企画調整活動】

琵琶湖博物館年報，編集出版（中山法子氏共同）。

琵琶湖博物館要覧，編集出版。

【研究部関連事業】

外部助成金，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2001 年 4 月，島根大学汽水域研究センター，協力研究員。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で2本行った。論文タイトルは『Species of the genus *Chaetogonopteron* (Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan』と、『Species of *Chrysotimus* Loew from Nepal (Diptera: Empidoidea, Dolichopodidae).』であった。これらは台湾やネパールにおける調査で得た標本に基づき、おもに新種記載を行ったものである。

文部科学省の科学研究費補助金 (科研費) の研究「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」において研究代表者として、2009年1月25日から2月12日の間、南アフリカとシンガポールで調査を行った。琵琶湖博物館の共同研究「北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化的研究」において研究代表者として、2008年6月23日から7月8日の間、イタリアとスイスで調査を行った。これらの地域に固有な種 (未記載を含む) を多数採集できた。その他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。

印刷物

【学術論文】

- Wang, M., Yang, D. and Masunaga, K. (2009) Species of the genus *Chaetogonopteron* (Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan. *Journal of Natural History*, 43 (9-10) : 609-617.
- Yang, D., Saigusa, T. and Masunaga, K. (2008) Species of *Chrysotimus* Loew from Nepal (Diptera: Empidoidea, Dolichopodidae). *Zootaxa*, 1917 : 29-37.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- 文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B) 「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」 (研究代表者: 榎永一宏), 研究代表者 (2006-2008年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学, 形態と分子に基づく系統学」 (研究代表者: マーク・ジョセフ・グライガー), 副代表者 (2006-2010年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化的研究」 (研究代表者: 榎永一宏), 研究代表者 (2007-2008年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」, (2008年度).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

- 日本応用動物昆虫学会, *Applied Entomology And Zoology*, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2008年5月18日，川虫探検，観察会，藤ノ木川・大津市，講師。

2008年7月20・21日，日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ=ファーブル』（滋賀会場），琵琶湖博物館，主担当。

2008年7月21日，日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ=ファーブル』（滋賀会場），国際交流会、琵琶湖博物館、主担当。

2008年7月26日，日仏友好百五十年記念国際シンポジウム『ジャン・アンリ=ファーブル』（東京会場），東京大学（東京都），担当。

2008年8月6日，資料整理実習，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月7日，水生昆虫の生態とその飼い方，生き物飼い方講座，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月24日，千丈川を歩いて発見，ホテルの学校，水生昆虫観察会，千丈川（大津市），講師。

2008年6月3日，新任教職員研修，草津市教育委員会，草津市教育委員会研修会，琵琶湖博物館，講師。

2008年6月7日・11月22日，河川の生き物の概要とその調査方法・滋賀県の昆虫，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館，講師，2件。

2008年8月6日，野菜畑へ行こう，生活協同組合コープしが，近江八幡市，講師。

2008年8月7日，生き物飼い方講座，滋賀県総合教育センター，教員10年経験者研修，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月8日，「ファーブルにまなぶ」展の概要，NPO シニア自然大学総合学科そら組，自然観察リーダー養成講座，琵琶湖博物館，講師。

2008年9月4日，水生昆虫，草津市立渋川小学校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2008年10月4日，川の中のいきものしらべ，ホテルの学校，水生昆虫観察会，千丈川（大津市），講師。

2008年10月25日，三田川流域の秋の自然を楽しもう，おおつ市民環境塾，おおつ環境フォーラム，大津市，講師。

2008年10月26日，水生昆虫，草津市立常磐小学校，水生昆虫同定研修会，講師。

メディアへの協力

2008年4月5日，朝日新聞，「カムバック！ピワマス」の紹介，（2008年4月4日取材）。

2008年4月9日，朝日新聞，あいあいAI 滋賀，「観察会川虫探検」の紹介，（2008年3月30日取材）。

2008年5月16日，京都新聞，鴨川ブユ復活についてコメント，（2008年5月15日取材）。

2008年5月16日，KBS 京都ラジオ，知っとこ滋賀，「ファーブルにまなぶ」展の紹介，（2008年5月16日取材）。

2008年5月25日，中日新聞（夕刊），「ファーブルの世界を探検しよう」，（2008年5月17日取材）。

産経新聞，「ファーブルにまなぶ」展の紹介，（2008年5月20日取材）。

2008年6月20日，NHK ラジオ，関西ラジオワイド，「ファーブルにまなぶ」展の紹介，（2008年6月20日取材）。

2008年8月21日，TBS ラジオ，日本列島ほっと通信，トンボについて，（2008年7月24日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース維持管理。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本・スイス・イタリア・南アフリカ・シンガポール産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），5,000件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4 件.

2008 年 4 月 29 日～8 月 31 日，企画展示「フェアブルにまなぶ」，副担当.

2008 年度，常設展示 C 展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップ，展示更新と維持管理.

2008 年度，常設展示 C 展示室「川の生き物を調べる」顕微鏡で虫を観る，展示更新と維持管理.

2008 年度，研究最前線更新.

2008 年 5 月 11 日・6 月 15 日・7 月 13 日，人形劇「ふしぎな庭」－ふしぎな庭で出会った少年とフェアブルー，（人形劇団おまけのおまけ共催）.

【企画調整活動】

新任職員研修，C 展示室川の生き物の概要，講師，2007 年 4 月 17 日，琵琶湖博物館.

ショップ会議，レストラン・ショップとの連携，10 件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2008 年 6 月 23 日～7 月 8 日，スイス・イタリア，琵琶湖博物館共同研究「北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化学的研究」の調査.

2009 年 1 月 25 日～2 月 12 日，南アフリカ・シンガポール，科学研究費補助金の「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」の調査.

【館外の活動】

2008 年 4 月～2009 年 3 月，滋賀県生きもの総合調査，昆虫類部会，専門委員.

Research was focused on the following four projects.

1. The ostracod fauna of Lake Biwa in collaboration with Horst, Janz (Tuebingen, Germany). The first paper, covering the family Candonidae, was published in 2008, and received coverage in the local press. The second paper, covering the superfamilies Darwinuloidea and Cytheroidea, was completed and submitted to a journal. The last paper, on the Cyprididae and Ilyocyprididae, is nearing completion.
2. Synchrotron analysis of Cretaceous and living ostracods, in collaboration with Renate Matzke-Karasz (Munich, Germany), Paul Tafforeau (Grenoble, France), Radka Symonova (Prague, Czech), and Giles Miller (London, UK). Data processing continued and results were obtained. A manuscript was written and is being prepared for publication.
3. Groundwater ostracod fauna of Japan. Sampling for groundwater ostracods was conducted and currently taxonomic work is underway.
4. *Ilyocypris salebrosa* as a Pleistocene palaeotemperature proxy using a metadata approach, in collaboration with David Horne (London, UK), Brandon Curry (Illinois, USA), Eugen Kempf (Frechen, Germany), S. Mischke (Berlin, Germany), E. Schornikov (Vladivostok, Russia), Alison Smith (Ohio, USA), Finn Viehberg (Braunschweig, Germany), and John Whittaker (London, UK).

Additionally, I attended JASSO (Japanese Association of Ostracod Researchers) 25 – 26 September, in Osaka.

以下にしめす4つのプロジェクトを中心に研究を行っている。

1. 琵琶湖の介形虫について（ドイツの Horst, Janz 氏との共同研究）。一つめの論文は、Candonidae 科について、2008 年に出版された。2つ目の論文は、Darwinuloidea 上科と Cytheroidea 上科についてで、学術雑誌に受理された。3つ目は、Cyprididae と Ilyocyprididae 上科についてであるが、この論文はもうすぐ完成する。
2. 白亜紀に生息していた介形虫化石のシンクロトロン分析（ドイツの Renate Matzke-Karasz 氏、フランスの Paul Tafforeau 氏、チェコの Radka Symonova 氏、UK の Giles Miller 氏との共同研究）。分析の結果を得ている。これについての論文は執筆中で、投稿準備中である。
3. 日本の地下水にいる介形虫。地下水の介形虫についての採取は行われ、現在、分類を行っている。
4. *Ilyocypris salebrosa* を更新世の古温度指標とするためのメタデータベースを使用した試み (UK の David Horn 氏、アメリカの Brandon Curry 氏、ドイツの Eugen Kempf 氏、ドイツの S. Mischke 氏、ロシアの E. Schornikov 氏、アメリカの Alison Smith 氏、ドイツの Finn Viehberg、UK の John Whittaker 氏との共同研究)。これ以外に、9月25・26日に大阪で行われた日本介形虫研究会 (JASSO) に参加した。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J. and Janz, H. (2008) Recent species of the Family Candonidae (Ostracoda, Crustacea) from the ancient Lake Biwa, Central Japan. *Journal of Natural History*, 42 : 2865-2922.
- Smith, R. J. and Kamiya, T. (2008) The ontogeny of two species of Darwinuloidea (Ostracoda, Crustacea). *Zoologischer Anzeiger*, 247 : 275-302.
- Smith, R. J. and Matzke-Karasz, R. (2008) The organ on the first segment of the cypridoidean (Ostracoda, Crustacea) antennule: morphology and phylogenetic significance. *Senckenbergiana lethaea*, 88 (1) : 127-140.
- Kamiya, T., Fujinami, Y. and Smith, R. J. (2008) Morphological analysis of the male carapace of the darwinulid ostracode *Vestalenula cornelia* Smith, Kamiya and Horne, 2006 (Crustacea). *Senckenbergiana lethaea*, 88 (1) : 113-119.
- Okada, R., Tsukagoshi, A., Smith, R. J. and Horne, D. J. (2008) The ontogeny of the platycopid *Keijcyoidea infralittoralis* (Ostracoda: Podocopa). *Zoological Journal of the Linnean Society*, 153 : 213-237.

【一般向けの著作】

- Robin James Smith (2009) *A Brief Guide to the Galleries*. 琵琶湖博物館英文パンフレット. 琵琶湖博物館 : 16p.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- 「カイミジンコの触覚の起源と形態についての研究」(共同研究)(研究代表者: Dr. Geoff Boxshall, Dr. Dan Danielopol, Dr. Dave Horne and Dr. Ionel Tabacaru), 生物学 (2008年4月〜).
- 「白亜紀と現在のカイミジンコの放射光による分析」(共同研究)(研究代表者: Dr. Renate Matzke-Karasz), 古生物学 (2008年1月〜).
- 「日本の地下水に生息するカイミジンコ」(共同研究)(研究代表者: 塚越アキラ), 分類学担当 (2007年4月〜).
- 「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学、形態と分子に基づく系統学」(琵琶湖博物館総合研究)(研究代表者: マーク ジョセフ グライガー), 分類学 (2007年4月〜).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Zootaxa, 査読、2件.
- Marine Micropalaeontology, 査読、1件.
- Micropalaeontology, 査読、1件.
- Zoological Science, 査読、1件.
- Biological Journal of the Linnean Society, 査読、1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2008年7月21日, 昆虫の野外観察イベント, 琵琶湖博物館, 助手.

視察対応

2008年5月21日，展示物の案内，イギリス人教師，琵琶湖博物館。
2008年10月2日，展示物の案内，第5回アジア協力ダイアログミーティング，琵琶湖博物館。
2008年11月12日，講義，JICA研修員，琵琶湖博物館。
2008年11月21日，講義，国内下水処理研修コース，琵琶湖博物館。
2008年12月2日，展示物の案内，京都国際学校，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2008年12月17日，毎日新聞／京都新聞／読売新聞／朝日新聞／産経新聞／中日新聞，記者発表を行った琵琶湖の新種について，インタビュー，（2008年12月16日取材）。
2009年1月21日，朝日新聞，あいあいAI滋賀，漣 人物録，カシミジンの新種発見についての取材，（2008年1月取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新，多数。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

世界の湖の展示コーナー，清掃・管理。

【企画調整活動】

JICA博物館学集中コース，国別報告会参加，2008年4月15日，琵琶湖博物館。
JICA博物館学集中コース，対応と研修員の世話，2008年5月8～13日，琵琶湖博物館。
JICA博物館学集中コース，研修員と東京出張，2008年6月4～6日。

【研究部関連事業】

2008年7月19日，琵琶湖博物館とパリ自然史博物館の合意サイン式典，琵琶湖博物館，写真撮影。
2008年7月20・21日，フェアブル国際シンポジウム，琵琶湖博物館，タイムキーパー。
2008年10月5日，琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見る，琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，タイムキーパー。
2009年3月7日，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，会場内でのマイクの手配。

ニゴロブナの水田育成放流事業は、平成15年に始まり、現在は毎年1000万尾以上放流し、冬期のニゴロブナ資源の10%前後を占めており大きな効果をあげている。その効果調査については、これまでは水田放養から流下までと冬期の琵琶湖内での資源量調査に重点を置かれており、水田流下後から琵琶湖に至るまでのニゴロブナ稚魚の動態は不明であった。そこで、今年度の専門研究ではニゴロブナ稚魚の水田から流下後の行動、特に水田排水路での移動状況を明らかにすることを目的とした。

草津市下笠の水田幹線排水路及び支線排水路において調査を行った。滋賀県水産試験場の調査と連携し耳石にALC標識を施したニゴロブナ稚魚を下笠の同水域にある水田に放養し、6月下旬に水田から流下させた後、6月から9月にかけて(稚魚が捕れなくなるまで)週一回さで網により、ニゴロブナ稚魚の採集を行い、CPUEを算出することによって、4定点におけるニゴロブナ稚魚の現存密度を推定した。その結果、水路上流および支線排水路内は相対的に密度が高く、水田から流下した稚魚の一部は、少なくとも初秋までは水路に残存し生育場として利用していることが示唆された。今年度の調査では、ある程度の動態の把握はできたものの、定量的な調査を行えなかったため、来年度は水路内のニゴロブナ稚魚の現存密度を推定し、琵琶湖に下るものと水路に残留するものの割合を把握する調査を行う予定である。上記の調査の成果の一部とあわせて、水田での育成を中心としたニゴロブナ資源回復の取り組みを新琵琶湖学入門セミナーにおいて講演した。来年度以降も調査を継続し、得られた成果について水田育成の適地選定など、ニゴロブナの資源回復へと生かしていきたいと考えている。

印刷物

【一般向けの著作】

磯田能年 (2008年) ドジョウ (どじょう科). あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年6月11日.

磯田能年 (2008年) ギンブナ (コイ科). あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年6月18日.

磯田能年 (2008年) ウグイ (コイ科). あいあいAI 滋賀, 朝日新聞社: 2008年6月25日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

磯田能年 (2009年3月20日) ニゴロブナの種苗放流と初期生活史. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明ーニゴロブナを媒体としてー」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者 (2008年度).

琵琶湖博物館専門研究「ニゴロブナ水田育成種苗の流下後の行動」, (2008年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，10 件。

2008 年 7 月 26 日，漁船に乗ってビワマス漁を試みよう，観察会，湖北町尾上，主担当（桑原雅之共同）。

2008 年 9 月 21 日，アユの産卵用人工河川を試してみませんか，観察会，高島市，主担当。

2008 年 10 月 26 日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか，観察会，マキノ町知内（滋賀県高島市），副担当（桑原雅之共同）。

2009 年 2 月 7 日，ニゴロブナをふやす，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2008 年 6 月 5 日，外来魚解剖，中主小学校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2008 年 6 月 19 日，外来魚解剖，滋賀県教育委員会初任者研修，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2008 年 8 月 6 日，外来魚解剖，自然調査ゼミナール，滋賀県教育委員会理科教育部会，琵琶湖博物館，講師。

2008 年 9 月 20 日，外来魚解剖，立命館守山高校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2008 年 10 月 9 日，外来魚解剖，笠縫小学校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2008 年 3 月 5 日，外来魚解剖，大阪府立住吉高校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料維持管理，副担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4 件。

当面の研究テーマは、環境社会学的な視点での生活分析による水と人間とのかかわりについてであり、集水域村落における自然利用と管理のあり方を明らかにすることを目的としている。

今年度は、専門研究「集水域における自然利用と生活とのかかわりに関する環境社会学的研究」と総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—二ゴロブナを媒体として—」を軸にしながら、2つの科学研究費事業共同研究者としても水辺での現地調査や研究を行い、その成果の一部は、中国・中央民族大学での日中社会学会国際シンポジウム、法政大学での日本環境社会学会国際シンポジウム、京都大学での日本村落社会学会、群馬県での日本環境社会学会大会など国内外の学会・研究会において発表を行ってきた。また、一昨年からは継続的に行っている東近江市大塚地区での現地調査のほか、中国・太湖流域、沖縄県の島嶼部での調査・研究も行い、特に水や水田環境、水辺の環境利用にかかわる社会学的調査を実施した。

一方、交流事業においては、交流会等を実施したほか、フィールドレポーター担当として、交流・サービス活動を行った。

印刷物

【学術論文】

YANG, Ping. (2008) Community-Based Water Resources Management in Rural Areas of Japan : a Case History of Environmental Protection Involving the Resuscitation of Irrigation Tanks in Shiga Prefecture. *The International Symposium on East Asian Environmental Sociology: Problems, Movements and Policies*, Japanese Association for Environmental Sociology Center for Environmental Initiatives, HOSEI University : 69-75.

【一般向けの著作】

楊 平 (2008) 湖と人と—琵琶湖博物館からの発信—「伝統文化が生んだ水辺空間—中国・江南水郷 生活のルール」. *毎日新聞*, 54, 毎日新聞社 : 2008年6月17日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

楊 平 (2008年6月7日) 村主導の自然再生—滋賀県東近江市大塚における溜池にみる自然再生の論理. 第37回環境社会学会大会, 日本環境社会学会, みなかみ町役場新治支所 (群馬県), [口頭発表].

楊 平 (2008年6月20日) 自然再生をめぐる「自然」の位置づけ. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 「口頭発表」.

楊 平 (2008年8月31日) 中国・太湖湖岸環境の利用と保全に関する環境社会学的研究. 日本村落社会学会, 京都大学 (京都), 「口頭発表」.

楊 平 (2008年10月4日) Community-Based Water Resources Management in Rural Areas of Japan: a Case History of Environmental Protection Involving the Resuscitation of Irrigation Tanks in Shiga Prefecture. 日本環境社会学会第38回大会国際シンポジウム, 日本環境社会学会, 法政大学 (東京都), 「口頭発表」.

牧野厚史・楊 平 (2009年3月28日), 東亜湖泊環境問題的 sociology 比較的可能性. 日中社会学会国際シンポジウム, 中央民族大学 (中国・北京), 「口頭発表」.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者 (2008—2011 年度).

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究「水辺環境を中心とした環境政策」 (研究代表者:鳥越皓之), 共同研究者 (2008 年度).

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究「水界と森界の変容と創造に関する比較環境人類学的研究」(研究代表者:松田素二), 研究協力者 (2007 年度—).

琵琶湖博物館専門研究「集水域における自然利用と生活のかかわりに関する環境社会学的研究」, (2008 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11 件.

フィールドレポーター制度, 副担当.

質問コーナー, 担当.

地域支援, フィールドレポーター, 琵琶湖博物館, 5 件.

2008 年 5 月 25 日, フィールドレポーターフィールドレポーター祭り, 交流・研究会, 琵琶湖博物館.

2008 年 11 月 9 日, はしかけ登録講座, 琵琶湖博物館.

2009 年 3 月 7 日, 中国・太湖の水辺利用, 新琵琶湖学入門セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

他博物館・機関の活動

2008 年 11 月 22 日, 水と暮らし, 立命館守山中学校ミュージアム・スクール (琵琶湖学習), 指導.

視察対応

2008 年 4 月 9 日, 農業に直結する琵琶湖と“水”について, 第 26 回日中記者訪問団, 琵琶湖博物館.

2008 年 6 月 19 日, 東アジア研究視察団, 調査補助, 草津市.

2008 年 7 月 27 日, 琵琶湖の歴史, 中国代表団, 琵琶湖博物館.

2008 年 12 月 3 日, 湖の環境保全, 中国無錫政府, 琵琶湖博物館.

2009 年 1 月 16 日, 館内案内, 世界湖沼会議・財団法人国際湖沼環境委員会・中国環境科学学会, 琵琶湖博物館.

2009 年 2 月 14 日, 水環境・湖環境や河川環境に関する事, 中国政府外務省, 琵琶湖博物館.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

中国語版の更新 (展示、案内等).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2008 年度, うるわしき琵琶湖よ永遠に一父子が見た湖国, 企画展示・推進, 琵琶湖博物館, 副担当.

2008 年度, 近江の昭和と平成の写真展, うるわしき琵琶湖よ永遠に一父子が見た湖国, 企画展示・推進, 草津市イオンモール, 補助.

他博物館・機関の活動

太湖生態博覧園, 2008 年 8 月 28 日, 環境保全, 日中国際会議・中国無錫環境保護局・中国政府等 (中国無錫).
草津市役所, 2008 年 11 月 8 日, パワーフル市民参加.

【研究部関連事業】

2008 年度，琵琶湖博物館研究発表会，副担当，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2009 年 2 月 16 日～23 日，中国紅蘇省無錫市，太湖市，太湖流域数編調査.

2009 年 3 月 26～30 日，中国北京中央民族大学，日中社会学国際シンポジウム，学会発表.

2008年度は、二つの展覧会の担当となりその準備や後片付けに終始した。一つは、「企画展示ファーブルに学ぶ」の関連展示として開催された水族担当による水族企画展示「ぼくらのファーブル昆虫記」である。ファーブルは水生昆虫には興味がなかったのか、その記載はほとんどない。水族企画展示室を利用して生き物を展示するわけであるから、内容は必然的に水生昆虫に向かう。しかし、この展示では専門性を排除して、昆虫を研究の主体としない博物館の関係者ととも昆虫との関わりや愛着について、それぞれの立場で蘊蓄を傾け合うことを企画した。従って、内容的には首尾一貫した主張はないが、いわゆる虫のおもしろさを存分に語ってもらえたものと思っている。導入部として、展示室中央には夏枯れを恐れずトンボ(の幼虫のヤゴ)の展示を行い、続いて水族常設展示で手慣れたゲンゴロウやガムシの仲間とタガメやタイコウチ、コオイムシなどの展示を行った。そのほか、国の内外の食用昆虫の展示(コオロギやくモの唐揚げ、蜂の子、ザザムシ etc.)、環境に優しい有機素材であるカイガラムシの製品(レコード、帽子、糖衣錠 etc.)、虫偏の生き物(ムカデやミミズ、エビ etc.)、鳴く虫(シバズやキリギリス etc.)、ホタル(夏場の幼虫展示)、森林害虫(カシノナガキイムシ、カミキリムシ類)、文化財害虫(ゴキブリやチャタテムシなど)といった通常目にしないような対象まで取り扱った。また、来館者に虫に関する思い出を書き添えて貰い展示とする、など楽しい展示となるように工夫した。

二つ目の展示は、本館の企画展示室全体を使っての写真パネル展であった。パネルは、館内の大判インクジェットプリンターを使ってすべて手作りで行い、原板フィルムデジタルスキャンから修正作業まで外部委託なしの状態であったため、とても大変な作業だった。内容は、なかなか整理の進まなかった大橋宇三郎氏の作品群である。現在でも全ての整理が完了したわけではないが、10年以上前に収集され、担当者のいなくなった資料群として放置しておく訳にはいかなかった。予算が削減される中で、いま展覧会を行わなければ整理作業に関わってくれた遺族の方に何のねぎらいも掛けることが出来ないとの思いから、無理を承知の展示であった。幸にも無事終了したことが何よりである。この展示では、パネルの近くに入館者の意見や気持ちを書いて貼り付ける参加型展示を試みた。これにより、不足している写真に関する情報を少しでも多く集めることが出来るとの目論見であった。会期後半には、貼られたメモ用紙で壮観な状態となったが、そのまとめには少し時間が必要である。このパネル展は地域性が極めて高い展示で、主な撮影地である彦根市と湖岸の日常風景の記録である。撮影後数十年を経て当時の情景を回想し、感慨にふける入館者が多くいた。パネルを前にして懐かしそうに会話を弾ませる老夫婦に声を掛けると「後ろ姿で写っている少女は私かも知れない」との返事、しかし、ついぞメモを貼り付けては帰らなかった。沢山の添付メモを前にして、これを貼らなかった入館者に想いが走った。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

秋山廣光（2008年5月16日）回想法と写真療法－博物館における映像資料の収集と利用についての可能性－、琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖集水域における人や生き物の活動の映像記録（写真撮影、録音など）に関する研究ならびに博物館的表現・伝達方法・利用に関する研究」，（2008年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，7件。

2008年11月20日，外来魚調理，指導者のための博物館活用講座，琵琶湖博物館，講師。

2009年1月24日，琵琶湖の魚の現状を考える，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演。

他の博物館・機関等主催行事

2008年4月26日，琵琶湖に生息する外来魚・外来生物について，関電プラント労働組合，琵琶湖博物館，講師。

2008年5月17日，魚の解剖，立命館高校，琵琶湖博物館，講師。

2008年6月14日，外来魚解剖教室，豊かな湖づくり推進委員会，あづち外来魚駆除釣り大会，常の浜水辺公園（滋賀県安土町），講師，（ぼてじゃこトラストと共同）。

2008年6月21日，生き物調査，米原市教育委員会，伊吹山資料館（滋賀県米原市），講師。

2008年7月9日，外来生物と環境について，大阪シニア自然大学，琵琶湖博物館，講師。

2008年7月23日，私たちの暮らしと琵琶湖の関わりについて，全トヨタ労働組合連合会近畿ブロック地方協議会，スマイル・リング・イベント in 近畿，琵琶湖博物館，講師。

2008年7月24日，水族飼育「表裏」・魚の解剖，県立石部高校，夏期集中講義，琵琶湖博物館，講師，2件。

2008年7月28・29日，課題研究，県立石部高校，夏期集中講義，琵琶湖博物館，講師，2件。

2008年7月30日，琵琶湖の生き物，県立膳所高校，スーパーサイエンスハイスクール事業，琵琶湖博物館，講師。

2008年7月31日，天神川で水の中の生き物を見つけよう，土曜福寿会・ぼてじゃこトラスト，天神川・西方寺境内（大津市），講師，

2008年8月2日，魚つかみと滋賀の魚について，倉橋部町子供育成会，倉橋部町集会所（近江八幡市），講師。

2008年8月6～7日，外来魚調理，滋賀県教育委員会理科教育部会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月12日，迫る生態系の危機，滋賀県教育委員会，平成20年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月21日，魚の話，伊川谷連絡所，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月25日，「身近な川やびわ湖を調べてみよう」外来魚調理，滋賀県総合教育センター，理数系教員指導力向上研修教員，琵琶湖博物館，講師。

2008年10月1日，琵琶湖博物館の概要，JTB 旅ホ連滋賀支部，びわ湖研修旅行，琵琶湖博物館，講師。

2008年10月4日，外来魚の解説と調理実習，泉南市立青少年センター，琵琶湖博物館，講師。

2008年10月9日，魚の解剖，笠縫東小学校，琵琶湖博物館，講師，2件。

2008年11月11日，外来魚の解剖，米原高等学校，体験学習，琵琶湖博物館，講師。

2009年2月26日，外来魚の課題と対応～外来魚調理～，滋賀県教育委員会，第3回理科支援員研修会，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2008年4月12日，教育旅行のための視察，韓国中学校校長・高等学校校長・事務局長，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2008年11月20日，テレビ朝日，スーパーモーニング，映像確認，（2008年11月10日取材）。

2008年12月14日，日本テレビ，新ニッポン探検隊！展示魚類とヨシの撮影立ち会い，（2008年12月13日取材）。

2008年12月28日，NHK，世界一周！地球に触れるエコ大紀行，琵琶湖の魚の展示紹介，出演。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育管理（魚病担当）。

映像資料貸出, 藤村コレクション, 1 件.
映像資料貸出, 前野コレクション, 6 件.
映像資料貸出, 災害写真, 3 件.
映像資料貸出, 民具, 1 件.
映像資料貸出, 魚類, 17 件.
映像資料貸出, 料理, 2 件.
映像資料貸出, その他の生物, 3 件.
映像資料貸出, 植物, 1 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 8 件.
2008 年 7 月 19 日～8 月 31 日, 企画展示関連水族展示「ぼくらのフェアブル昆虫記」, 主担当.
2008 年 9 月 20 日～11 月 16 日, ギャラリー展「うるわしき琵琶湖よ永遠にー父子の見た湖国ー」, 主担当.
2008 年 11 月 20 日～12 月 7 日, 「うるわしき琵琶湖よ永遠にー父子の見た湖国ー」, イオン開店記念展示.
2009 年 3 月 24 日～4 月 12 日, 水族トピック展示「ハッタミミズ」, 副担当.
展示交流員と話そう, 内容指導, 2 件.

他博物館・機関の活動

環境と科学のフェスティバル実行委員会, 2008 年 8 月 3 日, 日光写真と針穴写真, ブース担当.
(社)日本動物園水族館協会, 2008 年 11 月 6 日～7 日, 平成 20 年度水族館・教育事業参加型研修会, 副担当.

【企画調整活動】

新任職員研修, 資料としての水族と展示手法, 講師, 2008 年 4 月 23 日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1990～2008 年度, nets 滋賀の水生生物調査グループ, 会員.
1994～2008 年度, ぼてじゃこトラスト顧問.
2005～2008 年度, お魚ネットワークおおつ, 会員.
2006 年 8 月 1 日～2009 年 3 月 31 日, 滋賀県生きもの総合調査, 専門委員.
2008～2009 年度, 特定非営利活動法人日本写真療法家協会, 理事.
2008 年度, 湖北町, 健康づくり大学びわこキャンパス, 写真療法ワークショップ補助.
日本動物行動学会会員.
日本魚病学会会員.
2000～, 日本写真学会会員.
ぼったりぎず会員.

<2007 年度分>

一昨年の佐川美術館で行われたキッズミュージアムの活動以来、美術館、博物館連携事業を通して映像、中でも写真（静止画、銀塩写真）の生い立ちまでさかのぼり研究する必要に迫られました。その中で、針穴写真と日光写真、フォトグラムという原初的な画像形成手段が芸術性と科学技術性を兼ね揃え、学習に利用できることを得ました。しかし、その延長線として、写真療法、フォトセラピーという新たな分野に足を踏み入れる結果となりました。折しも、2 月に第一回フォトセラピー学会が開催されたため、この分野での研究、活動内容を調べることが出来ました。奇しくも、類似した名称の写真療法家協会が 4 月に発足したため、その活動内容を研究することが出来ました。

当初の思惑としては、博物館活動の発展を考え、近年模索されている回想法について、何らかの手がかりを求めていたところでした。琵琶湖博物館には、昭和20～30年代の琵琶湖とその周囲で暮らす人々の写真資料が沢山集められています。これらを回想法という視点で活用できないか、調査するのが目的でした。

写真の本質について、フランスの数理学者ロラン・バルトがその著書の中に記したように、撮ること、撮られること、眺めることの実践と志向であると考え、写真療法はまさしくその実践を通して行われるものであることが分かります。回想法で利用可能な古写真は、写真の本質の一部を使うことでしかなく、フォトセラピーとも写真療法とも別なものであることが分かりました。しかし、写真が何らかの形で人の記憶や身体との関連し回想という機能に役立つことも事実です。又、回想法としてではなく写真療法として博物館活動に利用可能な分野であることも分かりました。療法と言えるほど効果のある写真撮影とその活動を博物館にどのように活かすかは、同時に博物館と資料の持つ精神治療的効果（ミュージアムセラピー）についての活動に発展するものと考えています。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

秋山廣光（2007年5月18日）博物館に於ける静止画資料の整理と利用．琵琶湖博物館研究セミナー．琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖集水域における人や生きものの活動の映像記録（写真撮影、録音など）に関する研究並びに博物館的表現・伝達方法・利用に関する研究」，（2007年度）．

【受賞など】

平成17年度日本博物館協会顕彰（1号），2005年11月17日，永年勤務（全国の加盟館より17名）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件．

2007年7月23日，水族ガイドツアー，琵琶湖博物館，講師．

2007年7月28日・8月21日，企画展体験実習「標本作り・咽頭歯」，琵琶湖博物館，講師，2件．

2007年8月6日，博物館実習，琵琶湖博物館，講師．

他の博物館・機関等主催行事

2007年6月3日，田んぼの中をのぞいてみよう!&メダカを捕まえて育てよう!，福寿土曜学校，西方寺（大津市），講師．

2007年6月16日，ハリヨ池管理について，金の森自治会，守山市，アドバイザー．

2007年6月17日，琵琶湖の魚と自然環境，滋賀大学OB会，つがやま荘（守山市），講師．

2007年7月1日，琵琶湖の魚について，ぼてじゃこトラスト，ウォーターステーション（大津市），講師．

2007年7月18日，琵琶湖の水生動物について，大阪シニア自然大学ミドリ組，琵琶湖博物館，講師．

2007年7月24日，琵琶湖の生き物、食育的な話，県立膳所高校，琵琶湖博物館，講師．

2007年7月25日，魚の話・魚の解剖，県立石部高校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，講師，2件．

2007年7月26日～27日，課題研究，県立石部高校，夏季集中講義，琵琶湖博物館，講師．

2007年7月30日，川の生き物調査，米原市教育委員会，伊吹山資料館（滋賀県米原市），講師．

2007年8月7日，外来魚調理，自然調査ゼミナール，滋賀県教育委員会理科教育部会，琵琶湖博物館，講師．

2007年8月9日, 魚の話, 教員研修, 奈良県田原本町小学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月22日, カエルツボカビについて, 環境教育教員研修, 滋賀県教育委員会, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月19日, 愛知川おとなの川遊び, ぼてじゃこトラスト, 愛知川(永源寺町), 講師.

2007年8月20日, センス・オブ・ワンダー, 滋賀県立近代美術館, 教員対象研修交流会, 滋賀県立近代美術館, ブース設営.

2007年8月23日, 投網研修, 滋賀総合教育研修所, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月30日, 外来生物の話, 教員環境学習, 野洲北中学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年9月15日, 大人の川遊びトレーニング, ぼてじゃこトラスト, ウォーターステーション, 講師.

2007年9月24日, どんな魚たちと出会えるかな?, ホタルの学校, 千丈川(大津市), 南郷市民センター, 講師.

2007年9月29日, 文化財・博物館の写真撮影, 第一回文化財講座, 多賀町立文化財センター, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年10月3日, 琵琶湖の魚と漁業, 高島市立本庄小学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年10月11日, 魚の繁殖と子育て, 恵光学院PTA, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年10月25日, 魚の音について, 茨木市立春日小学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年11月13日, 琵琶湖の魚・解説と解剖, 滋賀県立米原高校, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年11月15日, 琵琶湖の環境, トラック協会, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年12月9日, 展示案内, ZOO 教研, 琵琶湖博物館水族展示解説, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年1月26日, エンジョイ・サタデー教室, 大津市立仰木公民館, 大津市立仰木公民館, 講師.

2008年2月2・16日, ミュージアムスクール, 立命館中学校, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2008年2月9日, 滋賀の魚, 多賀町立博物館, 先生・指導員向け講座, あげぼのパーク多賀(犬上郡多賀町), 講師.

2008年2月23日~24日, 環境と科学, 米原文産会館ワークショップ, ブース設営, 講師.

メディアへの協力

アクアライフ, (2007年9月20日取材).

2008年2月16日, ABC テレビ, ビワマス撮影, 撮影協力, (2008年2月16日取材).

2008年3月11日, CBC テレビ, ヨシ水槽撮影, 撮影協力, (2008年3月11日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育管理(魚病担当).

水族映像資料担当.

映像資料貸出, 貝類2件.

映像資料貸出, 化石類2件.

映像資料貸出, 漁業1件.

映像資料貸出, 災害3件.

映像資料貸出, 魚類28件.

映像資料貸出, 植物1件.

映像資料貸出, 鳥類2件.

映像資料貸出, その他生物4件.

映像資料貸出, その他25件.

映像資料貸出, 藤村コレクション2件.

映像資料貸出, 前野コレクション7件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3件.

展示交流員と話そう，内容指導，4件。

【企画調整活動】

新任職員研修，琵琶湖の水族と博物館の展示手法，講師，2007年4月18日，琵琶湖博物館。
JICA 個別研修，琵琶湖の魚，講師，2007年6月28日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1990～2007年度，nets 滋賀の水生生物調査グループ，会員。
1994～2007年度，ぼてじゃこトラスト顧問。
2005～2007年度，お魚ネットワークおおつ，会員。
2006年8月1日～2009年3月31日，滋賀県生きもの総合調査，専門委員。
2007～2008年度，特定非営利活動法人日本写真療法家協会，会員。
2000～日本写真学会会員。
日本動物行動学会会員。
日本魚病学会会員。
ぱったりぎす会員。

総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」ではフランスから有殻アメーバの専門家を招待し、琵琶湖北湖および南湖から底泥を採取し、有殻アメーバの調査を行った。現在のところ新種は見つかっていないが、多数の琵琶湖未記録種を発見した。また、1981年以降生きた個体が全く確認されていない琵琶湖固有種とされるピワツボカマリの殻をほぼ全調査地点から採取した。残念ながら生きた個体は発見できなかったが、この種が広く琵琶湖に分布していたことを裏付ける試料だと考えられる。

専門研究では未記載種と思われる共生藻類をもつ肉食性の繊毛虫 *Didinium* 属の1種を記載するため培養を試みた。琵琶湖および水田から5種ほど小型繊毛虫を単離し、培養して、餌として与えたところ、何種かの捕食は観察されたが、どの種も *Didinium* を培養するほど十分な餌にはならなかった。

博物館の事業としては企画調整課でJICA博物館学集中コースの担当として、5カ国9人の研修員を受け入れ、琵琶湖博物館で行ったさまざまなプログラムの立案やコーディネートを行った。また、大学生が学芸員資格を取得するための博物館実習では主担当として15大学、28名の大学生を受け入れ、プログラムの立案やコーディネートを行った。

印刷物

【学術論文】

- Foissner, W., Kusuoka, Y. and Shimano, S. (2008) Morphology and gene sequence of *Levicoleps biwae* n. gen., n. sp. (Ciliophora, Prostomatida), a proposed endemic from the ancient Lake Biwa, Japan. *The Journal of Eukaryotic Microbiology*, 55(3) : 185-200.
- Daode, J., Kusuoka, Y. (2009) A description of *Apocarchesium rosettum* n. gen., n. sp. and a redescription of *Ophrydium eichornii* Ehrenberg, 1838, two freshwater peritrichous ciliates from Japan. *European Journal of Protistology*, 45 : 21-28.

【専門分野の著作】

- 楠岡 泰 (2008) 新種の生物を発見するには・・・!. 滋賀の理科教材研究委員会編, やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック(改訂版), 合同出版株式会社, 東京都千代田区 : 136.
- 楠岡 泰 (2008) 砂漠の国ヨルダンにおけるプランクトンの模型作り. 日高真吾・園田直子 編, 博物館への挑戦なにがどこまでできたのか, 三好企画, 千葉県松戸市 : 319-327.
- 島野智之・フォイスナー・ウイヘルム・楠岡 泰 (2009) 古代湖としての琵琶湖から記載された新属新種の繊毛虫について. *原生動物学雑誌*, 42 (1) : 91.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 楠岡 泰・山崎真嗣・大塚泰介・前畑政善 (2008年9月19日) 水田におけるフナの摂餌およびその微生物群集への影響. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 楠岡 泰 (2008年10月3日) The Role of Museums in Environment Education : the case of the Lake Biwa Museum. アジア協力対話(ACD)第5回環境教育推進対話「水と衛生問題に関する教育」, 外務省, ピアザ淡海(滋賀県大津市), [口頭発表].

島野智之・フォイスナー・ウイヘルム・楠岡 泰（2008年11月2日）古代湖としての琵琶湖から記載された新属新種の繊毛虫について．第41回日本原生動物学会，日本原生動物学会，筑波大学（茨城県つくば市），[ポスター発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「共生藻類をもつ繊毛虫Didinium sp. の形態および生態について」，（2008年度）．

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」（研究代表者：マーク・ジョセフ・グライガー），副代表者（2006～2008年度）．

琵琶湖博物館総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」（研究代表者：前畑政善），共同研究者（2006～2008年度）．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年6月19日～28日，タイ国、Mahidol Wittayanusorn School の教員，学校や地域と博物館との連携について研修．

2008年7月29日，JICA フセインサガール湖沼管理保全コース，Environment education in museums．

2008年9月2日，JICA 水辺を中心とする自然体験を通じた環境教育コース，Environment education in the Lake Biwa Museum．

2008年9月12日，JICA 水環境を主題とする環境教育コース，Environment education in the Lake Biwa Museum．

2008年10月29日，JICA 第3回イラク南部湿地帯保全コース，Museums as a place for environment education．

2009年2月3日，JICA 湖沼環境保全のための総合的流域管理コース，Environment of Lake Biwa．

2009年2月11日，JICA 中東地域博物館研修コース，Lake Biwa museum and the local community．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件．

里山体験教室，はしかけ担当，4回，西村知記・はしかけ「里山の会」共同．

はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」，主担当．

はしかけ「里山の会」，副担当．

2008年5月10日，プラバラープランクトンでばらばらまんがー，体験学習，講師，（飯住達也・中野正俊・びわたん共同）．

2008年6月21日，不耕起栽培の水田で生き物を観察しよう，観察会，高島市朽木生杉，講師，（朽木いきものふれあいの里共催）．

2008年11月8日，マキノの里山を歩こう，観察会，高島市マキノ，主担当，（布谷知夫・カワセミ自然の会共催）．

他の博物館・機関等主催行事

2008年6月17日，プランクトンの観察1・2，県教員初任者研修，琵琶湖博物館，講師，2件．

2008年6月19日，プランクトンの観察1・2，県教員初任者研修，琵琶湖博物館，講師，2件．

2008年7月16日，プランクトンの観察，県立彦根東高校，琵琶湖博物館，講師．

2008年8月5日，プランクトンの観察，愛知県立海翔高校2年，琵琶湖博物館，講師．

2008年8月6日，プランクトンおよび付着生物の観察，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師．

2008年8月7日，プランクトンの同定，栗東中学校科学部，琵琶湖博物館，講師．

2008年8月11日，講義プランクトンの観察，環境学習研究協議会（小学校），琵琶湖博物館，講師．

2008年9月17日，プランクトンの採集および採水，琵琶湖博物館，講師．

2008年10月1日，プランクトンの観察水質，大阪府立高津高校，琵琶湖博物館，講師．

2008年11月11日, プランクトンの観察1・2, 県立米原高校, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.
2009年3月5日, プランクトンの観察, 大阪府立住吉高校SSH, 琵琶湖博物館, 講師.
2009年3月31日, プランクトンの観察, 名古屋市立向陽高校2年, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2008年4月17日, 展示案内および事業説明, National Inst. Biological Resources, 韓国, 琵琶湖博物館.
2008年4月30日, 展示案内および事業説明, JICA イラン国湿原管理コース, 琵琶湖博物館.
2008年6月3日, 展示案内, JICA 閉鎖性海域の水環境管理コース, 琵琶湖博物館.
2008年6月17日, 展示案内, 順천시視察団II, 韓国, 琵琶湖博物館.
2008年7月3日, 展示案内, トップマネージメントセミナー, ブラジル, 琵琶湖博物館.
2008年7月30日, 展示案内および事業説明, Wonju Hoeng Sung 文化情報センター, 琵琶湖博物館.
2008年10月2日, 展示案内, アジア協力対話第5回環境教育推進対話, 琵琶湖博物館.
2008年10月16日, 展示案内, 南原市庁, 韓国, 琵琶湖博物館.
2009年2月19日, 展示案内および事業説明, Mahidol Wittayanusorn School 教育視察団, タイ国, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

2008年7月8日, びわこ放送, ローカルニュース, 新種の原生動物, 取材対応, (2008年7月8日資料提供).
2008年7月9日, 朝日新聞, 琵琶湖で新種発見織毛虫「レビコレプス・ビワエ」, 取材対応, (2008年7月8日資料提供).
2008年7月9日, 京都新聞, ゴウリムシの仲間レビコレプス・ビワエ琵琶湖で新種発見, 取材対応, (2008年7月8日資料提供).
2008年7月9日, 読売新聞, 織毛虫の新種琵琶湖で発見, 取材対応, (2008年7月8日資料提供).
2008年7月9日, 産経新聞, 琵琶湖に新種の原生生物命名レビコレプス・ビワエ, 取材対応, (2008年7月8日資料提供).
2008年7月9日, 中日新聞, 琵琶湖から新織毛虫学術名「レビコレプス・ビワエ」, 取材対応, (2008年7月8日資料提供).
2008年7月9日, 毎日新聞, 新種の織毛虫を発見, 取材対応, (2008年7月8日資料提供).
関連記事滋賀報知, 河北新報などの多数の地方紙のウェブサイト, Google, Yahoo, MSNなどのネットニュースにも掲載される.
2009年2月5日, NHK, ローカルニュース, 関西ニュース, BSニュース, 新種のツリガネムシ発見, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
2009年2月5日, びわこ放送, ローカルニュース, 新種のツリガネムシ発見, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
2009年2月6日, 京都新聞, 琵琶湖にツリガネムシの新属新種, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
2009年2月6日, 中日新聞, ツリガネムシに新種, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
2009年2月6日, 毎日新聞, アポカルケシウム・ロゼッタムと命名ツリガネムシ科の新種発見, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
2009年2月6日, 読売新聞, 新種のツリガネムシ琵琶湖博物館発表, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
2009年2月6日, 産経新聞, 滋賀県立琵琶湖博物館は5日, 琵琶湖岸でツリガネムシの新種を発見したと発表した, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
2009年2月7日, 朝日新聞, ツリガネムシに新種琵琶湖で発見, 取材対応, (2009年2月5日記者発表).
関連記事福井新聞, 山梨日日新聞, 山形新聞などの多数の地方紙のウェブサイト, Google, Yahoo, MSNなどのネットニュースにも掲載される.

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

FishBase, 琵琶湖に生息する魚のリストを提供, 日本語資料を英語に翻訳, 76件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物静止画，撮影および指導，約750件.

微小生物動画，撮影および指導，約20件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4件.

2008年，常設展示：生き物コレクションプラントンコーナー，維持管理、展示更新（年4回）.

2008年，常設展示：ミクロの世界，維持管理.

2008年，常設展示：どぶ川の生き物たち，維持管理.

【企画調整活動】

国際交流，主担当，2008年.

電子メールによる質問，主担当，2008年.

来館者調査，主担当，2008年.

博物館実習，主担当，2008年.

JICA博物館学集中コース，副担当，2008年，（布谷知夫・スミス、ロビンJ. と共同）.

JICA博物館学集中コース，Introduction to the Lake Biwa Museum，講義，2008年5月8日，琵琶湖博物館.

JICA博物館学集中コース，展示見学，解説，2008年5月8日，琵琶湖博物館，（スミス共同）.

JICA博物館学集中コース，はしかけおよびフィールドレポートとの懇談，コーディネート，2008年5月10日，琵琶湖博物館，（布谷・スミス共同）.

JICA博物館学集中コース，体験学習プログラム見学および体験，体験学習の講師，2008年5月10日，琵琶湖博物館，（中野・泉住びわたん共同）.

JICA博物館学集中コース，草津本陣見学，引率，2008年5月11日，草津本陣，（スミス共同）.

JICA博物館学集中コース，琵琶湖博物館の展示を評価する，実習指導，2008年5月13日，琵琶湖博物館，（布谷・スミス共同）.

JICA博物館学集中コース，沖縄博物館見学，引率，2008年5月20日～23日，沖縄県立博物館など9施設，（国立民族学博物館共同）.

JICA博物館学集中コース個別研修，ディスカバリールーム七夕準備，指導補助，2008年6月23日，琵琶湖博物館，（芦谷・山田・布谷・スミス共同）.

JICA博物館学集中コース個別研修，ディスカバリールーム国際コーナーの計画，2008年6月23日，琵琶湖博物館，（芦谷・山田・布谷・スミス共同）.

JICA博物館学集中コース個別研修，プランクトンの模型作り，実習指導，2008年6月24日，琵琶湖博物館，（スミス共同）.

JICA博物館学集中コース個別研修，ヨシ博物館および能登川博物館見学，引率，2008年6月24日，ヨシ博物館および能登川博物館，（布谷・スミス共同）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004年4月～2009年3月，JICA博物館学集中コース運営委員会，運営委員.

昨年度までの段階で、「機関連携」というキーワードを拠り所として博物館学を展開し、その具体的な連携対象として「地域内の博物館施設」「学校」の二者を当面は設定するという方向性を定めることができた。これに基づき、まず目前の作業として「地域内の博物館施設」を対象とする具体的な活動である滋賀県博物館協議会 25 周年記念事業について、まず事業自体を完遂し、将来への展望も見据えた総括をしたうえで、これを研究成果としてまとめることが、今年度前半に最も力を入れた活動である。

一方の学校連携については、特に究極対象である児童生徒に対する直接の働きかけではなく、媒介となる学校教師を直接の対象とする活動に着目した事例研究を当面の切り口としている。年度前半には、前年度限りで学校現場へ戻った共同研究者の業績を公表して学界への問題提起とするべく、口頭発表を行うと同時に印刷公表も目指したが、後者は実現に至らなかった。

折りしも、県の財政難による予算削減の影響で展示室内の回転実験室が従来通りに運営できなくなり、活用方法を模索するという状況が生じたが、その解決策として展開した事業のうち最も進展しているのが、教師や教育関係者を対象とする研修事業という形での展開である。これも学校連携に関する事例研究の切り口となりうるものである。

このような学校連携に関する取り組みを先年から公表し続けてきた結果、この分野に関する 2 件の依頼を年度末に受けた。1 件は全国科学博物館協議会において琵琶湖博物館の学校連携事業について包括的に報告するというものであり、この依頼講演を通して琵琶湖博物館の事業に関して自分なりの総括を改めて行うことができた。もう 1 件は、国立教育政策研究所の政策立案事業に関連して学校と科学館との連携について実情調査と政策提案を行うことであり、その一環として米国西海岸の著名な科学館を現地視察することができた。このような館外からの注目も、今後の展開に最大限に利用していきたい。

印刷物

【学術論文】

戸田 孝 (2009) 地域の博物館連携組織を主体とする「展示活動」－滋賀県博物館協議会 25 周年記念事業を例として－. *博物館研究*, 44 (2), 日本博物館協会 : 21-24.

【一般向けの著作】

戸田 孝 (2008) 湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「積極的環境政策支える－県域と琵琶湖流域一致」. *毎日新聞*, 46, 毎日新聞社 : 2008 年 4 月 15 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

戸田 孝・中村公一 (2008 年 8 月 22 日) 博物館教員の相互連携に向けた試み. 日本科学教育学会第 32 回年会, 日本科学教育学会, 岡山理科大学 (岡山市), [口頭発表].

戸田 孝・小泉成史・佐倉 統・楠見春美 (2008 年 11 月 24 日) 科学情報とウェブ II 科学館・博物館の取り組みをさぐる. サイエンスアゴラ 2008, (独) 科学技術振興機構, 東京国際交流館 (東京都港区), [口頭発表].

戸田 孝 (2008 年 11 月 21 日) 県博協 25 周年記念事業から見えてきたこと. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝（2009年2月27日）「相手に応じた」学校対応の模索－琵琶湖博物館の事例．全国科学博物館協議会第16回研究発表大会，全国科学博物館協議会，鉄道博物館（さいたま市），[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」，（2008年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本科学教育学会，科学教育研究，査読，1件．

陸水物理研究会，運営委員，2004年度～．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件．

2008年8月5日，回転実験室で水槽実験を！，博物館講座，琵琶湖博物館，講師，主担当．

他の博物館・機関等主催行事

2008年8月12日，コース別研修「コリオリの力」，滋賀県教育委員会，平成20年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館，講義・実習．

2008年8月13日，コリオリの力と琵琶湖，茨木市教育研究会小中学校理科部会，平成20年度夏季臨地実習，琵琶湖博物館，講義・実習．

2008年8月25日，回転実験室での体感実験とその背景となる理論とのつながり，滋賀県総合教育センター，理数系教員指導力向上研修（希望型）「身近な川やびわ湖を調べてみよう」第3回「びわ湖の自然現象と生態系」，琵琶湖博物館，講義・実習．

2009年3月7日，回転実験室での実験，物理教育学会近畿支部，2008年度物理教育学会近畿支部研鑽会，琵琶湖博物館，講義・実習．

メディアへの協力

2009年2月22日，日本テレビ，世界の果てまでイッテQ，赤道上での地球回転力学に関する理論的説明についての助言，（2009年1月30日取材）．

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

インターネットを介した情報発信，主担当．

情報システム整備および運営，副担当．

質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理，副担当．

全館員向けメールメッセージの館内公開．

琵琶湖博物館個人管理ページ（戸田），管理・運営，更新多数．

他博物館・機関の活動

滋賀県博物館協議会，協議会ページの運営（各加盟館紹介ページの更新など）．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2008年3月1日～4月13日，ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」，主担当．

2008 年度，気象に関する展示の維持管理，主担当.

2008 年度，水理に関する展示の維持管理，主担当.

他博物館・機関の活動

滋賀県博物館協議会，2007 年 11 月 3 日～2008 年 9 月 30 日，巡回パネル展「淡海の博物館・美術館」，企画・調整・記録.

【企画調整活動】

JICA 博物館集中コース，Information Use and Equipment for Information Use -Learning from History-，講師，2008 年 5 月 12 日，琵琶湖博物館.

【研究部関連事業】

研究調査報告担当，号数管理・体裁統一のための連絡調整.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2008 年度，広報経営戦略会議，メンバー.

2008 年度，滋賀県博物館協議会，事務局，主担当.

【海外渡航】

2009 年 3 月 1 日～5 日，アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコおよびバークレー，学校と科学館との連携に関する現地調査.

【館外の活動】

2009 年 1 月 5 日～3 月 31 日，国立教育政策研究所，第 3 期科学技術基本計画のフォローアップ「理数教育部分」に係る調査研究ワーキンググループ，学校と科学館との連携に関するワーキンググループ委員.

専門分野に博物館展示学が加わり、公にも博物館学と植物生態学の「二足のわらじ」を履くこととなった。2008年度は、フィールドワークを再開することはできなかったが、野外で研究ができなかった期間に収集した文献等資料を整理することからはじめ、新しい研究活動に向けて準備をすることができた。また、数年ぶりに研究セミナーや来館者の方への講演なども行うなど、活動もいろいろと再開することができた。

印刷物

【一般向けの著作】

芦谷美奈子（2008）ディスカバリー・ルームの10年II. 月刊ミュゼ, アム・プロモーション, 84: 24-25.

芦谷美奈子（2008）琵琶湖の沈水植物. ダイビングワールド. マリン企画, 398: 120.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芦谷美奈子（2009年1月16日）博物館のミッションと地域連携～シカゴの4園館の事例から考える～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「イバラモの雌雄比および雌雄分布とシュート成長に関する研究」, (2008年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

2009年1月24日, 水生植物の多様性, 新琵琶湖学入門セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリー・ルーム「世界の子どもたち・ザンビア」展示制作, 主担当者.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2008年11月17日～27日, シカゴ科学産業博物館・シカゴ植物園・フィールド自然史博物館・シェッド水族館（アメリカ合衆国・シカゴ）, ミッション・ステイトメントと地域連携についての調査.

【館外の活動】

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員.

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員.

2002年8月～，守山なぎさ地区保全地域協議会，委員.

2003年1月～，滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員.

2008年11月～，国立科学博物館，平成20年度文部科学省委託事業「科学的体験学習プログラムの体系的開発に関する調査研究」連携システム分委会，委員.

民俗学部門担当の学芸職員として、開館以来、民俗資料の収集・整理・利用、民俗分野に関する交流・情報・展示の各事業を担当してきたが、本年度からは新設された「資料活用学」の担当となり、事業部も交流担当に異動、地域連携、フィールドレポーターの担当となった。こうしたこともあり、本年度は出張やイベント以外は事務学芸室の団体受付カウンターにほど近い席で仕事する日々を送った。これが功を奏してか、学校（大学を含む）や地域団体からの依頼に応じ、地域に貢献する機会に数多く恵まれた。

その一つが、2004年から始めたはしかけグループ「近江はたおり探検隊」に関わることである。素材の栽培・採集から昔の道具を使って糸を作り布を織る活動を知った方々から、機織り用具の研究や綿からの糸紡ぎ・機織り、草木染めの協力依頼が寄せられた。龍谷大学里山学オープンリサーチセンターからの依頼で田上郷土資料館に収蔵する民具の展示会「暮らしの中の造形展」に協力、しが文化芸術学習支援センターからの依頼で草津養護学校と連携授業を行った。長浜城歴史博物館が企画する近江の糸と織りをテーマとした特別展の協力も始まっている。

また、専門の「昔のくらし体験」に関しては、滋賀大学教育学部からの依頼で日本農業教育学会シンポジウムで発表、前年度学校サテライト博物館事業で関わった湖北町立朝日小学校と連携授業を行い、今年度は湖北町の教員研修での講義・実習までさせていただいた。その他に教員研修は5件、連携授業は10件以上行った。

さらに、「ミュージアムセラピー」に関しては、高齢者施設の方々定期的に本館生活実験工房で昔のくらしを体験する機会をつくれた。お身体が不自由ながらも足踏式脱穀機を踏んだり、わら草履づくりに熱心に取り組みされる姿などに職員の方々は何度も驚かれた。保育園の就学前教育研究会として、保育園児とともに工房で昔くらし体験を行う機会もつくることができ、高齢者と保育園児がお互いに労わりあう姿が研究会で話題にもなった。

さまざまな企業や地域団体からの協力依頼に応え、連携の道を探ったが、博物館としての実績が乏しく実現できなかった依頼も多々あった。しかし、年末に来館された木考塾とは、博物館との協働を模索する特別研究セミナーを年度末に開催し、博物館職員、木考塾関係者、一般の方々自分たちの立場からの意見を出し合い、協働のキックオフにふさわしい場となった。また、滋賀の食事文化研究会とは、平成23年3月に本館で20周年記念展示を開催することにあわせ、平成21年度より、近江昔くらし倶楽部との共同例会「作ってみよう・滋賀の味」を行うこととなった。これで、衣・食・住そろって関係専門機関との連携が進むこととなり、今後の展開が楽しみである。

予算や人員の削減といった厳しい現実と直面し“仕方ない”と諦めが漂う中、地域の人々の依頼に応え、本館が今まで培ってきた資料や情報、人的ネットワークなどの資源をうまく活用することにより、地域貢献ができると私は信じている。本年度は実験的な実践を数多く重ねることができ、「昔くらし体験」が多様な社会的意義をもつことがわかってきた。そこで、平成21年度より専門研究のテーマを「昔くらし体験をめぐる博物館資源の有機的活用とその社会的意義」とし、2009年1月に「近江昔くらし倶楽部」として、はしかけグループ「展示室を楽しくする会」を刷新した。はしかけ活動を基盤に会員の意向も取り入れつつ、本館の屋外展示に太古の森・縄文弥生の森、田畑と生活実験工房を拠点にして今後も進めていきたい。

日本の昔のくらしから“今、目の前にある資源を有効に活用して事足りるとする”ことを学び、閉塞感で息苦しくなる今の時代でも、あるものでできることをやろうと志をもつものが集い、知恵を出し合い、夢を語り合う場を、この博物館に創っていきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

中藤容子（2009）「暮らしの中の造形展－田上耕と手拭」－綿織り・機織りの体験・実演についての報告－滋賀県立琵琶湖博物館との協働－。里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター2008年度年次報告書「里山から見える世界－文化としての自然」、龍谷大学里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター：115-118。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中藤容子（2008年4月18日）民具の動態研究の試みとその社会的意義―博物館における地域住民との協働実践と今後の可能性―。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中藤容子（2008年7月13日）昔くらし空間での食体験の実践と今後の可能性。滋賀の食事文化研究会・学習会，滋賀の食事文化研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中藤容子（2008年8月9日）農業教育における博物館の役割とは？―滋賀県立琵琶湖博物館「昔くらし体験」の実践から―。第66回日本農業教育学会・公開シンポジウム，日本農業教育学会，滋賀大学（大津市），[口頭発表]。
- 中藤容子（2008年11月6日）地域の中での学び―「昔くらし体験」を通じて―。研究協議会（吉身小学校区就学前教育協議会），守山市就学前教育協議会，琵琶湖博物館・若鮎保育園（守山市），[実習・口頭発表]。
- 中藤容子（2009年1月9日）地域連携の取り組みについて―滋賀県立琵琶湖博物館「昔くらし体験」の実践から―。県内文化施設次世代育成プログラム事例報告会，しが次世代文化芸術推進委員会（しが文化芸術学習支援センター），しが県民芸術創造館（草津市），[口頭発表]。
- 中藤容子（2009年3月14日）「犁から見たアジアと日本」研究紹介―腰機への応用―，第30回近江はたおり研究会，近江はたおり探検隊，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」，（2004年度～）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，7件。

地域連携・フィールドレポーター，副担当。

はしかけグループ「展示室を楽しくする会」（2009年1月より「近江昔くらし倶楽部」として刷新）担当。

はしかけグループ「近江はたおり探検隊」担当（2009年1月より副担当）。

2008年4月3日～2008年8月1日，はたおり探検，田上郷土資料館、野洲市歴史民俗資料館、みずほの郷、よしおか工房など，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，6回。

2008年4月10日～2009年3月28日，織姫の会，琵琶湖博物館，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，22回。

2008年4月20日～2009年3月8日，工房田んぼ作業・行事，琵琶湖博物館，協力，14回。

2008年8月3日，民俗資料とその活用，博物館実習，琵琶湖博物館，講義・実習。

2008年8月26～28日，黒田京北はたおり合宿，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，黒田基幹集落センター（京都市右京区），運営。

2008年9月23日～2009年3月10日，お蔵探検，はしかけ「展示室を楽しくする会」「近江昔くらし倶楽部」活動，安土町・彦根市，3回。

2008年11月18日，地域の財産に気づく―昔のくらしの学びから―，指導者のための博物館活用講座3・平成20年度10年経験者研修（選択研修），琵琶湖博物館・滋賀県総合学習センター，琵琶湖博物館，講義。

2009年1月6日～3月12日，工房を楽しもう！，はしかけ「近江昔くらし倶楽部」活動，琵琶湖博物館（生活実験工房），15回。

2009年3月14日，近江はたおり研究会（第30回），はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，琵琶湖博物館。

他の博物館・機関等主催行事

- 2008年5月17日, 体験ワークショップ, 「暮らしの中の造形展」関連行事, 龍谷大学里山学 ORC, 龍谷大学瀬田学舎 REC ホール (滋賀県大津市), 実習.
- 2008年5月22日, 上田上のおばあちゃんお話し会・体験ワークショップ, 「暮らしの中の造形展」関連行事, 龍谷大学里山学 ORC, 龍谷大学瀬田学舎 REC ホール (滋賀県大津市), 実習.
- 2008年6月3日, 環境学習からみた昔の暮らし展示見学と体験活動, 平成20年度新任教職員に係る草津市教育委員会研修会, 草津市教育委員会, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2008年6月5日・7月10日・9月25日・11月6日・12月22日・2月12日, 昔くらし体験, デイサービスラポール (守山市), 琵琶湖博物館, 協力, 6回, (はしかけ「展示室を楽しくする会」「近江昔くらし倶楽部」協力).
- 2008年6月17日, 琵琶湖にまつわる食体験保育, 若鮎保育園 (守山市), 琵琶湖博物館 (生活実験工房), 講師.
- 2008年7月12日, 近江の糸と織り (近江はたおり探検隊作品紹介), 紫の道湖上シンポジウム, 源氏物語千年紀 in 湖都大津実行委員会, 琵琶湖博物館, 協力.
- 2008年7月13日・2009年2月28日, 学習会と企画会議, 滋賀の食事文化研究会, 琵琶湖博物館, 協力, 2回.
- 2008年7月24日, 琵琶湖博物館をめぐる, 平成20年度国際青年育成交流事業 (内閣府), 滋賀県青年国際交流機構 (滋賀 IYEO), 琵琶湖博物館, 案内・企画協力.
- 2008年8月8日, 琵琶湖を取り巻く人々の暮らしと昔の道具ー「農家の暮らし」展示と綿からの糸紡ぎ体験ー, 平成20年度湖北町教職員研修会, 湖北町教育委員会, 湖北町役場 (湖北町), 講義・実習.
- 2008年8月12日, 昔の暮らしを考えるー「農村の暮らし」展示と「生活実験工房」の周辺からー, 平成20年度環境教育研究協議会教員研修会 (小学校教員), 滋賀県教育委員会, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2008年8月12日, 昔の暮らしを考えるー屋外展示「生活実験工房」と綿からの糸紡ぎ体験ー, 平成20年度環境教育研究協議会教員研修会 (中高特別支援教員), 滋賀県教育委員会, 琵琶湖博物館, 講義・実習.
- 2008年10月4日・12月6日, 琵琶湖と人々のくらしー琵琶湖博物館の展示から再発見しようー, 立命館守山中学校1年生, 琵琶湖博物館, 講義・調査指導, 2回.
- 2008年10月15日, 貫頭衣を藍で生葉染め, 若鮎保育園 (守山市), 実習, (はしかけ「近江はたおり探検隊」協力).
- 2008年10月19日, 高宮布まつり, 高宮異業種親睦会いっしょにやろう会, 高宮地域文化センター (彦根市), 協力, (はしかけ「近江はたおり探検隊」協力).
- 2008年10月23日, びわ湖と人々の生活ーB 展示室・丸子船とびわ湖の漁の展示からー, 大津市立真野小学校, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2008年10月29日, 湖北の昔のくらしと自然をいただく食体験, 湖北町立朝日小学校, 琵琶湖博物館 (生活実験工房), 講義・実習.
- 2008年11月14日, 自然をいただく食体験, 草津養護学校中等部, 琵琶湖博物館 (生活実験工房), 実習.
- 2008年11月15日, 博物館学芸員としての大きな志, 京都大学地理学談話会 OB 交流会, 京都大学文学部 (京都市), 発表.
- 2009年1月10日, 綿からの糸紡ぎ, アートと子どもたちとの出会い (しが子ども芸術祭), しが県民文化創造館 (草津市), 実習, (はしかけ「近江はたおり探検隊」協力).
- 2009年1月20日・2月5日, 3月4日, 綿からの糸紡ぎ, 草津市立高穂中学校特別支援学級, 高穂中学校 (草津市), 実習指導, 3回, (はしかけ「近江はたおり探検隊」、しが文化芸術学習支援センターの協力).
- 2009年1月21日, 昔のくらしの道具, 草津市立笠縫小学校, 琵琶湖博物館, 講義.
- 2009年2月13日, 「人々の暮らし」から見る環境教育ー琵琶湖博物館常設展示と守山市「綿と機織りの会」の活動からー, 守山市環境教育合同実践部会, 守山市教育委員会, みさき公園パークセンター (守山市), 講義・実習.
- 2009年2月21・22日, 水鳥塗り絵・ヨシ笛づくり・綿からの糸紡ぎ, 気軽にどこでもアート交流事業, 滋賀県立文化産業交流会館 (米原市), 実習, (ディスカバリールーム、はしかけ「近江はたおり探検隊」「近江昔くらし倶楽部」協力).
- 2009年2月24日, おじいちゃんおばあちゃんが子どものころのくらし, 湖北町立朝日小学校, 湖北町立朝日小学校, 講義.
- 2009年2月26日, 展示室からみる昔の知恵, 第3回理科支援員研修会, 滋賀県教育委員会, 琵琶湖博物館, 講義.

2009年3月1日, 体験交流プログラム(湖魚の食文化), 第2回近畿「子どもの水辺」交流会, 近畿「子どもの水辺」交流会実行委員会, 琵琶湖博物館, 協力, (滋賀の食事文化研究会と共同).

メディアへの協力

2008年5月18日, 中日新聞, 昔ながらの糸紡ぎ体験 龍谷大「暮らしの中の造形展」, (2008年5月17日取材).

2008年5月22日, NHK おうみ610, 龍谷大「暮らしの中の造形展」・上田上のおばあちゃんのお話会, (2008年5月22日取材).

2008年5月23日, 産経新聞, 伝統の糸繰り体験 龍谷大で市民ら, (2008年5月22日取材).

2008年6月, 琵琶湖博物館はしかけグループ「近江はたおり探検隊」(第3回スポットライト)
<http://www.e-biwa/080528spotlight/hataori.html>, 私たちがつくるびわこシニアネット, 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会レイカディア振興部, (2008年5月7・17日取材).

2008年10月17日, 京都新聞, 湖畔生活語る1000点後世に 安土の男性、町に寄贈 漁具「いざ」農具「しゃたご」, (2008年10月取材).

2008年11月24日, 京都新聞, もりやま市民活動屋台村, (2008年11月23日取材).

2009年1月11日, 京都新聞, 年末年始の食習慣教えて 琵琶博が県内調査へ, (2009年1月10日取材).

2009年1月16日, 中日新聞, 年末年始の食地域性を調査 県民参加呼び掛け 県立琵琶湖博物館, (2009年1月10日取材).

2009年1月16日, 読売新聞・滋賀県民情報, 琵琶湖博物館・はしかけ制度 15グループ360人が登録 近江はたおり探検隊 高い技術継承 綿繰機復元も, (2008年11月9・26日取材).

2009年1月17日, 毎日新聞, 年末年始の食調査に協力を 県立琵琶湖博物館, (2009年1月10日取材).

2009年1月10日, 京都新聞, 牛、モーっと知って 古文書や農具、レプリカ 草津・琵琶湖博物館で資料展, (2009年1月9日取材).

2009年2月25日, 中日新聞, 祖母講師 昔の生活学ぶ 朝日小児童 火鉢囲み, (2009年2月24日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

環境収蔵庫維持管理業務, 環境資料整備, 主担当.

民俗収蔵庫維持管理業務・民俗資料整備, 副担当.

他博物館・機関の活動

2008年6月14日・7月19日, おうみ未来塾9期生・蒲生野考現倶楽部, しゃくなげ学校(日野町), 民具整理指導協力, 2回.

2008年9月23・24日, 安土町教育委員会, 安土町下豊浦, 民具調査収集協力.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4件.

2008年度, 常設展示B展示室「湖に生きる人々」コーナー展示, 主担当.

2008年度, 生活実験工房(屋外展示)展示, 主担当.

屋外展示生活実験工房の畑に綿・苧麻・藍・青花を栽培, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

2009年3月8日, はしかけ・フィールドレポーター活動発表会, 近江はたおり探検隊・近江昔くらし倶楽部、フィールドレポーター担当.

他博物館・機関の活動

2008年5月16～24日, 暮らしの中の造形展—田上耕と手拭—, 龍谷大学里山学ORC, 龍谷大学瀬田学舎RECホール(大津市), 資料貸与・協力.

2008年11月23・24日, 綿と機織りの会, もりやま市民活動屋台村, 守山市民交流センター(守山市), 出展・協力.

2008年11月29・30日，琵琶湖博物館フィールドレポーター，びわ湖・まるエコ・DAY2008，滋賀県・湖国まるごとエコ・ミュージアム推進委員会，琵琶湖博物館，出展.

【企画調整活動】

新任職員研修，琵琶湖博物館B展示室，講師，2008年4月17日，琵琶湖博物館.

子どもたちの理科離れを食い止めるため、昨年度から展示物や標本を学校の余裕教室で展示したり、体験的な学習や展示に関わるワークショップを授業中はもちろん、休憩時間中にも行ったりしている。今年度は、企画展示「フェアブルにまなぶ」のサテライト展示を展開した。オサムシ類の標本やタマオシコガネ、オオクジャクヤマユガのレプリカ、その他ツマグロヒョウモンチョウやミノムシの仲間の生態が紹介された各種パネルを展示している。

休憩時間には、チョウを形作る簡単折り紙ワークショップを行った。子どもたちは、楽しそうに折り紙に熱中していた。こうして、移動博物館（事業名：学校サテライト博物館）では、単に展示物や標本の移動展示を行うだけでなく、学芸職員をはじめとする博物館職員と子どもたち、地域住民そして、先生たちとの交流をはかろうとするものである。昨年度は、湖北町立朝日小学校だけでなく、野洲市立野洲北中学校でも展示や交流活動を行い、湖北町立速水小学校や小谷小学校でもワークショップを実践した。また、地域住民の集う文化祭への出展も行った。その結果、事業全体の参加者数は、2,037名にのぼった。

また、教員への研修目的で、教員など指導者を対象に、生き物飼育講座を実施している。この講座では、学校で扱われることの多いチョウ類、バッタ類のみならず、水生昆虫の生態や飼育方も扱う。昨年度は、琵琶湖博物館だけでなく、移動博物館を展開する朝日小においても実施した。県北部地域では、子どもたちによる水生昆虫の観察学習が盛んに行われている。この事業によって、博物館から離れた場所で、その機能の地域化がうながされ、当該の地域と博物館との交流がはかられている。先生たちや保護者の博物館への関心が高まり、昨年度は、湖北町の2小学校の児童が琵琶湖博物館を訪問した。さらに12月に行われた「県民環境学習のつどい」では、湖北町すべての小学校が琵琶湖博物館で学習発表を行い、地元での学びを紹介しながら相互交流をはかった。

印刷物

【学術論文】

- 中野正俊（2008）博物館のサテライト化による理科・環境学習．*滋賀大学教育学部紀要*，58，滋賀大学：101-112.
- 中野正俊（2008）環境配慮行動にいたる要因の関係性．*滋賀大学教育学部紀要教育実践総合センター紀要*，16，滋賀大学教育実践総合センター：61-66.
- 中野正俊（2008）学校博物館の授業場面に限定した2×2要因分散分析．*日本動物園水族館教育研究会誌*，49，日本動物園水族館教育研究会．

【専門分野の著作】

- 中野正俊（2008）学校サテライト博物館事業の実践報告．*滋賀科学*，52，滋賀県高等学校理科教育研究会．
- 中野正俊（2008）博物館のサテライト化による理科・環境学習．*日本理科教育学会全国大会発表論文集*，日本理科教育学会：81.
- 中野正俊（2008）学校教育における昆虫学習の実践．*ジャン・アンリ・フェアブル*，東海大学出版会．

【一般向けの著作】

- 中野正俊（2008）年間1,000人を超える教員研修の実践、博物館のサテライト化による理科・環境学習．*授業ワークシート野生生物保存*，野生生物保全論研究会．
- 中野正俊（2008）湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「先生も博物館で研修」．*毎日新聞*，51，毎日新聞社：2008年5月27日．
- 中野正俊（2008）湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「未来のフェアブルさんを育てる」．*毎日新聞*，61，毎日新聞社：2008年9月2日．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中野正俊（2008年6月3日）琵琶湖のおいたちと集水域に住む人々の暮らし。草津市教育委員会初任者研修会，草津市教育委員会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年6月10日）滋賀県に採用された初任者に求められる環境学習観。初任者研修会，滋賀県教育委員会学校教育課，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年6月12日）滋賀県に採用された初任者に求められる環境学習観。初任者研修会，滋賀県教育委員会学校教育課，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年6月17日）滋賀県に採用された初任者に求められる環境学習観。初任者研修会，滋賀県教育委員会学校教育課，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年7月18日）琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関する実践的研究Ⅲ。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年7月21日）学校教育における昆虫学習の実際。日仏友好150年フェアブル100年記念シンポジウム，日仏共同フェアブルにまなぶ実行委員会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年7月28日）琵琶湖博物館における体験学習の実際と収蔵庫の役割。草津市教育委員会教育研究所教員研修，草津市教育委員会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年8月4日）琵琶湖博物館における体験学習の実際、特に化石の学習について。甲賀市教育研究所教員研修，甲賀市教育委員会，甲賀市立甲南中学校（滋賀県甲賀市），[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年8月8日）琵琶湖博物館における体験学習の実際、特に外来魚の解剖学習について。湖北町教育委員会教員研修，湖北町教育委員会，湖北町立湖北中学校（滋賀県東浅井郡），[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年8月19日）琵琶湖博物館における体験学習の実際と収蔵庫の役割。キャリア型理数教育事業教員研修，滋賀県教育委員会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年10月23日）博物館のサテライト化による理科・環境学習。野洲市教育委員会教員研修，野洲市教育委員会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年10月29日）博物館のサテライト化による理科・環境学習。近畿地区教育研究所研究連盟研修会，滋賀県教育委員会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年11月4日）琵琶湖博物館における環境学習 特にヨシ笛づくりについて。草津市立矢倉幼稚園研修会，草津市立矢倉幼稚園，草津市立矢倉幼稚園（滋賀県草津市），[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年11月23日）琵琶湖のおいたちと集水域に住む人々の暮らし。蒲生の考現倶楽部「紫の道」シンポジウム，大津市商工会議所，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年12月24日）博物館のサテライト化による理科・環境学習。環境教育施設ネットワークシンポジウム，環境省，福岡県福岡市環境センター（福岡県福岡市），[口頭発表]。
- 中野正俊（2008年12月26日）年間1,000人を超える教員研修の実際、博物館のサテライト化による理科・環境学習。科博に集う教員の日，国立科学博物館，国立科学博物館（東京都台東区上野），[ポスター発表]。
- 中野正俊（2009年1月9日）博物館のサテライト化による理科・環境学習。日本動物園水族館教育研究会研究大会，日本動物園水族館教育研究会，横浜上郷の森（神奈川県横浜市），[口頭発表]。
- 中野正俊（2009年2月14日）年間1,000人を超える教員研修の実際ならびに博物館のサテライト化による理科・環境学習。第2回ミュージアム・ティーチャーワークショップ，九州国立博物館、北九州市立自然史・歴史博物館、海の中道海洋生態博物館，北九州市立いのちのたび博物館（福岡県北九州市），[口頭発表]。
- 中野正俊（2009年2月24日）琵琶湖のおいたちと集水域に住む人々の暮らし。奈良県十津川村教員研修会，十津川村教育委員会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 中野正俊（2009年3月22日）博物館のサテライト化による理科・環境学習。しが環境教育教材開発研究会研修会，しが環境教育教材開発研究会，滋賀大学（滋賀県大津市），[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究Ⅲ」，(2008年度).

文部科学省学術振興会科学研究費 基盤研究(C)「博物館のサテライト化による学校再生と地域文化振興に関わる研究」(研究代表者：中野正俊)，研究代表者(2007～2009年度).

滋賀県総合教育センター平成20年度課題研究(環境教育に関する研究Ⅰ)「問題解決の喜びを実感できる授業展開の工夫」，研究委員(2008年5月～2009年3月).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年11月～2009年3月，滋賀の教師塾学生，指導実習受け入れ.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2008年5月～2009年3月，「プラばら・・・プランクトンでばらばらまんが」等9講座，「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業(毎月第2第4土曜日開催)，琵琶湖博物館，担当，14件，(はしかけグループ「びわたん」共同).

2008年4月～2009年3月，学校サテライト博物館設置事業，標本貸し出し事業ならびにアウトリーチ事業，滋賀県東浅井郡湖北町、甲賀市，担当，16件，(湖北町教育委員会、湖北町立朝日小学校、甲賀市教育委員会、甲賀市立佐山小学校 共同).

2008年4月～2009年3月，学校等標本貸出事業，標本貸し出し，琵琶湖博物館，担当，6件.

2008年10月～11月，指導者のための博物館利用講座，教員・地域活動指導者向け博物館講座，琵琶湖博物館，担当，4件.

他の博物館・機関等主催行事

2008年4月～2009年3月，学校団体向け体験学習，県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校，学校団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師.

2008年4月～2009年3月，一般団体向け体験学習，各団体，団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師.

2008年7月31日・8月6日，体験学習，滋賀県中学校理科部会，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，アドバイザー，2件.

2008年11月15日，体験学習(外来魚の解剖)・滋賀の教師として心得てほしいこと・・・琵琶湖環境をとおして・・・，滋賀県教育委員会，滋賀の教師塾，琵琶湖博物館，講師・コーディネーター，2件.

メディアへの協力

2008年6月18日，中日新聞，初任教員研修，インタビュー，(2008年6月17日取材).

2008年6月18日，朝日新聞，初任教員研修，インタビュー，(2008年6月17日取材).

2008年8月19日，ケーブルネットテレビ，キャリア型理数教育教員研修会，インタビュー，(2008年8月19日取材).

2008年8月20日，讀賣新聞，キャリア型理数教育教員研修会，インタビュー，(2008年8月19日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3件.

【企画調整活動】

JICA 博物館学研修集中コース，学校連携について，講師，2008年5月11日，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2008年4月～2009年3月，キャリア型理数教育推進事業，委員。

琵琶湖博物館では準備室の時代から学校との連携を重視した取り組みがなされており、現在も様々な事業が展開されている。今年度より琵琶湖博物館に赴任し、主に学校との連携に関する事業に携わる中で研究に取り組んだ内容について報告する。

1：研究テーマ

琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発

2：結果と考察

(1) 琵琶湖博物館の学校連携の類型

- ・短時間（1～2時間程度）の来館：展示見学（サポートシート）
→遠足や校外学習
- ・長時間の来館（3時間以上）：展示見学（サポートシート）＋実習や講義
→遠足や校外学習・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）・サイエンスパートナープロジェクト（SPP）・科学部への支援・自然調査ゼミナール
- ・継続的に来館：展示見学（サポートシート）＋実習や講義
→ミュージアムスクール、職場体験
- ・学校現場への支援：
→出前講座、サテライトミュージアム、理数大好き、出前教員研修
- ・学校教員への支援：
→指導者のための博物館活用講座、教員研修受け入れ、県中学校教育研究会理科部会、学校支援メニューフェア
学校の博物館活用の形態は多岐にわたるが、滞在時間や活用内容によって以上の5つの形態にまとめることができる。それぞれの活用形態に応じたサポートをしていくことが重要であり、事前に学校のニーズを十分くみ取る打ち合わせを心がけた。

(2) 今年度実施した体験学習プログラムの効果を調査するため、生徒および教師を対象に事後アンケートを実施した。

・県内中学校1年生178名

83%の生徒が楽しく学習できたと答え、77%の生徒が自分の知識や技術が増えたと答えている。また71%の生徒が難易度は適当であったと答えている。実施時間については69%の生徒が適当であったと答えている。わら細工は滞在時間の都合で通常より15分短い時間で実施したこともあり、およそ半数の生徒が「短すぎた」と答えた。

・体験学習実施校 担当教員（発送79校 回収61校）

100%の教員が児童・生徒は興味を持って受講できたと答え、98%の教員が児童・生徒の知識や能力の向上につながったと答えている。また91%の教員が難易度は適当であったと答えている。実施時間については90%の教員が適当であったと答えている。また、93%の教員が学校の学習計画にスムーズに組み込むことができたと答えており、質問項目のすべてにおいて肯定的な答えがほとんどを占めた。

3：これからの展望

現在多くの学校に提供しているプログラム（プランクトン観察、化石のレプリカ作り、よし笛作り、昔の暮らし体験、わら細工、外来魚解剖）に関しては、今までに十分練られてきた内容でもあり、定番プログラムとして問題なく実施していけると考えられる。今後、学校団体向けの体験学習プログラムとして琵琶湖博物館独自の施設である回転実験室を運用することを検討したい。

また、学校団体の受け入れ繁忙期には体験学習の申込みも集中し、多くの学校の申込みを断らざるを得ない状況

になっている。来館当日に体験学習が受け入れられない学校に対応するため、体験学習プログラムをキット化し、学校現場に貸し出すことを考えていきたい。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

飯住達也（2008年11月20日）琵琶湖博物館を利用した体験学習プログラム。滋賀県教育研究発表協議会（理科部会）、滋賀県中学校教育研究会理科部会、高島市立湖西中学校（滋賀県高島市）、[口頭発表]。

飯住達也（2009年3月20日）琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発。琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館、琵琶湖博物館、[口頭発表]。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年11月～2009年3月、滋賀の教師塾学生、指導実習受け入れ。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2008年4月～2009年3月、学校等標本貸出事業、標本貸し出し、担当、6件。

2008年5月～2009年3月、「プラバラ・・・プランクトンでばらばらまんが」等9講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（毎月第2第4土曜日開催）、琵琶湖博物館、担当、14件、（はしかけグループ「びわたん」共同）。

2008年8月5日、回転実験室で水槽実験を！、博物館講座、琵琶湖博物館、講師補助。

2008年8月6日、博物館実習、自然調査ゼミナール紹介、琵琶湖博物館、担当。

2008年10月～11月、指導者のための博物館活用講座、教員・地域活動指導者向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当、4件。

他の博物館・機関等主催行事

2008年4月～2009年3月、学校団体向け体験学習、県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校、学校団体向け体験学習、琵琶湖博物館、草津市、講師、74件。

2008年4月～2009年3月、一般団体向け体験学習、各団体、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、5件。

2008年6月10・12・17日、琵琶湖博物館での体験学習（プランクトン観察、外来魚解剖）、滋賀県教育委員会、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、3件。

2008年7月26日、琵琶湖博物館での体験学習、JTB、JTB ツアーコンダクター研修、琵琶湖博物館、講師。

2008年7月31日・8月6日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー、2件。

2008年8月12日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県教育委員会、環境学習研究協議会、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2008年8月13～15日、琵琶湖博物館での体験学習、茨木市教育研究所理科部会、臨地実習、琵琶湖博物館、コーディネーター。

2008年8月25日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県教育委員会、理科実習助手講座、琵琶湖博物館、講師。

2008年9月24日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県環境学習支援センター、企画者のための環境学習体験講座、琵琶湖博物館、講師。

2008年11月13日、職場体験学習、滋賀県立ろう話学校、職場体験、琵琶湖博物館、講師。

2008年11月15日、琵琶湖博物館における体験学習（プランクトン観察）、滋賀県教育委員会、滋賀の教師塾、琵琶湖博物館、講師。

2009年2月26日、琵琶湖博物館における学校連携、滋賀県教育委員会、理科支援員研修会、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2008年9月4日、琵琶湖博物館の学校連携について、静岡大学、琵琶湖博物館。

2009年2月1日、琵琶湖博物館の学校連携について、韓国環境財団、琵琶湖博物館。

2009年2月25日、琵琶湖博物館の学校連携について、台湾学校長視察団体、琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2008年11月28日、FM 滋賀、マイ・エコロ・スタイル、びわ湖・まるエコ・DAY2008 内容説明、(2008年11月28日取材)。

2008年12月1日、日本実務出版株式会社、E&C1月号、わくわく探検隊内容説明、(2008年11月15日取材)。

2008年12月28日、京都新聞、地方メディアとの連携における地域の環境教育推進事業、京都市立朱雀第四小学校環境学習対応、(2008年11月14日取材)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4件。

【企画調整活動】

JICA 博物館学研修集中コース、学校連携について、講師、2008年5月11日、琵琶湖博物館。

印刷物

【一般向けの著作】

太田佳恵 (2008) 湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「防虫対策は予防が肝心」. *毎日新聞*, 56, 毎日新聞社:2008年7月1日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山形佳恵 (2009年3月21日) IPM (総合的有害生物管理) の取り組みと課題－滋賀県立琵琶湖博物館の事例から－. 第88回近世古文書研究会, 全国歴史資料保存利用期間連絡協議会近畿部会, 奈良県女性センター (奈良県奈良市), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク, 琵琶湖博物館, 2件.

他の博物館・期間等主催行事

2008年6月15日, 平城宮跡へのまなざし－棚田嘉十郎が残したもの－, 奈良学セミナー, (財)奈良市生涯学習財団中部公民館, 講師.

メディアへの協力

2008年5月14日, 中日新聞, 害虫被害の古文書展示 現在の防虫取り組みも, 取材対応, (2008年5月13日取材).
2008年5月16日, 京都新聞, 古文書食う害虫を紹介, 取材対応, (2008年5月13日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料貸出情報の発信, 準備.

トピック展示情報の発信, 準備, 2件.

収蔵資料展示情報の発信, 準備, 3件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

小牧家資料の整理, 実施, 212点.

館蔵歴史資料の整理, 実施, 595点.

歴史資料写真・フィルムの整理, 実施, 約20点.

古書目録の入力, 実施, 17 件.
近江関係散逸古文書履歴入力, 実施, 4 件.
定期収蔵庫清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 10 回.
臨時清掃 (一時保管庫・収蔵庫廊下), 実施, 6 回.
定期清掃 (燻蒸室), 実施, 5 回.
定期清掃 (B 展示室), 実施, 34 回.
定期清掃 (低温収蔵庫・冷凍収蔵庫), 実施, 2 回.
大掃除 (B 展示室・C 展示室), 実施, 2 回.
虫カビ対策としての重点追加清掃 (低温収蔵庫・冷凍収蔵庫・トラックヤード・研究棟等), 実施, 6 回.
収蔵庫空間清掃体制の確認及び要望取り纏め, 実施.
IPM 対策としての年次計画の整備, 準備・実施.
防虫防黴調査, トラップ設置回収・考察作成・防虫対策立案, 3 回.
ブンガノン処理効果確認のための生物環境調査, トラップ設置・回収・考察作成, 2 回.
空中真菌調査委託, 準備・考察作成, 1 回.
防虫ブラシ・防虫網の設置, 企画・実施, 5 件.
地学収蔵庫内生物発生時の追跡調査, 企画・実施.
生物発見履歴の整備, 入力, 125 件.
「生物発生時の対応マニュアル」作成.
低酸素濃度殺虫処理, 実施, 3 件.
二酸化炭素殺虫処理, 実施, 2 回.
館蔵資料東寺文書指定のための調査, 準備・対応, 2 件.
館蔵資料 (東寺文書、近江六郡物産図説) の貸出, 対応, 2 件.
館蔵資料 (近江六郡物産図説、小牧家資料) の特別観覧, 準備・対応, 3 件.
pH 測定 (7 ヶ所), 実施, 11 回.
パッシブインジケータによる環境調査 (4 地点), 実施.
収蔵庫内温湿度記録計用紙交換 (10 ヶ所), 実施, 12 回.
展示ケース内温湿度記録計用紙交換及び湿度管理, 実施, 26 回.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 1 件.
2008 年 5 月 13 日～8 月 31 日, トピック展示「むしとこもんじょー資料保存と防虫対策一」, 企画・調査・準備・展示.
2008 年 7 月 19 日～8 月 31 日, 企画展関連展示「ぼくらのフェアブル昆虫記」文化財害虫コーナー, 企画・調査.
2009 年 9 月 2 日～9 月 28 日, 琵琶湖博物館 B 展示室, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第 1 回, 企画・調査・準備・展示.
2009 年 9 月 30 日～11 月 3 日, 琵琶湖博物館 B 展示室, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第 2 回, 企画・調査・準備・展示.
2009 年 11 月 5 日～12 月 24 日, 琵琶湖博物館 B 展示室, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第 3 回, 企画・調査・準備・展示.
2009 年 1 月 3 日～2 月 15 日, 琵琶湖博物館 B 展示室, お正月トピック展示「ウシいっぱい モーいっぱい!?', 企画・調査・準備・展示.
2009 年 1 月 3 日～2 月 15 日, 琵琶湖博物館アトリウム, お正月トピック展示「ウシいっぱい モーいっぱい!?', 歴史資料の部, 企画・調査・準備・展示.
2009 年 2 月 17 日～3 月 22 日, 琵琶湖博物館 B 展示室, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第 4 回, 企画・調査・準備・展示.
2009 年 3 月 24 日～4 月 26 日, 琵琶湖博物館 B 展示室, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう!」第 5 回, 企画・

調査・準備・展示.

B 展示室陳列替え, 実施, 7 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

2008年11月14日, 京都新聞, かぼちゃの顔 ユーモラス, ディスカバイベント紹介, (2008年11月9日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2008年4月～2009年3月, ディスカバリールーム維持管理・運営, 分担.

2008年4月～2009年3月, 「音の部屋」ザンビアの楽器展示, 担当.

2008年4月～2009年3月, 「世界のこどもたち」ザンビア展示, 担当.

2008年4月～11月, 「音の部屋」アジアの楽器展示, 担当.

2008年4月～5月, 「おばあちゃんの台所」子どもの日展示, 担当.

2008年4月～5月, イモリの幼生飼育展示, 担当.

2008年4月, ホタルの幼虫飼育展示, 担当.

2008年5月～9月, カイコ飼育展示, 担当.

2008年5月～7月, ヤママユガ飼育展示, 担当.

2008年5月, コイの稚魚飼育展示, 担当.

2008年6月～7月, 「おばあちゃんの台所」七夕展示, 担当.

2008年9月～11月, ヤモリ飼育展示, 担当.

2008年10月～11月, 秋の虫飼育展示, 担当.

2008年10月, キアゲハ飼育展示, 担当.

2008年11月～2009年3月, 「音の部屋」アフリカの楽器展示, 担当.

2008年11月, おちゃめなカボチャ, 企画・担当.

2008年12月～2009年2月, 水鳥の絵を描いてみよう～水鳥って色トリドリ!～, 企画・担当.

2009年1月, 「おばあちゃんの台所」お正月展示, 担当.

2009年1月～3月, イモリの幼生飼育展示, 担当.

2009年1月～3月, ヤゴ飼育展示, 担当.

2009年1月～2月, 「おばあちゃんの台所」節分展示, 担当.

2009年2月～3月, 「おばあちゃんの台所」ひな祭り展示, 担当.

2009年3月, キアゲハ飼育展示, 担当.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2008年7月～2009年3月, ディスカバリールーム維持管理・運営, 分担.
- 2008年7月～2009年3月, 「音の部屋」ザンビアの楽器展示, 担当.
- 2008年7月～2009年3月, 「世界のこどもたち」ザンビア展示, 担当.
- 2008年7月～11月, 「音の部屋」アジアの楽器展示, 担当.
- 2008年7月～9月, カイコ飼育展示, 担当.
- 2008年7月, ヤママユガ飼育展示, 担当.
- 2008年7月, 「おばあちゃんの台所」七夕展示, 担当.
- 2008年9月～11月, ヤモリ飼育展示, 担当.
- 2008年10月～11月, 秋の虫飼育展示, 担当.
- 2008年10月, キアゲハ飼育展示, 担当.
- 2008年11月～2009年3月, 「音の部屋」アフリカの楽器展示, 担当.
- 2008年11月, おちゃめなカボチャ, 企画・担当.
- 2008年12月～2009年2月, 水鳥の絵を描いてみよう～水鳥って色とりどり!～, 企画・担当.
- 2009年1月～3月, イモリの幼生飼育展示, 担当.
- 2009年1月～3月, ヤゴ飼育展示, 担当.
- 2009年1月～2月, 「おばあちゃんの台所」節分展示, 担当.
- 2009年1月, 「おばあちゃんの台所」お正月展示, 担当.
- 2009年2月～3月, 「おばあちゃんの台所」ひな祭り展示, 担当.
- 2009年3月, キアゲハ飼育展示, 担当.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2008年4月～2008年6月, ディスカバリールーム維持管理・運営, 分担.
- 2008年4月～2008年6月, 「音の部屋」ザンビアの楽器展示, 担当.
- 2008年4月～2008年6月, 「世界のこどもたち」ザンビア展示, 担当.
- 2008年4月～6月, 「音の部屋」アジアの楽器展示, 担当.
- 2008年4月～5月, 「おばあちゃんの台所」子どもの日展示, 担当.
- 2008年4月～5月, イモリの幼生飼育展示, 担当.
- 2008年4月, ホタルの幼虫飼育展示, 担当.
- 2008年5月～6月, カイコ飼育展示, 担当.
- 2008年5月～6月, ヤママユガ飼育展示, 担当.
- 2008年5月, コイの稚魚飼育展示, 担当.
- 2008年6月, 「おばあちゃんの台所」七夕展示, 担当.

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

青木伸子（2009年3月20日）博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた実証的研究。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)「博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた実証的研究」(研究代表者：青木伸子)，研究代表者 (2007～2008年度).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2008年4月～2009年3月，西堀榮三郎探検の殿堂運営協議会，委員.

今年度は、昨年度に引き続き、「博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた実証的研究」（文部科学省の科学研究費補助金の研究）において、博物館と博物館ボランティアがともに成長発展する“協働モデル”成立の可能性を探るため、九州国立博物館などにご協力いただき、ボランティア活動についての聞き取り調査を行った。博物館によって、博物館ボランティアへの期待や組織的な位置づけは異なり、“協働モデル”はすべての博物館に成立するものではないが、ボランティアのニーズを把握するコーディネーターの存在、ボランティアからの要望が博物館で実現できるしくみ、博物館とボランティアが対等に話し合うことができる場など、成立の可能性を高めると考えられる条件を明らかにすることができた。この研究成果についてまとめ、博物館と博物館ボランティアがよりよい関係を築くことに少しでも貢献できたらと考えている。

特別研究員

印刷物

【学術論文】

江口和洋・天野一葉 (2008) ソウシチョウの間接効果によるウグイスの繁殖成功の低下. *日本鳥学会誌*, 57 日本鳥類学会 : 3-10.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

Amano, H. , Koizumi, O. and Kobayakawa, Y. (1997) Morphogenesis of the atrichous isorhiza, a type of nematocyst, in Hydra observed with a monoclonal antibody. *Developmental Genes and Evolution*, 207 : 413-416.

江口和洋・天野一葉 (1999) 移入鳥類の帰化. *Japanese Journal of Ornithology*, 47 : 97-114.

Kawano, K. K. , Amano, H. E. and Eguchi, K. (2000) Sexual dimorphism of the Red-billed Leiothrix *Leiothrix lutea*. *Japanese Journal of Ornithology*, 49 : 59-61.

江口和洋・天野一葉 (2000) 移入鳥類の諸問題. *保全生態学研究*, 5 : 131-148.

Eguchi, K. , Amano, H. E. and Yamagishi, S. (2001) Roosting, range use and foraging behavior of the Sickle-billed Vanga in Madagascar. *Ostrich*, 72 : 127-133.

Amano, H. E. and Eguchi, K. (2002) Nest-site selection of the Red-billed Leiothrix and Japanese Bush Warbler in Japan. *Ornithological Science*, 1 : 101-110.

Amano, H. E. and Eguchi, K. (2002) Foraging niches of introduced Red-billed Leiothrix and native species. *Ornithological Science*, 1 : 123-131.

Eguchi, K. and Amano, H. E. (2004) Spread of exotic birds in Japan. *Ornithological Science*, 3 : 3-11.

Eguchi, K. and Amano, H. E. (2004) Invasive birds in Japan. *Global Environmental Research*, 8 : 29-39.

天野一葉 (2006) 干潟を利用する渡り鳥の現状. *地球環境*, 11 (2) : 215-226.

天野一葉 (2007) 外来鳥類の定着に影響する要因とソウシチョウの現状. *生物科学*, 58 (4) : 221-228.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Amano, H. E. (2008年10月3~6日) Shorebird population trends of Japan and comparative study among Asian countries. International Wader Study Group Annual Conference 2008, IWSG, Jastrzebia Gora (Poland), [ポスター発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

査読, *Ecological Research*, 1件.

特別研究員

印刷物

【学術論文】

植田文雄（2008）*古代の立柱祭祀*. 学生社, 東京：208p.

【専門分野の著作】

植田文雄（2008）邪馬台国と前方後方墳. *歴史書通信*, 117, 歴史書懇話会：1-3.

【一般向けの著作】

植田文雄（2008）湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「湖の道と陸の道－遺跡にみる近江の『交通力』」. *毎日新聞*, 45, 毎日新聞社：2008年4月8日.

植田文雄（2008）湖と人と一琵琶湖博物館からの発信－「近江の食文化・ナレズシの起源」. *毎日新聞*, 58, 毎日新聞社：2008年7月15日.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 研究部長.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年度春期, 佛教大学, 「博物館学Ⅲ」.

2008年度秋期, 佛教大学, 「博物館実習講義 A」.

2008年度, 佛教大学通信教育課程, 「博物館実習講義」.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006年度～, 東近江市史編纂委員会, 調査執筆委員.

印刷物

【学術論文】

上中央子（2008）花粉・種実化石からみた畿内地域における「人と植物の関係史」．京都造形芸術大学博士課程学位論文：96p.

【専門分野の著作】

宮本真二・上中央子（2008）庄内川低地、平手町遺跡における地形環境の変遷と遺跡立地．国際航業株式会社文化事業部，平手町遺跡第4次発掘調査報告書，名古屋市健康福祉局：110-117.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

上中央子・大庭重信・宮本真二（2008年6月20日）花粉・種実分析からみた耕地の利用—大阪市長原遺跡（NG02-8次調査）における奈良時代の畝状遺構を例として—．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，2件．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 大西 拓・太田英利 (2008年10月25日) 同所的に生息するハナサキガエル類2種における活動、繁殖、成長について. 第47回日本爬虫両棲類学会, 日本爬虫両棲類学会, 栃木県総合教育センター (栃木県宇都宮市), [口頭発表].
- 大西 拓・角田正美・山本拓良・西垣孝治・新里仁奈 (2008年11月26日) コガタハナサキガエルの野外での生態と水槽内繁殖. 第53回水族館技術者研究会, 日本動物園水族館協会, 大分全日空ホテル (大分県大分市), [口頭発表].
- 大西 拓・太田英利 (2009年3月14日) 石垣島における同所的に生息するハナサキガエル2種の活動性と場所利用. 平成20年度琉球大学21世紀COEプログラム成果発表会, 琉球大学, 琉球大学 (沖縄県西原町), [ポスター発表].

特別研究員

印刷物

【学術論文】

北村美香（2009）博物館のキャリア形成支援機能に関する博物館学的研究（学位申請論文）．京都橘大学：119p.

【専門分野の著作】

金尾滋史・北村美香（2009）滋賀県における自然化学系博物館連携の取り組みー「博物館による環境と科学のフェスティバル」の実施とその過程ー．*博物館研究*, 44（3）,（財）日本博物館協会：28-32.

北村美香（2009）開催主旨・趣旨説明と問題提起・「博物館を楽しむためのボランティア」の趣旨説明とびわたん．布谷知夫 編, *琵琶湖博物館セミナー・ボランティア・コーディネーター養成講座「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」*：3・61-63・85-93.

【一般向けの著作】

北村美香（2008）湖と人とー琵琶湖博物館からの発信ー「見つめ直そう湖とのかかわり」．*毎日新聞*, 52, 毎日新聞社：2008年6月3日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

北村美香（2008年9月19日）博物館のキャリア形成支援機能に関する博物館学的研究．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

北村美香（2009年2月3日）びわたんの活動と展示室での「すごろく」の実施．琵琶湖博物館特別研究セミナー「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」，琵琶湖博物館，[口頭発表].

北村美香（2009年3月29日）びわたん活動報告，第2回淡海の川づくりフォーラム，コラボしが21（滋賀県大津市），[口頭発表].

【受賞など】

全日本博物館学会奨励賞，2008年6月15日，「博物館における広報活動の実態とその役割」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2008年5月～2009年3月，プラぱらープランク トンでぱらぱらまんがー他8講座，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師，13件.

2008年8月7日，偏光スコープをつくろう，第32回自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師.

2008年12月21日，烏丸半島の水鳥を見てみよう，観察会，琵琶湖博物館・草津市，講師.

2009年2月17・24日，琵琶湖博物館サテライトミュージアムワークショップ，佐山小学校・滋賀県甲賀市，講師.

2009年3月8日，びわたん活動紹介，はしかけ交流会，琵琶湖博物館。

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月3・4・5日，魚にさわってみよう，ゴールデンウィークフェスタ2008，水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶（滋賀県大津市），講師。

2008年8月3日，偏光スコープをつくろう・くるくる☆カラフルたねとばし，環境と科学のフェスティバル実行委員会，環境と科学のフェスティバル，ビバシティ彦根（滋賀県彦根市），講師。

2008年8月8日，コイの咽頭歯標本作製，平成20年度湖北町教職員研修会，湖北中学校（滋賀県湖北町），講師。

2008年10月4日，年輪でポン！，第3回森づくり交流会ふれあいフェスタ2008，滋賀県，滋賀県立近江富士花緑公園（滋賀県野洲市），講師。

2008年10月～11月，化石のレプリカをつくろう，文部科学省，理科大好き事業，瀬田中学校（滋賀県大津市），講師，計3回。

2008年11月22・23日，環境学習，瀬田北中学校（滋賀県大津市），講師。

2009年2月1日，水の中の風景を写そう，BYQネットワークの集い2009，水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶（滋賀県大津市），講師。

2009年3月12日，環境学習，滋賀大学附属中学校（滋賀県大津市），講師。

視察対応

2008年5月24日，びわたん活動紹介・館内案内，学生ボランティア「瀬田川カフェ」，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2008年7月8日，京都新聞，ひとまちフォーカス，インタビュー（2008年7月3日取材）。

2008年7月11日，読売新聞，しが県民情報，インタビュー（2008年7月5日取材）。

2008年7月22日，NHK 大津放送局，おうみ発610・びわこクローズアップ，出演。

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

文化庁，市民から文化力ホームページ，原稿執筆。

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

黒岩啓子（2009）欧米のミュージアムボランティアの活動と運営．布谷知夫 編，琵琶湖博物館セミナー・ボランティア・コーディネーター養成講座「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」：21-31.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

黒岩啓子（2008年12月18日）ジョージワシントン大学大学院博物館教育学科長キャロル・スタッフ講演「だれのために、何をする？博物館の教育活動」．琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[開催準備・講演補助].

黒岩啓子（2009年1月28日～29日）石川県金沢市内ミュージアム視察研究会．関西博物館研究会，[コーディネーター].

黒岩啓子（2009年2月2日～3日）欧米のミュージアムボランティアの活動と運営．琵琶湖博物館セミナー・ボランティア・コーディネーター養成講座「博物館ボランティアとそのコーディネーターの役割」，琵琶湖博物館，[口頭発表].

黒岩啓子（2009年3月21日）2008年度第2回関西例会「関西の博物館のこれからを考える」Part2．日本ミュージアム・マネジメント学会近畿支部，桃山学院大学中之島サテライトキャンパス（大阪府北区），[広報].

黒岩啓子（2009年3月28日）これからの博物館運営を担う人材養成と大学教育の可能性．日本ミュージアム・マネジメント学会基礎部門研究部会，平成20年度第2回研究会「これからの博物館政策・経営を考える」，科学技術館（東京都千代田区），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

国立民族学博物館文化資源プロジェクト「博物館利用者参加による展示解説パネル文案に関する調査」（研究代表者：佐々木 亨），調査業務委託（2008年6月～2008年9月）.

国立民族学博物館文化資源プロジェクト「特別展‘アジアとヨーロッパの肖像’における観覧者調査」（研究代表者：佐々木 亨），調査業務委託（2008年10月～2009年3月）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

関西博物館研究会，座学担当.

博物館事業に関する業績

【研究部関連事業】

2009年1月15日，JICA ヨルダン王国国立博物館援助プロジェクトに対する意見交換，琵琶湖博物館.

2009年度琵琶湖博物館企画展示，企画会議出席，5件，琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2008 年度，西堀榮三郎記念探検の殿堂，運営協議会委員。

日本では学校行事の一環としてミュージアムを訪れることが、ミュージアムと接するかなり初期の体験となっている。そのため、博学連携に関する研究も進められている。しかし、現実には見学時間の制約などの理由から、子どもたちは館内を小走りにぎっと見て回るだけで、展示と十分なかかわりを持つことができず、「ミュージアムはつまらないところ」、「学校の授業から離れられる息抜きの場」という印象だけが残り、再度来館してみようという気持ちになるような体験を得ることが難しい場合が多い。

さらに、アメリカでは学校のグループで来館する子どもたちよりも、家族と一緒に来た子どもたちの方が、おとなになっても来館者になるという非常に興味深い来館者調査結果がある（ウィリアムス、2006）。学校グループで来館する場合とファミリーグループで来館する場合で、子どもたちの博物館展示体験に大きな違いがあり、その影響は長期的に及ぶことがわかる。

このことから、ファミリーグループでの来館において、コミュニケーションの質をさらに深めるためのきっかけ・媒体となる展示見学補助ツールがあれば、子どもたちの展示体験も豊かになり、将来的にリピーターとしてミュージアムに戻ってくるのではないかという考えに至った。

そこで「博物館におけるコミュニケーションと学びについて：モノ、情報、人との相互関係に関する研究」を進めるにあたり、2009 年度の企画展示「骨の記憶」を実践研究の場として、ファミリーグループのコミュニケーションツールとしての展示見学補助ツールを開発・検証することにした。2008 年度はそのための研究と準備を主に行った。

また、ボランティア、コーディネーター、学芸員という博物館に関わる人材について、国内外の事例からこれらの人材養成に関する考察を行い、研究発表を行った。特にボランティアに関しては、セミナーでの討議をもとに、今後もさらに考察を進めたいと考えている。

特別研究員

印刷物

【学術論文】

- 中井大介・大塚泰介・中原紘之・中野伸一（2009）人工水路において添加された微細粒子の堆積が付着藻類の群落構造に与える影響, *陸水学雑誌*, 69, 陸水学会：209-221.
- Yamamoto, Y. and Nakai, D. (2009) Monitoring individual growth of *Tilapia* (*Oreochromis niloticus* and *Tilapia zillii*) in an artificially heated river. *Aquaculture Science*, 57, Japanese Society for Aquaculture Research：109-116.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中井大介（2008年7月18日）ヨシのシュートに付着した珪藻群落の二次遷移. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中井大介・大塚泰介（2008年8月4日）ヨシのシュートに付着した珪藻群落の二次遷移. バイオフィルム合同研究報告会, 立命館大学エポック立命 21（草津市）, [口頭発表].
- Ohtsuka, T., Nakai, D., Nakamura, Y., Morisaki, H., Yoshinaga, I. and Imai, I. (2008年6月1日) Algal assemblages on submerged reed stems and influence on microbial activities. 5th International Conference Interfaces Against Pollution 2008, Kyoto University (Kyoto), [口頭発表].
- Imai, I., Yan, R., Kihara, K., Yamamoto, Y., Nakai, D. and Ohtsuka, T. (2008年11月3日) Discovery of abundant existence of *Microcystis*-killer bacteria in biofilm on submerged reed stems in Lake Biwa: Possibility of reed community for control of *Microcystis* bloom. The 13th International Conference on Harmful Algae, The open university of Hong Kong (Hong Kong), [口頭発表].
- 大塚泰介・中井大介（2008年12月24日）琵琶湖岸におけるヨシ付着珪藻群落の遷移と季節変化. 琵琶湖の水質と環境浄化に関する研究報告会, 京都大学農学研究科旧演習林（京都市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 財団法人発酵研究所特定研究助成「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明－有用微生物の探索と応用－」（研究代表者：今井一郎）, 研究補助（2008年度～）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2008年度前期, 龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科, 自然観察実習.
- 2008年度後期, 龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科, 野外観察実習.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

- 琵琶湖博物館の主催行事

はしかけたんさいぼうの会，総会，4 回開催，琵琶湖博物館・草津市，運営補助.
はしかけたんさいぼうの会，調査，2 回実施.

他の博物館・機関等主催行事

2008 年 4 月 27 日，水辺の楽校，びわこ豊穰の郷，守山市ほたるの森資料館（滋賀県守山市），講師.

特別研究員

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中尾博行（2008年10月17日）サカナのタマゴに配慮した瀬田川洗堰操作に向けての課題．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明（研究代表者：水野敏明），共同研究者（2006～2008年度）．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2009年2月14日，琵琶湖のブルーギルの現状，新琵琶湖学入門セミナー，琵琶湖博物館，講演．

他の博物館・機関等主催行事

2008年6月23日，竜王南部水質保全池の生きもの調査，観察会，水土里ネット日野川流域・滋賀県東近江地域振興局（滋賀県日野町），講師．

2008年7月1日，桜谷小学校田んぼとため池の生きもの調査，観察会，水土里ネット日野川流域・滋賀県東近江地域振興局（滋賀県日野町），講師．

2008年9月30日，琵琶湖のお魚講座，NPO法人旅するお魚サポーター，琵琶湖と田んぼを旅する水辺の生きものシンポジウム，湖北文化交流センター（滋賀県湖北町），講演．

2009年1月10日，琵琶湖における市民による魚類産卵調査，淀川水系イタセンパラ研究会・タナゴ集会・城北わんどイタセンパラ協議会，第4回全国タナゴサミット，大阪市中央公会堂（大阪府大阪市），ポスター発表．

2009年3月24日，水中から見た琵琶湖，（社）びわこビジターズビューロー，びわこビジターズビューロー研修会，琵琶湖汽船環境学習船「めぐみ」，講演．

メディアへの協力

2008年4月3日，京都新聞，未来人「琵琶湖情報 愛情込め発信 水のめぐみ館アクア琵琶学芸員中尾博行さん」産卵調査などの活動取材，（2008年3月31日取材）．

2008年4月5日，朝日新聞，カムバック！ビワマス「南湖の名物に」市民ら放流作戦，ビワマスの水中写真提供，（2008年4月1日取材）．

2008年4月21日，NHK 天津放送局，おうみ発 610「おうみ人街道」，産卵調査についてインタビュー，（2008年4月21日取材）．

2008年10月8日，京都新聞，びわこ探景「開発地臨む揺りかご」，新浜田んぼ池についてコメント，（2008年10月1日取材）．

2009年1月24日，日本テレビ，世界一受けたい授業「動物達も恋愛に必死だった！生き物のモテる技術」，外来魚の水中映像提供，（2009年1月17日取材）．

2009年3月5日, NHK 大津放送局, おうみ発 610「卵を外来魚から守る」, 外来魚の水中映像提供, (2009年2月28日取材).

【展示活動】

他博物館・機関の活動

水のめぐみ館アクア琵琶, 2008年4月～2009年3月 (随時更新), 魚類産卵情報の展示と卵・仔魚の展示および来館者への解説.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2008年4月～2009年3月, 水のめぐみ館アクア琵琶, 環境担当技術者.

2008年4月～2009年3月, NPO 法人旅するお魚サポーター, 理事.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

野嶋宏二（2009年1月16日）キンブナとギンブナ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ・オオキンブナ・ナガブナの鰓
骸骨の形態. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

特別研究員

印刷物

【一般向けの著作】

水野敏明（2008）琵琶湖エコリージョン．大澤雅彦 監修・（財）日本自然保護協会 編，生態学からみた自然保護地域とその多様性保全，講談社，東京：214-215.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

水野敏明（2008年8月22日）ニゴロブナの農業水路への遡上要因の検討．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

水野敏明（2008年10月5日）ニゴロブナ親魚の接岸と水路への遡上「ニゴロブナの接岸と農業用水路への遡上要因の検討」．琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

水野敏明（2009年3月17日）ニゴロブナの接岸と農業用水路への遡上要因の検討．第56回 日本生態学会全国大会，日本生態学会，岩手県立大学（岩手県滝沢村），[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明（研究代表者：水野敏明），研究代表者（2006～2008年度）.

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明－ニゴロブナを媒体として－」（研究代表者：前畑政善），共同研究者（2007年度～）.

総合地球環境学研究所「東アジアの内海の新石器化と現代化：景観の形成史」（プロジェクトリーダー：内山純蔵），共同研究員（2007年度～）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2008年5月18日・7月21日，水辺の生き物観察会，虎姫町大寺自治会，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト地域支援事業，虎姫町大寺公民館（滋賀県東浅井郡），お魚解説講師，2件.

2008年6月14日，WWFの琵琶湖エコリージョン（生態域）保全活動，琵琶湖市民大学，琵琶湖調査報告会－温暖化と降雪量の減少が琵琶湖に与える影響調査－，京大会館（京都市），講師.

2008年6月15日・8月2日，ホテル観察会・芹川生き物観察会，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト自然観察会，ブリヂストン彦根工場（彦根市），お魚解説講師，2件.

2008年6月23日，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト説明，株式会社ブリヂストン，ブリヂストングループ環境大賞表彰式，ブリヂストン美術館（東京都中央区），発表補助.

2008年7月12日，水辺の生き物観察会，豊郷町吉田自治会，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト地域

支援事業，豊郷町吉田公民館（豊郷町），お魚解説講師。

2008年7月19日～8月31日，琵琶湖の生き物大集合！！～琵琶湖博物館もやってきた～，多賀町立博物館・多賀の自然と文化の館，多賀町立博物館・多賀の自然と文化の館企画展，多賀町立博物館・多賀の自然と文化の館（多賀町），コーディネーター。

2008年7月21日，水辺の生き物観察会，長浜市八島町自治会，WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト地域支援事業，八島町公民館（滋賀県長浜市），お魚解説講師。

2008年8月3日，博物館による環境と科学のフェスティバル，環境と科学のフェスティバル実行委員会，博物館による環境と科学のフェスティバル，ビバシティ彦根（彦根市），コーディネーター。

2008年8月6日，自然体験教室，アニマルプラネットジャパン株式会社，グリーンカレッジ2008 琵琶湖，マイアミ浜キャンプ場（野洲市），お魚解説講師。

2008年10月28日，琵琶湖プロジェクトの紹介，WWF ジャパン，第10回ラムサール条約締約国会議（COP10），韓国昌原（チャンウォン）市，プロジェクト解説。

メディアへの協力

アニマルプラネットグリーンカレッジ（産経新聞、ベネッセ、スカイTVなど），（2008年8月6日取材）。

2009年3月11日，ナショナルジオグラフィック WEB 版。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2009年3月，ふれあい体験室のリニューアル，コーディネーター。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2007年8月～，国土交通省 第3次淀川水系流域委員会，委員（環境・魚類）。

総合研究・共同研究による印刷物

- 有田重彦・大塚泰介 (2008) *Eunotia serra* Ehrenb. のサイズ減少に伴う殻形態の変化, 特に波形の変化について. *Diatom*, 24, 日本珪藻学会 : 42-50.
- Blakemore, R. J. (2008) Review of Criodrilidae (Annelida: Oligochaeta) including *Biwadrilus* from Japan. *Opuscula Zoologica*, 37, Department of Systematic Zoology and Ecology, Eötvös Loránd University (ELTE) : 11-22.
- Foissner, W., Kusuoka, Y. and Shimano, S. (2008) Morphology and gene sequence of *Levicolleps biwae* n. gen., n. sp. (Ciliophora, Prostomatida), a proposed endemic from the ancient Lake Biwa, Japan. *The Journal of Eukaryotic Microbiology*, 55 (3), International Society of Protistologists : 185-200.
- Hirose, M., Dick, M. H. and Mawatari, S. F. (2008) Molecular phylogenetic analysis of phylactolaemate bryozoans based on mitochondrial gene sequences. Hageman, S. J., Key, M. M. Jr. and Winston, J. E. (eds), *Bryozoan Studies 2007. Proceedings of the 14th International Bryozoology Association Conference, Boone, North Carolina, July 1-8, 2007. Virginia Museum of Natural History Special Publication*, 15, Virginia Museum of Natural History : 65-74.
- Ji, D. and Kusuoka, Y. (2009) A description of *Apocarchesium rosettum* n. gen., n. sp. and a redescription of *Ophrydium eichornii* Ehrenburg, 1838, two freshwater peritrichous ciliates from Japan. *European Journal of Protistology*, 45, Elsevier : 21-28.
- 金尾滋史・大塚泰介・前畑政善・鈴木規慈・沢田裕一 (2009) ニゴロブナ *Carassius auratus grandoculis* の初期成長の場としての水田の有効性. *日本水産学会誌*, 75 : 191-197.
- 木原靖郎・佐橋保司・大塚泰介 (2008) 比良山系小女郎ヶ池の珪藻. *Diatom*, 24, 日本珪藻学会 : 73-79.
- 牧野厚史 (2008) 社会学・農村社会学の研究動向. *村落社会研究*, 44 : 279-295.
- Moravec, F., Scholz, T., Kuchta, R. and Grygier, M. J. (2008) Female morphology of *Philometra parasiluri* (Nematoda: Philometridae), an ocular parasite of the Amur catfish *Silurus asotus* in Japan. *Acta Parasitologica*. 53 (2), W. Stefanski Institute of Parasitology, Polish Academy of Sciences : 153-157.
- Nagata, N., Kubota, K., Yahiro, K. and Sota, T. (2007) Mechanical barriers to introgressive hybridization revealed by mitochondrial introgression patterns in */Ohomopterus/* ground beetle assemblages. *Molecular Ecology*, 16: 4822-4836.
- 島野智之・三好孝和 (2008) 日本国内から記録された自由生活性原生生物の文献目録 - 繊毛虫類と有殻アメーバ類を中心として - (暫定版2008年4月現在). *日本原生動物学会誌 (Japanese Journal of Protozoology)*, 41 (2), 日本原生動物学会 : 133-152.
- Shimano, S., Sanbe, M. and Kasahara, Y. (2008) Linkage between light microscopic observations and molecular analysis by single-cell PCR for ciliates. *Microbes and Environment*, 23 (4), 日本微生物生態学会 : 356-359.
- Smith, R. and Janz, H. (2008) Recent species of the Family Candonidae (Ostracoda, Crustacea) from the ancient Lake Biwa, Central Japan. *Journal of Natural History*, 42 (45-48), Taylor & Francis : 2865-2922.
- Tomikawa, K., Morino, H. and Ohtsuka, S. (2008) Redescription of a subterranean amphipod, *Pseudocrangonyx shikokunis* (Crustacea: Amphipoda: Pseudocrangonyctidae) from Japan. *Species Diversity*, 13 (4), 日本動物分類学会 : 275-286.

*編集者注：著者の順番は、様々な分野で異なった様式があると思われるが、分野等は考慮せず、アルファベット順に並べた。

2008 年度の研究活動をふりかえって

今年度は、琵琶湖博物館中長期基本計画の第二段階 4 年目となり、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかるため、特に二つの目標値を掲げて事業を進めてきた。

一つは、琵琶湖博物館が行う研究課題の内容、位置づけ、方法等の指針作成。二つめは学芸職員全員の科学研究費申請であった。

前者は、年度末に「琵琶湖博物館が当面行うべき研究の方向性」としてとりまとめ、主に研究の領域、研究の体制、県の施策との関係、琵琶湖博物館での研究機能の 4 つの視点から検討を行った。ただ、具体的な類例や方策が不十分であり、2009 年度も引き続きその内容についての具体的検討を行っていく予定である。また、後者は、2007 年度が 18 件の申請中、採択 1 件であったものが、30 件の申請をあげることができ、その書類の内容精査も行ったことから 6 件が採択されることとなった。特段の事情のあるものを除いて、ほとんどの学芸職員が科研費の申請を行ったところであるが、さらに全員申請という目標に向かって努力するとともに、採択率を上げられるよう応募書類の内部審査や検討も充実させていきたい。

2007 年度に比べると研究事業予算が 54%減額という中で、今後、ますます外部研究資金の獲得が必要になってくるが、一方で間接経費等の支出ルール作りも求められるようになってきている。

研究の発信は、学術論文 44 件、専門分野の著述 36 件、一般向けの著述 40 件、学会発表は 83 件であり、一般向けの著述を除いて前年を数では上回ったが、論文等による研究成果の発信数にもまだ個人差がある。

琵琶湖博物館研究発表会は、「琵琶湖畔の水田をニゴロブナの目線から見ると題して、総合研究の成果のわかりやすい公表を行い、外部講師による特別研究セミナーを 4 回、学芸職員を中心とした研究セミナーを 12 回開催して、成果の発表と研究交流を行った。

また、本年度は、新琵琶湖学入門セミナーと題して、博物館の閑散期にあたる 12 月から 3 月まで計 12 日間にわたって、内部・外部の講師による講座を開催し、毎回 100 人近くの聴衆を集めるなど好評であった。今後、こうした人々が琵琶湖博物館を支える基礎単位となっていくと考えられ、さらに拡充していくため引き続き今後の研究成果公表等の企画が望まれる。

特別研究員は増加して 11 名となり、一部、セミナーでも研究成果発表を行ったところである、今後も学芸職員とともに互いの研究能力向上にむけて切磋琢磨していく必要がある。

その他、2007 年度末から 2008 年度にかけて、新たな 3 名の学芸職員の学位（博士号）取得者が生まれた。うち 2 名は社会科学であり、最近は特に人文・社会科学系の学位取得者の増えていることが特徴でもある。

研究部長 用田政晴

琵琶湖博物館業績目録 第 13 号

2008 年度

平成 21 年（2009 年）8 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

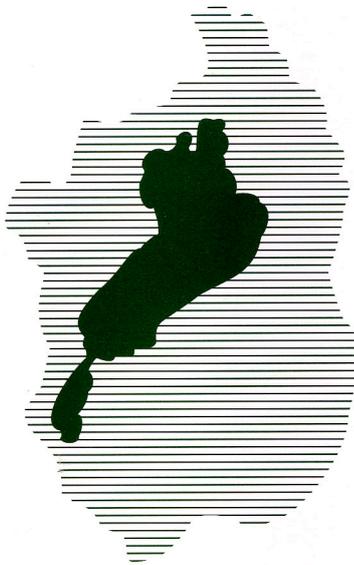
発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

電話 077-568-4811(代)

Performance Records of the Lake Biwa Museum

No. **13** Fiscal 2008



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 草津市下物町1091
TEL.077-568-4811代 FAX.077-568-4850

LAKE BIWA MUSEUM
1091 Oroshimo,Kusatsu,
Shiga 525-0001,Japan